

大正十四年三月十日

米子町町會議員 落 合 恒 雄

## 第三節 水源地工事

## (イ) 取水井及連絡管

取水井及連絡管は、當初の計畫としては、堤防に沿ひて、三百九十尺の間隔を隔てし、内徑十五尺、水深十一尺の煉瓦二枚積、井戸二個に設置し、内徑一尺五寸の混凝土管に依りて、兩者を連絡し、更に下流の井戸に隣接して、唧筒吸水井を設け、内徑十四吋、鐵管長三十尺に依りて、流入せしむる豫定であつたが、更に研究の結果、取水井及唧筒井は、周壁煉瓦積を鐵筋混凝土造、深十八尺に、又連絡管は、内徑一尺五寸を、將來擴張すべき時あるを見込み、内徑二尺、長二尺の**モルタル**管に變更した。そして愈取水井及唧筒井等の工事に着手した。以下其の概況を記すれば左の如し。

取水井及唧筒井並に連絡管敷設位置丘掘は、上流の取水井より始め、平均深さ三尺迄掘鑿を爲して、其以下湧水層は、水中作業に依りて、此等掘鑿が全體の七割を進行した頃より、取水井沈下に着手した。各井戸は**ウエルシユウ**を製作し、其上に先づ高六尺の鐵筋型板を組立て、第一回混凝土

土打を爲し、而して混凝土の硬化するを待ち、型板を取離して、鋤簾を使用し、井内水底の砂を掘り**ウインチ**にて捲き上げて、其砂を井戸の上面に敷きたる受板上に、積み上げることとし、其重量に依りて、井戸側の沈下するを助け、かくして最初の井戸側沈下を終れば、更に上部に、繼足工法に依りて、其の沈下を圖り、かくして豫定の深さ迄到達せしめた。取水井沈下が完了してから、其の連絡管の埋設に着手した。

連絡管の埋設は地面下十尺を掘鑿し、長二間半の矢板を打ち、切張工を施行し、七馬力半電動唧筒二基を以て、水替を爲しつゝ施工せんとしたが、湧水甚しくして、工事意の如く進行せず、遅々たる憾禁じ能はざりしも、更に十馬力電動唧筒壹基を購入し、前者と合して三基、水替を爲しつゝ、作工した爲、漸く豫定の深さ迄、掘鑿することを得た。

次で松丸太造梯子胴木を置き、其上に**モルタル**管を空接きとして沈設し、周圍に砂止栗石工を施して埋戻を了した。尙取水井戸の底部には洗砂利厚三尺を沈積して、地下水の湧湧するに際し、細砂の噴出せるを防ぎて、後各井戸に、鐵筋混凝土覆蓋を取り付けて、人孔を設け、高三尺通り、埋設物保護の爲、土盛を爲し、煉積土留石垣を施した。

## (ロ) 唧筒井及上家並に公舎

唧筒井も、亦取水井と、相似な構造であるけれども、其の異なる點を擧ぐれば、底磐に厚二尺五



寸の水中混凝土を施し、其の中央に、連絡鐵管を出したことである。又導流壁としては、井内に内徑四尺五寸の同心圓の混凝土壁を築造して、井側に向ひ、四個の光線狀隔壁を設け、一方に唧筒の吸水管を取り付け、上部は六吋I型鐵桁三條を架し、厚三分の鐵板を以て覆蓋し、液體鹽素滅菌装置を施設した。

唧筒場は、將來の擴張を見込み、五基の唧筒を据付くるに、支障を來たさない様、建坪五十坪八の鐵筋混凝土平家建とし、其周圍は現在地面の地盤以上、約十二尺餘の盛土を施して、堤防に隣接させ、周圍に高三尺五寸の鐵柵を繞らした。

唧筒場上家上部は、バルコニー式とし、窓高四尺一寸に開き、床面は、洪水の時の水位を考慮して、總て混凝土造り防水モルタル塗とした。此の總工費壹萬四千三百九十四圓貳錢にして、大正十四年八月十四日に、工事に着手し、翌大正十五年六月二十九日に竣工した。

水源公舎は、木造瓦葺平家建貳戸を一棟とし、附屬物置及浴場共、總建坪參拾五坪である。其周圍は、現在地盤以上約六尺餘の盛土を施して、唧筒場に通ずる幅員五尺の通路を築造した。此れに要したる費用は、總計參千五百貳拾圓拾壹錢にして、工事に着手したのは、大正十三年十二月十九日、其の竣工したのは、大正十四年一月三十一日である。

#### (ハ) 構内整地工事

構内は、日野川堤防に沿ひ、西方に位して、縦一四〇間、横四四間五、總面積六千貳百參拾參坪である。周圍には、植うるに柂壹千九百參拾本を以てし、猶鐵條網を繞らして、周圍の柵とした。構内建物の敷地を除きたる空地には、全部に互りて、松・かいづか・さつき等、壹千參百本を植え、堤防より唧筒場及公舎に至る通路の兩側には、多枝松七拾七本、以上總計參千參百七本を植樹して、水源地としての風致を保護依存すると同時に、水質の保全と、自然的淨化とに資することとした。

#### 第四節 送水鐵管敷設

送水管は、市内人口五萬人に對する消費水量を假定し、毎秒二立方尺三一を送水せんが爲に、内徑十四吋鐵管を埋設した。

而して其の送水線路は、車尾村車尾字古池水源地構内より南西に向つて、同村字觀音寺俗稱觀音寺山々頂配水池に至る一直線にして、平坦なる田面を通過し、米川及新開川を横斷し、觀音寺山々麓より、急勾配にして山頂に達す、幅員一間延長五百貳拾六間である、敷設工事に着手したるは、大正十四年三月三日にして、一時用地外、兩側幅員二間を借り上げて、鐵管を配列し、土置場を設け、丁掘を開始した。然るに地勢の關係上、伏流水の湧出甚しく、之を掘鑿すること一方ならず困



難を極めたが、之に加ふるに地質も亦軟弱にして、設備した矢板の倒潰、頻々として起り、豫定の通り工程進行せず、まことに遅々たる感があつたが、漸くにして鐵管の敷設を終り、而して埋戻整地の上、其水路には、土管及混凝土開渠を以て、用水溝に連絡し、用地の兩側には、石垣を施して盛土し、かくして一切の工事を終了した。時は大正十四年六月三十日である。

### 第五節 配水池

配水池は、車尾村大字觀音寺、觀音寺山頂を掘鑿して、之を構築した。其の貯水量は、市内人口五萬人に對する十二時間分水量の三分の二、即六萬六千六百六十七立方尺を貯溜せんが爲に、内法方四十八尺、有效水深十五尺のもの二個として設定し、而して其注入管は、内徑十二吋、流出管は内徑十四吋、溢流及排泥管は、内徑十二吋鐵管とした。

配水池掘鑿は、本上水道敷設工事劈頭に於ける請負であつた。各方面の期待も強かつたが、公入札の結果、多大なる開きを以て、豫定の金額に達せなかつた。之は私に請負入札者が、談合せるの疑があつたので此に之を中止することとし、更めて當業者を指名し、入札せしめた。遂に奈良縣北葛城郡箸尾村大字萱野、廣橋彌太郎に落札して、總工費壹萬九百八拾圓で、請負契約を締結することとし、同年同月十二日工事に着手した。

掘鑿せんとする地盤の地質は、硬質の火山灰層であつて、所々軟岩の出づることもあつたが、豫定の通り着々進行して、所定の深さに掘鑿することを得た。

構造物は、總て直營の工事とし、右掘鑿完了後、基礎地形に配合一・三・六・の混凝土、厚三寸を施し、型板及鐵筋を組立て、後總て配合一・二・四・の混凝土を以て、池體を築造し、中央に六尺の通路を設け、順次に扶壁・隔壁・導流壁及附屬鐵管取付を終りて、内外面共シルベスターレンダーリングを爲し、漏水止の安全を期した。

覆蓋は、扶壁を支臺として、導流壁を支脚とする、鐵筋混凝土造にして、換氣孔一池に八個と、出入口二箇所を設け、覆蓋上部には、厚二尺の盛土及張芝を施し、周圍に幅壹尺五寸、深八寸の玉石張り、下水溝を造つた。

尙各池に、電氣裝置水位表示機を取り付け、配水池貯水量を事務室に表顯することとした。而して市街配水管に流下する配水量をも、測定記録する十六吋ウエシチユリメーターをも併置した。

配水池専用道路は、山麓に達する一直線上、二段に區劃し、上段百四十三尺、下段百尺を混凝土プロツクを以て、階段を造り、上段は左側に、下段は右側に、下水溝を設けて、兩水並に配水池掃除用、排水に便する様設備した。

配水池事務所及番人詰所は、同一棟とし、配水池の正面に、平屋建上部バルコニー式鐵筋混凝土



建坪十五坪を建築し、構内周囲には、鐵柵表門及裏門を設置し、豫備地には草花を、構内には櫻樹  
 參拾五本を植えた。

かくして大正十四年十二月二十五日、全部の工程を竣成することを得た。

## 第六節 液體鹽素注入室

液體鹽素注入室は、水源地構内唧筒室横側に、鐵筋混凝土造とし、地盤より正面高八尺一寸の人  
 造石及其洗出しとし、内部床コンクリート打チ壁、天井等凡てモルタル塗である。其内部に、MS  
 A型鹽素滅菌機壹組及附屬品を取付け、唧筒吸水井に注入し、滅菌送水することゝなつて居る。此  
 總工費百九拾六圓七十錢である。

## 第七節 水道事務室倉庫宿舍試驗場建築工事

事務室は、桁行五間梁間五間、建坪二十五坪、木造鐵網コンクリート張り二階建とし、町役場に  
 増築した。此請負金七千三百五十圓である。

其他倉庫及宿舍は、桁行六間梁間二間、木造瓦葺切妻造壹棟及桁行二間梁間一間半、木造瓦葺切  
 妻造附屬番人詰所壹棟、此合計建坪十五坪である。

試驗場上家は、桁行四間梁間二間、亜鉛引浪鐵板葺建坪八坪壹棟を新規に建築した。以上請負金  
 總額は、金壹千八百參圓五拾參錢である。

## 第八節 其他工事

### (イ) 鐵管橋

送水線鐵管橋は、車尾村觀音寺、配水池山麓の米川及新開川に架設したるものにして、當初の計  
 畫としては、川底に埋設して、横斷する豫定なりしも、將來の維持方法及修繕等、又水利組合の意  
 見もあつたので、水管橋に設計を變更したのである。

水管橋は、ハウストリングトラス、及鋼桁橋造とし、全橋延長八十四尺、高十六尺にして、全面  
 にペンキ塗を施す。橋臺は、山麓に一箇所と、橋脚三箇所とを設ける。此構造は、橋脚に在りては  
 玉石混凝土造とし、橋臺は鐵管振止を兼ねて、鐵筋混凝土造とした。橋面は、巡視人の通行に便し  
 鐵梯子及踏板を取付け、尙一般通行は、遮斷する爲鐵扉を建設した。十四吋送水鐵管を架設す。

鐵管には、鐵製受臺耐震接手排氣伸縮管を施し、且露出部には、被覆工を施した。

工事は、大正十四年九月十八日に着手し、橋臺及橋脚の基礎掘を開始した。基礎は、根掘の上、  
 生松丸太粒を打込み、敷栗石を撒き、此上に基礎混凝土を施し、型枠及足場を設けて、玉石混凝土



工を施し、橋臺及橋脚の工事を終つた。

而して之が硬化するを俟つて、橋體架構の整備を爲し、堤防上に、橋體を部分的に組立て、ウイ  
ンチを以て、足場上まで捲上げて架設し、更に鐵管を取付け、被覆工を施した。かくして同年十二  
月下旬、其他の附帶工事共完成することを得た。

(ロ) 水道部専用私設電話架設工事

水道敷設工事中、現場事務所と役所本部との連絡、及緊急に用務を處辨する爲、専用電話架設の  
必要を痛感し、大正十三年九月十六日付で、工所用私設電話架設の出願を爲し、同年十一月五日付  
で、遞信大臣より出願の旨許可せられた。依つて大正十三年十一月二十日、工事施工を、町内天神  
町一丁目平井恒太郎に請負はせた。

施工は總體を二區分し、大正十三年十一月二十一日より着手し、先第一回は市街地に架設し、第  
二回には配水池水源地間の架設を終了した。途中鐵道の横斷及道路、並に堤塘の占用箇所在りて  
は其筋の承認なり又は其の許可を得て、大正十四年一月二十日、全線の竣功を見ることゝなつた。  
線路經過地名は、米子町中町（水道事務所）に起り、東町日野町萬能町成實村大字西大谷（鐵管  
試驗場兼配水管布設見張所）を経て、米子町道笑町二丁目道笑町三丁目成實村大字長田山頂（配水  
池現場見張所）に至り、更に車尾村大字觀音寺車尾村大字車尾（水源池現場見張所）に至る二回線

にして、此線路延長實に一千八百七十四間である。

第九節 主なる工事の請負

以上節を追ふて、主要なる工事の一般を記述したが、尙請負の種別に依りて、列記すれば左の如  
し。

種別	金額	契約年月日	着手年月日	竣工年月日	氏名
水源井杵鐵物製作及据付工事	九〇圓	大正十四年一月十七日	大正十四年一月十七日	大正十四年二月廿八日	北村正一
配水池土工及石積工事	一〇・九〇	大正十三年十一月十一日	大正十三年十一月十四日	大正十四年二月廿八日	竹戸順一
鐵管工場水壓試驗設備並ニ埋立其他工事	七〇	大正十三年十一月二十日	大正十三年十一月二十日	大正十三年十二月十五日	和田榮太郎
現場見張所及倉庫建築工事	一・九六	大正十三年十二月十八日	大正十三年十二月十八日	大正十四年一月卅一日	茅野久吉
私設電話架設工事	四八〇	大正十三年十一月二十日	大正十三年十一月二十日	大正十三年十二月三十日	平井恒太郎
配水新線安全辨室工事	一五〇	大正十四年四月九日	大正十四年四月九日	大正十四年五月卅一日	濱田彰三
送水線安全辨室工事	一五〇	大正十四年四月九日	大正十四年四月九日	大正十四年五月卅一日	濱田彰三
配水新線平坦部土工及架橋其他工事	二・二〇	大正十四年三月二日	大正十四年三月二日	大正十四年五月卅一日	西本健太郎
送水線平坦部土工及架橋其他工事	二・三〇	大正十四年三月二日	大正十四年三月二日	大正十四年五月卅一日	西本健太郎



町内南部配水線土工其他工事	七・三〇〇	大正十四年四月廿一日	菊池甚五郎
町内北部配水線土工其他工事	三・八三〇	大正十四年七月十六日	田村源録
配水池割石積其他工事	三・三〇〇	大正十四年九月十一日	竹戸順一
配水池番人小屋戸類構成工事	三・七〇〇	大正十四年十一月十三日	淺野民次郎
水源	三・五〇〇	大正十四年四月十五日	北川惠吉郎
私設電話線架設替工事	一・一七〇	大正十四年九月九日	平井恒太郎
水源現場見張所並ニ倉庫移轉工事	三	大正十四年七月十五日	菊池甚五郎
事務所倉庫及宿舍並ニ鐵管試驗場上家建築工事	七・三三〇	大正十四年五月十五日	牧菊一郎
水源唧筒所上家其他新築工事	二・六六〇	大正十四年十一月三十日	田中淺次郎
水源唧筒所上家避雷針工事	一・三〇〇	大正十四年十二月二十日	加藤碩

第十節 主要なる機械並に材料の購入

水道敷設の爲購入したる主要なる機械並に其の材料を、種別に依り列記すれば左の如し。

機械器具類一覽

品名	數量	金額	契約年月日	契約者氏名
四吋乃至十六吋直管用水壓試驗機	壹臺	一・四〇〇	大正十三年九月十六日	栗本鐵工所 加納川俊一
十六吋ウエッチユリパーシヤル量水器外電氣レコーダー屬具	壹組	二・五七五	大正十三年十月二十二日	カールアンドレー會社 日本代表社員 安藤藤進
十二吋ウォルトマン量水器	壹個	一・五五〇	大正十三年十月二十二日	同
異形管水壓試驗器	壹組	七・一五	大正十三年十二月十日	加納川俊一
レール其他屬具	五〇個	三・三	大正十四年一月九日	鳥田恒太郎
離心唧筒其他	壹具	一・七九五	大正十三年十二月十二日	大阪機械工作所 鈴木仁十郎
水位指示器	壹組	七・八〇	大正十四年七月十五日	野田正一
水素殺菌器	壹組	四・四〇〇	大正十三年十一月三日	小田村有芳
鹽素殺菌器	壹臺	四・四〇〇	大正十三年十二月廿六日	佐藤英夫
特許サイクロミキサー	貳臺	二〇・八九五	大正十四年三月五日	竹尾秋助
唧筒電動機直結六吋高壓タービン重油機關連結六吋同上	壹臺	一・四〇〇	大正十三年九月十六日	鐵本文太郎
直管水壓試驗機	壹臺	一・四〇〇	大正十四年三月十六日	神江清
卷上機械	參臺	一・四〇	大正十四年三月十六日	

材料類一覽表

品目	數量	金額	契約年月日	契約者氏名
ジエート糸	四〇〇	一・〇六四	大正十四年一月二十日	越原商店



鉛塊	10・九五	大正十四年一月十五日	中村藤吉
鐵物類	19・03	〃〃十五年八月十日	山本藤助
消火栓制水辨鐵蓋	11・00	大正十三年十一月廿二日	加納川俊一
鑄鐵管類	9・33	大正十三年九月十五日	永原左衛門
鐵管受臺	19・75	〃〃十四年七月廿一日	桑原
同水辨受臺	45・00	大正十三年九月十六日	加納川俊一
細砂及砂利	39・00	〃〃十五年七月廿一日	同
鐵管橋及其他鐵材	5・00	大正十四年七月三日	同
石	25・50	自大正十四年三月廿八日	竹野政順
鉛管	1・89	至〃十四年十二月三日	青木賢太
鐵管	6・56	大正十四年七月六日	中村藤吉
石	2・76	〃〃十四年七月廿三日	石原富次
鉛管	15・70	大正十四年九月三十日	藤田富次
セメント	44・30	〃〃十四年十一月十二日	泉吉次郎
コンクリート階段石	27・50	自大正十三年九月三十日	小川幸四郎
コンクリート管	29・30	至大正十五年三月二十日	綿邊幸四郎
和田式耐寒共用栓	27・60	大正十五年五月廿二日	藤田武
和地境堺杭	53・00	大正十四年十一月二十日	武富忠
用地水	200	大正十五年三月十五日	森田製作所
量	400	大正十四年十一月九日	十文字俊夫
布	100	大正十五年三月十五日	森田製作所

張	芝	三五二	大正十五年六月十五日	石崎理一
川崎式クリンプ形金網	面坪	一七〇	大正十五年四月廿七日	川崎工場
記念碑銅板	一個	一・六四〇	大正十五年十月十二日	今村久兵衛
鐵筋材繼目金物	八〇〇	七六三	大正十四年二月七日	勝田源一

第十一節 通水及水質試驗

上述の如く、各工事も着々竣工した。此時水源唧筒場にては、豫てより着手中の、山陰電氣の動力線或は點燈線の引込みを了し、又揚水唧筒の据付も完了した。是に於て大正十四年十二月三十日より、翌年一月一日に至る迄、係員一同を動員して、晝夜兼行通水の準備を整へた。諸般の準備熟する機を俟つて、此に假通水を開始し、排泥作業を行つた、同時に電動機直結唧筒二臺、及重油唧筒一臺を、交互に試運轉を爲したるに、其成績甚良好にして、やがて、配水池にも、漫々たる淨水の満つるを見るに至つた。

是に於て、配水池引出口制水辨を開いて、先配水本管國道交叉點に至る迄通水し、尋いで幹線の中樞部たる、道笑町一丁目より、灘町一丁目京橋に至る迄通水して、順次に各支線に通水試験を了したるが、全線總て完全にして、何等故障の起ることなかりしは、因より當然の事に屬するも、市



民舉りて注目し、満腔の期待をかけ居ることゝて此佳良なる成績に満足し、欣喜の聲、全市に満つるを見た。

次に、連日排泥作業を續行し、漸く淨水の供給を爲し得るに至つたので、茲に水質の試験を、縣當局に申請した。大正十五年三月一日採水に係る縣衛生試験所試験は別記の如く、甚良好にして、給水上何等の支障も無しと認められた。茲に米子町民の、永遠なる淨水の泉は、天與の利福を限りなく供給することゝなつた。

(イ) 水質試験成績表 (大正十五年三月一日 縣衛生試験所検査)

試験事項	採水場所	
	水源井	配水池
天候 (前日)	雨	"
天候 (當日)	曇	"
温度 (外氣)	二十一度	"
温度 (水溫)	十三度八	"
色度	殆無色	"
濁度	清澄	"
臭味	異狀ヲ感ゼズ	"
反應	微弱アルカリ	"
道笑町一丁目	"	"
西町	"	"

備考	細菌學的試験成績表 (大正十五年三月一日採水 縣衛生試験所検査)	
	道笑町一丁目	西町
クローリ	一三・一八四	一三・四九五
硫酸	痕跡	"
硝酸	〇・五〇〇	〇・五〇〇
亞硝酸	檢出セズ	"
安母尼亞	檢出セズ	"
硬度	〇・六五〇	"
固形物總量	六四・四〇〇	六二・六〇〇
過滿俺酸加里	〇・九二七	〇・七五三
脫色量	四	二
細菌聚落數	二	二

(ロ) 細菌學的試験成績表 (大正十五年三月一日採水 縣衛生試験所検査)

採水ノ場所	病原菌ノ有無		備考
	水源井	配水池	
町内道笑町一丁目	二	二	一パーセント寒天培養 二〇度—二五度—六〇時間
西町	二	二	



## 第十二節 竣工式

一六四

上水道敷設の事業も、着々進行して、茲に竣工を告げ、本町多年の懸案も、目出度く解決せられた。そして近代的都市の施設も先づ成りて、躍進發展の兆も著しく、町民舉りて其の將來を祝福し活潑進取の氣運、全町に漂ひ流れた。

此の時に當り、町當局は、大正十五年十一月二日を期して、竣工式及祝賀會を、開催することに決定し、町吏員及水道委員は、晝夜兼行、周密なる計畫の下に、其の準備を整へた。竣工式場は、水源地構内に設け、祝賀會場は、錦公園内とし、各方面關係官民諸氏に對し、招待狀を發すると同時に、多數の有志者來賓を招じた。其數無慮五百八十二名、祝賀會場は、錦公園内大廣場に大天幕張をなし、天幕内東北方に、舞臺及演壇を設けて、満船飾を施こした。公園正門を受附口とし、公會堂及鳳翔閣を、來賓休憩所に充てた。其他辨當及記念品引渡所を設けた。中海の激漚たる波間には、大鯨を模型として浮動せしめ、此れに給水して、其鹽吹に擬し、噴水せしめたるは、偉觀此上もなく、雷に幼弱兒童の喜ぶのみではなかつた。

當日は天氣晴朗、秋風滿地、清爽の氣分漲り溢るゝ中に、驛前及公園前の大綠門には、彩旗翩翩として翻り、人は歡に満ちて、市内の裝飾も亦一入目に立つ。

午前十時來賓絡繹として參集し、和やかなる情景を呈せしが、其の主たる者は、内務大臣代理丹羽道路課長、鳥取縣知事、内務警察兩部長、松江丸龜兩市長、鳥取縣會議員、縣土木課長、地方農商課長、和田顧問技師其他關係官民約五百餘名に及び、綺羅星の如く、盛況裡に開式せられた。而して左記の如く、司會の下に進行して、午後零時三十分、萬歲聲裡に閉式せられた。

式 順

- 一、振 鈴
- 二、來賓一同着席
- 三、開式ノ辭
- 四、町長 式辭
- 五、技師工事報告
- 六、内務大臣祝辭
- 七、知事 祝辭
- 八、町會議員祝辭
- 九、來賓 祝辭
- 十、祝電 朗讀



十二、記念品贈呈

十三、開式ノ辭

以上

米子町長式辭

米子町上水道工事竣成ヲ告ゲ茲ニ本日ヲ以テ通水式ヲ舉行スルニ方リ閣下並各位ノ臨場ヲ辱フスルヲ得タルハ實ニ本町ノ光榮ニシテ亦小職ノ衷心感謝ニ堪ヘザル所ナリ我ガ米子町ノ地由來良水ニ乏シク水利ノ便亦完カラズ其ノ衛生保健ヲ害シ防火ノ便ヲ缺ギ工業ノ進展ヲ阻害セルモノアルハ町民積年ノ憂患ニシテ上水道ノ敷設ハ本町安危禍福ノ岐ル、重要事ニシテ實ニ本町將來ノ隆替消長ニ關スル喫緊事タリ從來町當局又ハ町民間ニ於テ屢々之ガ企畫ヲ試ミタルモ毎ニ適當ナル水源ヲ得ザルト經費ノ關係ニ依リ一起一倒之ガ實現ヲ見ルノ機ニ達セズ空シク歲月ヲ經過セリ然レドモ時代ノ趨勢ト町勢ノ進展トハ荏苒之ガ施設ヲ遲滯セシムルヲ許サズ大正十一年町是調査會ヲ起スヤ滿場一致緊急實施ノ議成リ次デ町會ハ水源其他ノ調査費ヲ即決シ直ニ斯道ノ専門家ヲ招聘シテ東ハ宇田川村高井谷南ハ幡鄉村坂長湧水ヲ始メ日野川ノ流水日原古池等ノ伏流水ハ勿論鑿井ニ依ル地下水ノ利用等各方面ニ涉リ具サニ調査研究ヲ遂ゲ日野川左岸ノ伏流水ガ水量豊富水質良好眞ニ絶好ノ水源タルノ斷案ヲ得タリ依テ直ニ測量設計ニ着手シ翌十二年六月設計ヲ完了シ同年

六月二十九日町會ハ滿場一致ヲ以テ起工ノ議ヲ決シ施工認可並起債認可ノ稟請ヲ爲シ亦同時ニ國庫並縣費補助ノ申請ヲ爲シタリ然ルニ同年九月一日關東地方未曾有ノ變災アリ主務省ニテ審議中ナリシ稟請書類ハ悉ク灰燼ニ歸シタルノミナラズ我國財界ノ一大危機ヲ招來シ帝國財政ノ整理緊縮ハ勿論地方事業ニ對スル監督方針亦極度ノ變革ヲ見ルニ際會シ爲ニ本事業ノ施行ハ起工豫定期ヲ經過スルモ尙容易ニ認許ヲ受クルニ至ラズ一年有餘ヲ經テ大正十二年六月漸ク起工ノ認可ニ接シ越エテ七月起債ノ認可ヲ得諸般ノ準備ヲ急ギ同年九月工ヲ起シ爾來着々事業ノ進捗ヲ圖リ大正十四年十二月三十一日水源唧筒ノ運轉ヲ爲シ初メテ送水ヲ見ルニ至リ爾來送配水管及配水池等清掃ヲ繼續シ本年二月十七日試驗給水ヲ開始シ豫期以上ノ成績ヲ得四月一日ヲ以テ一般給水ヲ實施シ爾來各部ノ殘工事及諸種ノ附帶工事ヲ進メ茲ニ全ク竣成ヲ告ゲ今ヤ二千餘戸ニ對シ淨水ヲ供給シ引續給水裝置ノ工程ヲ進メツ、アリ願ルニ本事業ノ計畫確定後滿四ヶ年起工以來二十有五箇月所要工費六十有二萬金公債利子其他九萬圓ニ對スル國庫補助金十七萬五千圓縣費補助金十四萬圓篤志家寄附金六萬八千六百五十圓ヲ受クルコト、ナリ而シテ用地ノ買收灌漑ノ關係配水池工事鑿井聯絡管敷設等幾多ノ問題續出シタルノミナラズ財政計畫ノ變更ニ依リテ豫算ノ更正變更ヲ爲スゴト一再ニシテ止マラザリシモ上下周圍ノ同情ト援助ニ依リ幸ニシテ大過ナク茲ニ完成ヲ告グルヲ得タルハ小職ノ最モ欣快トスル所ニシテ此ノ機會ニ於テ各方面ニ於ケル關係各位ニ對シ滿腔ノ



誠意ヲ披瀝シテ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スル所ナリ

今ヤ本町ハ戸數六千八百人口三萬一千將ニ明春ヲ期シテ市制ノ施行ヲ見ントスルニ際リ都市的施設ノ一大要件タル上水道ノ實現ヲ得テ本町將來ノ繁榮ヲ増シ町民ノ幸福ヲ進ムルニ一段ノ面目ヲ加ヘタリト雖時運ノ進歩ハ今後ニ於テ企畫スベキ事業頗ル多キヲ覺エ隆々タル好機運ニ乗ジ潑刺タル共同心ヲ發揮シ相與ニ精勵努力大米子市ノ建設ニ邁進セムトス今後益々閣下並ニ各位ノ深厚ナル同情ト多大ノ援助トニ依ラムコトヲ切望シ期待シテ止マザル所ナリ上水道通水式ヲ舉グルニ際シ聊事歴ノ大要ト所懷ノ一端ヲ述ベテ式辭トス

大正十五年十一月二日

米子町長 西 尾 常 彦

技師工事竣工概況報告

米子町上水道工事竣成ヲ告ゲ本日ヲ以テ通水式ヲ舉行スルニ方リ閣下並ニ貴賓ノ御臨場ヲ辱フシ本工事概況ヲ報告スルヲ得ルハ小職ノ欣幸トスル所ナリ抑當米子町ハ角盤ノ原野中海ニ臨ム處ニ街區ヲ成シ地勢平坦ナレドモ土地低ク井水多ク鹽分ヲ含ミ飲料ニ適セズ多年上水道ノ布設ヲ翹望セシモ機到ラザリシガ時勢ハ海ニ境港陸ニ伯備線ノ計畫成リ是等ノ關係ヲ考ヘ機運到來シ時ニ大

正十一年末人口二萬四千九百三十四人ナルモ將來ノ増殖ヲ見込人口五萬人ニ對スル計畫目論見ヲ得テ町會ニ提出シ協賛ヲ得ルニ至リ大正十二年七月設計ヲ了シ直ニ施行其儘一切ノ稟議手續ヲ爲シ翌十三年六月十一日施行認可アリ同年九月起工同十五年八月三十一日竣工セリ

用地總面積 一萬二千三百二十四坪

工 費 六十一萬三千四十圓

雜 費 九萬五千圓

内 譯

水源工事ハ日野川堤防外字古池ニ面積六千三百五十二坪内ニ於テ第一第二各取水井及唧筒井ヲ設ケ五十五馬力唧筒三基ヲ備付タリ

此工費八萬七千四百九十五圓

送水管工事ハ水源唧筒井ヨリ配水池ニ到ル内徑十四吋鑄鐵管ニシテ此ノ延長五百二十六間用地面積八百二十六坪人口五萬人ニ對スル給水量ヲ送水スル設備ナリ

此工費三萬五千二百六十圓

配水池工事ハ地ヲ觀音寺山頂ニ選ミ人口五萬人ニ對スル十二時間分水量ノ三分ノ二即六萬六千六百六十七立方尺ヲ貯溜センガ爲メ方四十八尺有效水源十五尺ノモノ二個ヲ設置シ周壁及覆蓋ハ鐵



筋混凝土ヲ以テ施行ス用地四千三百五十六坪

此工費六萬九千五百八十圓

配水管工事ハ基面上百八十八尺ノ高所ニアル配水池ヨリ内徑十六吋鑄鐵管ニテ自然流下セシメ延長一千七十六間用地七百九十坪ニシテ町ノ中央ニ達シ内徑十二吋乃至四吋ヲ以テ幹線又ハ支線トシテ元成實村ノ一部ナリシ西大谷及長田ニ増設シ延長六里三十二町三十八間制水辨百三十五箇所消火栓百三十三箇所ヲ設置ス

此工費二十七萬六千二百五十六圓

事務費 五萬一千四百十七圓

用地費 四萬三千二百二十四圓

建築費 三萬四千九百八十七圓

器具機械費 八千四百六十六圓

試驗費 一千六百九十二圓

雜費 四千六百五十八圓

本工事ノ大部ハ直營施行ナルモ其ノ一部ヲ請負工事トセリ其ノ主要ナルモノ、概要ヲ舉レバ  
鐵管 一千六百三十噸 金額十九萬七千六百九十七圓

納入者 大阪市港區新炭屋町 栗本鐵工所

水源唧筒所上家及記念碑建築工事

請負金額 一萬二千五百二十三圓

請負者 西伯郡日吉津村

田中淺次郎

水源公舎建築工事請負金額三千百五十圓

配水線町内南部工事請負金額七千四百九十三圓

請負者 米子町

菊池甚五郎

送水線土工々事請負金額二千百三十四圓

配水新線土工々事請負金額二千二百二十六圓

請負者 和歌山縣 西本健次郎代理

氣高郡寶木村 濱田 彰三

配水池土工及石積工事請負金額一萬六百六十四圓

請負者 奈良縣 廣橋彌太郎代理

米子町 竹戸 順一

配水線町内北部土工々事請負金額三千八百五十二圓



請負者 米子町

田村 源録

水道事務所及試験所建築工事請負金額七千三百五十圓

請負者 米子町

牧 菊一郎

右工事竣工スルニ當リ本日茲ニ之ガ概況ヲ報告スルモノナリ

大正十五年十一月二日

米子水道技師 金 澤 力 太 郎

内務大臣祝辭

米子町水道布設工事成ルヲ告ゲ本日茲ニ通水ノ式ヲ舉ゲラル起工以來年ヲ重ヌル三歳費ヲ費ス七拾萬圓工營克ク其ノ功ヲ致シ今乃チ完成ノ運ニ會フ寔ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ  
念フニ町民諸君ノ負擔ヤ輕カラザルモノアリト雖將來之ニ依テ全町ノ其ノ利ヲ享クルモノ營ニ衛生産業警備ノミニ止マラザルベク效果ノ及ブ所更ニ各種ノ方面ニ互リテ甚ダ大ナルモノアラム冀クバ之ガ維持管理ニ努メ益々其ノ福利ヲ増進セラレントヲ一言ヲ述ベテ祝辭トス

大正十五年十一月二日

内務大臣 濱 口 雄 幸

鳥取縣知事祝辭

米子町上水道工事竣成ヲ告ゲ茲ニ通水ノ式ヲ舉ゲラル  
惟フニ米子町ハ近時其ノ發展駸々トシテ休止スル所ヲ知ラズ最近成實村ノ一部ヲ併合スルニ及ビ山陰有數ノ一大都邑トナリ近ク市制施行ノ域ニ達セムトス  
此ノ時ニ當リ上水道設備ノ完成ヲ見タルハ洵ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ  
顧ミルニ大正十三年九月工ヲ起シテヨリ二星霜工事豫定ノ如ク進捗シ優良ノ成績ヲ以テ竣功ヲ告ゲタルモノ一ニ町當局ノ努力ト町民諸氏ノ熱誠トニ由ラズンバアラズ念フニ今後清良豊富ナル用水ト高壓強力ナル防火水トニ依リテ町民諸氏ノ受クル利益ハ蓋シ尠少ナラザルモノアラン  
冀クバ協力一致益諸般自治事務ノ振興ニ努メ以テ町ノ繁榮隆昌ヲ期セラレムコトヲ一言以テ祝辭トス

大正十五年十一月二日

鳥取縣知事正五位勳五等 石 井 保

縣會議長祝辭

米子町上水道工事竣ルヲ告ゲ本日茲ニ通水ノ式典ヲ舉行セラレ不肖參列ノ榮ヲ得タルハ大ニ欣幸



トスル所ナリ

抑當町ハ中海ニ臨ミタル要津ニシテ夙ニ鐵道ノ連絡ヲ保チ海陸ノ交通頻繁ヲ極メ山陰ニ於ケル商工業ノ樞軸タリ然ルニ從來當地ノ大部分ハ飲料水不良ニシテ多クハ之ヲ購買シ日常使用水ノ如キハ混濁セル河水ニ依ルモノアルノ状態ニシテ其ノ衛生ニ悖リ健康ヲ害シ引テハ町勢ノ發展ニ影響セシ處蓋少ナラザル可シ是ヲ以テ町當局並ニ有志之ヲ憂フル久シ近年上水道ノ大計畫企テラレ今ヤ其ノ工全ク竣成シ清冽純良ナル淨水ハ普ク一般ニ供給セラレ且高壓強力ノ防火水トモナリ衛生上並ニ消火上大ニ面目ヲ一新シ將來町勢ノ發展實業ノ振興亦以テ期待スルヲ得ベシ而モ人口日ニ月ニ増加シ將ニ市制ヲ布カムトスルニ當リ此ノ文化的施設ノ完成ヲ見タルハ實ニ慶賀ノ至リニ堪ヘザル所ナリ聊蕪言ヲ陳ベテ祝辭トス

大正十五年十一月二日

鳥取縣會議長 足 羽 章 兮

町會議員總代祝辭

閣下並ニ紳士各位ノ御臨場ヲ辱フシ茲ニ本日ノ吉辰ヲトシテ米子上水道通水式ヲ舉行セラル、ニ當リ不肖亦其末班ニ列スルノ光榮ニ浴シ欣幸ノ至リニ堪ヘズ由來吾地良水ニ乏シク人口ノ増加

ニ從ヒテ益飲料水ノ窮乏ヲ感ズ偶郊外ヨリ購入シテ需用ニ充ツルモノアリト雖モ之亦意ノ如ク得ル能ハズ是ニ於テ十數年前既ニ水道企畫ノ議アリシモ奈何セン貧弱ナル小都市ノ之レガ經費ヲ辨ズルヲ許サズ徒ニ天ヲ仰ギ地ニ哭シ荏苒今日ニ至レリ然ルニ近時米子町ハ非常ノ速力ヲ以テ人口激增シ上水道設置ハ一日モ忽セニスル能ハザルニ至リ町當局モ大ニ之ヲ憂ヒ我町會モ亦意ヲ決シテ愈水道布設ノ議ヲ決シタルハ實ニ大正十二年六月ナリキ而シテ其ノ水源ヲ求ムルニ當リ果シテ良水ヲ得ルヤ否又其ノ量ノ需用ヲ充タスニ足ルヤ否當局ト與ニ日夜苦心ヲ重ネタルガ専門技師百方探查ノ結果幸ニシテ麗水滾々タル源泉ヲ得人口幾倍ノ増加ヲ來スモ供給敢テ憂フルニ足ラズ誠ニ旱天ニ饒雨ヲ得タルガ如ク町民ノ幸福何物カ之ニ及ブモノアラシヤ而カモ之ガ經費ニ就テハ國縣ノ各上司ハ窮迫セル我ガ町ノ財政ニ同情セラレ多大ノ御補助ヲ賜ハリ町民亦克ク協力一致熱誠ナル援助ヲ爲スアリテ終ニ我町空前ノ大事業ヲ完成シ得タルハ實ニ歡喜措ク能ハズ何ヲ以テカ之ニ謝センヤ思フニ町民始メ吾等議員ノ在職中ニ於テ幾十年來ノ懸案タリシ成實村一部ノ併合ヲ達成シ近ク市制ヲ布クノ機運ニ至リ今又水道ヲ成就シテ町民生活ノ安定ヲ得此ノ二大問題ヲ解決シタルハ實ニ町民諸君ト共ニ慶賀ノ至リニ堪ヘザルナリ希クバ町民諸君益協力一致以テ本町ノ發展ヲ期セラレン事ヲ聊蕪言ヲ述テ祝辭トス

大正十五年十一月二日



敷設費寄附者總代祝辭

米子町上水道工事竣成シ本日ヲトシテ通水式ヲ舉行セラル洵ニ慶賀ノ至リニ禁ヘズ由來米子町ハ水質不良且水利不便ナル爲保健防火興業等遺憾ノ點尠カラズ爲ニ町民痛苦シ旅客ノ嫌忌ハ素ヨリ延テ町勢ノ發展ヲ阻害スルモノアリタルハ論ナシ町當局見ル所アリ巨費ヲ投ジテ此ノ喫緊ノ事業ヲ敢行センコトヲ提議スルヤ町是調査會及町會等皆之ヲ賛シ衆議一決之ガ急施ヲ望ムヤ切ナリ乃チ實施ノ計畫確立シ大正十三年九月工ヲ起シタリ爾來町當局以下關係職員諸士並ニ町會議員諸君ノ熱誠努力ト亦監督諸官廳ノ深厚ナル援助トニ依リ中途勃發セル幾多ノ難問題モ悉ク之ヲ解決シ只管事業ノ進捗ニ努メラレタル結果町未曾有ノ大事業モ些ノ遺漏ナク全ク完成ヲ告ゲ水質清良水量豊富良好ナル成績ヲ得タルハ町民無上ノ幸福ニシテ將來本町ノ發展亦之ニ依リテ期スベク余等工費ノ萬一ヲ供シタル有志トシテ欣快之ニ過グルモノナシ茲ニ更メテ本事業ニ盡瘁セラレタル各位ノ勞ヲ多トシ深甚ナル謝意ヲ表スル所ナリ一言以テ祝辭トス

大正十五年十一月二日

水道敷設費寄附者總代 坂口 豐藏

代議士祝辭

本日ヲ相シテ米子町上水道通水式ヲ舉行スルニ當リ茲ニ親シク此ノ盛典ニ列スルヲ得ザルハ洵ニ遺憾トスル所ナリト雖遙ニ蕪辭ヲ述ベテ祝意ヲ表スルハ余ノ欣幸トスル所ナリ

抑上水道ノ完成ハ都市ノ文化的施設ノ上ニ於テ最モ重要ノ事業タルハ勿論市民ノ衛生保健上又一日モ忽ニスベカラザルモノトス町當局者諸氏夙ニ之ガ施設ノ缺グベカラザルヲ念トシ曩ニ町會ノ議決ヲ經テ工事設計ヲ了リ大正十三年六月工事施行認可ヲ得ルヤ同年九月工ヲ起シ總工費七十三萬圓ヲ以テ同十五年八月其ノ工ヲ完成スルニ至レリ地ハ之レ日野川ノ沿岸松青ク砂白キ所水源ヲ日野川伏流水ニ取り其ノ規模ノ大ニシテ設備ノ全キコト洵ニ理想ニ適フモノト謂フ可シ而モ清冽ニシテ濼々優ニ將來米子町民五萬人ニ供給シテ猶剩リアリト稱ス

今ヤ其ノ完成ト共ニ米子町民ノ汎ク此ノ恩澤ニ霑フノ時ニハ市民ノ保健衛生ノ上ニ光被スル所蓋大ナリト謂フベシ今日親愛ナル我米子町民諸君ト此ノ歡ビヲ俱ニスルニ當リ願ミテ町當局諸氏ノ努力ト町民諸君ノ一致協力ニヨリ之ガ達成ヲ期シタルハ公共的精神ノ發露ニ對シ衷心深ク敬意ヲ表スル所ナリ謹ンデ祝辭トス

大正十五年十一月二日

衆議院議員 三好榮次郎



米子町上水道工事竣成ヲ告ゲ本日茲ニ通水ノ式ヲ舉行セラル、ニ當リ其ノ末班ニ列スルヲ得タルハ余ガ最光榮トスル所ナリ

抑米子町ノ地タル山陰道ノ中樞ニ位シ中ノ海ニ臨ミ夜見半島ノ頸部ヲ扼シ裏日本ノ一大交通路タル山陰線ハ町ノ東西ヲ横ギリ北ハ境線ニヨリテ本道ノ要港タル境町ニ通ズ若夫レ伯備線完通ノ曉ニ至リテハ遙ニ南方山陽道ノ岡山地方ト相連絡スルニ至ルベク山陰第一ノ要衝タルコト期シテ俟ツベキナリ宜ナル哉商工業日々殷賑戸口年ト共ニ増加シ町勢駸々トシテ底止スル所ヲ知ラズ既ニ電車ノ開通ヲ見新興ノ氣運迥ニ鳥取松江ヲ凌駕スルニ至ルヤ唯恨ムラクハ此地井泉ノ飲用ニ供スベキモノ乏シ是ヲ以テ由來水道ノ布設ヲ切望スルコト切ナリ而シテ之ヲ布設スルニ於テ巨大ノ費額能ク町費ノ堪ユル所ニアラズ乃チ國庫ノ補助ヲ請願スルニ當リ我全國ヲ通ジテ未曾テ一町ニ補助支出ノ類例ヲ見ズ時ノ内相若槻總理大臣大ニ之ニ同情シ青森縣五所川原町水道布設ト與ニ若干ノ補助金ヲ支出スルヲ許可ス茲ニ其ノ工事ヲ完成シ此ノ盛典ヲ舉グルニ至リシハ町民諸氏ト共ニ眞ニ慶祝ニ堪ヘザル所ナリ然レドモ之ヲ以テ直ニ功ヲ今日ニ歸スルハ謬レリ思フニ事ノ成ルハ成ルノ日ニ成ルニアラズシテ必由テ來ル處遠シ則チ町政ニ膺レル者ガ多年其ノ目的トスル所ニ努力シ銳意其ノ貫徹ヲ期スルニ盡瘁セルト共ニ他方亦坂口氏ノ如キ能ク奉公ノ誠ヲ致シ居常力ヲ竭ス

ニアラズンバ何ゾ能ク此ニ至ルヲ得ンヤ古語ニ曰ク渠成リテ水通スト夫レ之ヲ云フ歟今ヤ米子町ハ多年ノ要望ヲ達シ之レニ加フルニ成實村ヲ併セ近ク市制ノ施行ヲ見ントス之ヲ五所川原ニ比スレバ其ハ軒輊果シテ如何希クバ更ニ次デ下水工事ヲ起シ以テ衛生ノ完備ヲ期シ宛然山陰ノ大阪市タルノ觀アラシメンコトヲ隴ヲ得テ蜀ヲ望ムノ情切ナリ聊カ蕪言ヲ陳ベテ以テ祝辭トス

大正十五年十一月二日

衆議院議員 豊田 收

尙當日竣功式後午後五時より、來賓、町會議員其他關係者等、約七十名を招待して、皆生温泉錦波樓に於て、晚餐會を開催して、其勞を犒ふ所があつた。

又竣功式當日より三日間は、市内の祝賀日として、各種の餘興が催された。水道事務所前には、五色の噴水塔が設立せられ、米子驛前及公園前には、大緑門に彩旗翻へり、役場バルコニーよりは撒餅があり、各常設映畫館では、二日間無料で公開せられた。絡繹たる人のごよみは、隨意に歩を轉じて、やがて水源地、配水池の公開に、縦覽の行來を續けた。

町民は各戸毎に、國旗及町旗を掲げて、滿幅の祝意を表し、又町内目貫きの場所には、高張提灯高く掲げられ、美しき幔幕張り回らされて、壯觀此上もなき裡を、晝は各學校生徒の旗行列に、旗



の波すさまじく、夜は町民大衆の提灯行列に、灯の動き美しく、不夜城を現出するかの賑ひであつた。連日空前の賑やかさに、町民は歡呼の叫を擧げるのであつた。

又祝賀會協賛會に於ては、中海防波堤附近で、煙花大會を催し、清夜天空に珠玉を點じ、火龍躍るの壯觀此上もなく、町内は懸賞仁輪加の催に、管絃の賑ひ面白く、當日を永遠に記念せんが爲に懸賞募集せられたる安來節の歌詞と、宣傳の安來節大會は、歌詞の秀逸と、民謡の旋律と、郷土色深く、聽衆を陶醉せしめ去つた。實に空前の盛事と、賑かさであつたことである。

當選歌詞及秀逸歌詞

大山雪解の、水ひく御代を、祝ふ米子の、今朝の聲

なれぬ世帯も、水道がついて、水に苦勞の、ない米子

新興の町曙、かがやく米子、辻の水道も、虹を吐く

磨き上げましよ水道の水で、米子娘の、雪の肌

米子にひかれた、あの水道の、源は大山の、峰の雪

米子水道のどんどの水は、日野の深山の、岩清水

水に惱んだ米子の人、出來た水道で、苦を流す

水道の水の源米子に問へば、雪に日が照る、伯耆富士

米子よいとこ水道の水の、清くゆたかな、住み心

願叶ふた水道の水で、磨き上げましよ、米子町

妾や奥日野日野川育ち、今じゃ水道ですむ米子 等

第十三節 記念碑

近代的都市の施設として、其隨一なる上水道の解決は、本市多年の懸案なりしと同時に、永遠に淨水の供給を得べき好箇の記念すべき事業に屬す、依りて是に其記念碑を建設すべき議熟して、地を水源地構内堤防下に相し、高二十尺の鐵筋混凝土造とし、碑文は銅板に刻鏤して取り付けた。其他は凡て見エ掛リ石造である。此總工費四千七百貳拾九圓四拾八錢である。題額は時の總理大臣若槻禮次郎男に請ひ、碑文は、東京女子高等師範學校教授細田謙造氏に依囑したものである。因に氏は、縣下東伯郡北谷村出身である。

自來水道碑記

伯耆有邑曰米子居民數萬四方之所聚百貨之所交而山水風物之盛麗而秀絕蓋山陰所希觀焉唯以地瀕海土雖燥而泉則濁其可資飲者難得而又有防火興業不敷之歎其宜大興隆而未得者爲此邑人患之舊矣邑宰西尾君常彦有見於茲欲闢自來水道以補救之付之邑會之議咸曰善廼命工師考査籌畫以事上內務省會關東地大震時局紛錯歷年始允於是相日野河畔古地里定爲水源鑿聚水井二唧筒井一以爲瀦水之



處備電機渦流唧筒二油機渦流唧筒一以為激水之用埋設鐵管迤邐三千尺以升之於觀音寺山頂之頽水池又以鐵管降瀉於邑中頽水道分流岐注迂餘曲折遍及全邑延長六里餘噴躍一百數十尺淨潔充溢混混而來誠足以供十萬人之需經始於大正十三年九月竣成於十五年七月為費六十二萬圓借欵以為主資國帑縣藏以欣之志士法人之義捐以補之賦課無大加而積患有除可以保生可以防火可以敷商工諸業之用自今以往邑人之福利日益以增市街之繁盛日益以加遂能自邑而進都蓋亦將不在遠矣水道既成邑人欣悅願樹稗勒功以垂於後屬余記之余曰邑宰之首唱董督皆適機宜以啓一邑興隆之端其功固不可沒議員諸君和衷贊襄之功亦不可沒雖然不得其資又無由於行事則國帑縣藏志士法人費欸捐助之功尤不可沒宜矣邑人之思其功欲不朽之也抑古人不云乎莫不有初鮮克有終當事諸公既有其初矣守而不失全有終之美其為功豈有窮已哉此則邑人之責也不可不察焉於是乎記

## 第六章 執行機關

### 第一節 諸規程

大正十三年一月十九日以後、町會の議決を経、知事の認可を得たる後、告示の手續を了して、事務執行上施行せし水道部諸規程を表示すれば、左の如し。

諸規程	議決	告示
イ 臨時水道委員設置規程	大正十三年一月十九日	大正十三年一月二十日
ロ 全上改正	大正十三年二月二十八日	大正十三年三月三日
ハ 全上	大正十四年二月二十七日	大正十四年二月二十七日
ニ 全上	大正十四年十月九日	大正十四年十月二十日
ホ 臨時水道部規程	大正十三年八月二十日	大正十三年八月二十一日
ヘ 臨時水道部職員定數及給與規程	大正十三年八月二十日	大正十三年八月二十一日
ト 臨時水道部備人諸給與規程	大正十三年八月二十日	大正十三年八月二十一日
チ 水道使用條例	大正十四年七月十三日	大正十四年九月廿九日許可 大正十四年十月七日告示
リ 全上改正	大正十五年七月六日	大正十五年九月四日許可 大正十五年九月九日告示
ヌ 水道使用條例施行細則	大正十四年十月九日	大正十四年十月二十日
ル 水道巡視職務規程	大正十五年三月十六日	大正十五年三月十七日
ヲ 水道巡視服制	大正十五年三月十六日	大正十五年三月十七日
ワ 水道備人諸給與規程	大正十五年三月十六日	大正十五年三月十七日
カ 水道巡視備人被服屬具貸與規程	大正十五年三月十六日	大正十五年三月十七日
コ 水道備人勤務心得	大正十五年三月十六日	大正十五年三月十七日
タ 臨時水道部職員定數及給與規定改正	大正十五年九月二日	大正十五年九月七日
レ 水道委員設置規程	大正十五年四月二十七日	大正十五年四月二十七日
ソ 全上改正	大正十五年八月九日	大正十五年八月十日



附 米子町臨時水道部規程

第一條 水道敷設ニ關スル事務ヲ處理スル爲臨時水道部ヲ設ケ左ノ職員ヲ置ク

- 部長
- 技師
- 書記
- 技手
- 雇

本文ノ外必要アルトキハ囑託員ヲ置クコトヲ得

第二條 部長ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ町長ノ命ヲ受ケ部員ヲ統督シ水道敷設ニ關スル事務ヲ處理ス

第三條 臨時水道部ニ顧問ヲ置ク

顧問ハ水道敷設工事ニ關シ意見ヲ開陳ス

第四條 臨時水道部ヲ庶務係及工務係ニ分ツ各係ニ係長ヲ置キ庶務係長ハ書記工務係長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

係長ハ部長ノ命ヲ受ケ係員ヲ指揮監督シ各係事務處理ノ責ニ任ズ

庶務係長事故アルトキハ次席書記、工務係長事故アルトキハ上席技手其ノ事務ヲ代理ス

第五條 係員ハ所屬係長ノ指揮ヲ受ケ各擔任事務ニ従事ス

第六條 各係ノ事務分擔左ノ如シ

庶務係

- 一、文書ノ編纂及保存ニ關スル事項
- 一、水道ノ委員會ニ關スル事項
- 一、職員ノ身上及諸給與ニ關スル事項
- 一、報告統計及印刷ニ關スル事項
- 一、請負入札及契約ニ關スル事項
- 一、預金及公債ニ關スル事項
- 一、歲入出豫算及決算ニ關スル事項
- 一、土地及損害補償ニ關スル事項



- 一、物品ノ購買及不用品ノ拂下ニ關スル事項
- 一、物品ノ出納及保管ニ關スル事項
- 一、他ノ係ニ屬セザル事項

工 務 係

- 一、測量及調査ニ關スル事項
- 一、工事ノ設計實施及監督ニ關スル事項
- 一、鐵管類及物品材料ノ試験及検査並ニ運搬ニ關スル事項
- 一、工費ノ精算ニ關スル事項
- 一、其ノ他技術ニ關スル事項

第七條 本規程以外ノ事項ハ總テ米子町役場庶務規程ニ據ル

臨時水道部職員定數及給與規程

第一條 臨時水道部職員ノ定數左ノ如シ

部 長	一 人
技 師	一 人

書 記	二 人
技 手	三 人
雇 員	二 人

前項ノ外工事顧問囑託員又ハ兼務職員ヲ置クコトヲ得

第二條 職員ノ給料報酬又ハ手当ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ町長之ヲ定ム

第三條 臨時水道部職員ニシテ工事場又ハ試験場等現場事務ニ従事スルモノニ對シテハ左ノ月額手当ヲ支給ス但シ別ニ旅費ヲ給スル場合ニハ日割ヲ以テ減額ス

技 師	參拾圓
書 記	町外貳拾壹圓 町内拾五圓
技 手	町外 拾五圓 町内 九圓

第四條 臨時水道部職員ノ旅費額ハ米子町諸給與規程ニ依リ技師ハ町長書記及技手ハ助役收入 役雇ハ其ノ他吏員ノ額ヲ支給シ顧問及囑託員ニ對シテハ町長ニ於テ相當ト認ムル額ヲ支給ス

第五條 本規定ニ依リ支給スル手当ハ一ケ月中二十五日ニ滿タザル場合ハ日割計算トシテ報酬 給料ハ米子町諸給與規程ノ例ニ依ル



臨時水道部諸給與規程

第一條 本規程ニ於テ傭人ト稱スルハ水道工事ノ爲雇傭スル左ノ傭人ヲ謂フ

一、鉛工鉛工見習鐵工鐵工見習其他必要ノ諸職工

二、工夫工夫見習

三、常傭人夫

第二條 傭人ノ給料ハ日給トシ左ノ範圍ニ依リ之ヲ支給ス

職工工夫 日額二圓以上五圓以下

常傭人夫 日額一圓以上二圓以下

職工見習工夫見習 日給三圓五拾錢以下

第三條 給料ハ勤務日數ニ應ジ之ヲ支給ス但シ左ノ場合ニハ出勤セザルモ給料ヲ支給ス

一、休暇日

二、職務ノ爲傷痍ヲ受ケ町醫ニ於テ休養ヲ要スルモノト診斷シタルトキ

第四條 工事ノ都合ニ依リ別ニ規定スル執務時間外ニ早出居残り若ハ臨時夜間ニ於テ勤務セシメタル場合ハ一時間毎ニ一日給料額ノ十分ノ一ヲ加給ス其午後十時ヨリ翌日午前六時迄ハ更ニ十分ノ一ヲ増給ス但シ一時間ニ充タザル端數ニ對シテハ加給セズ

第五條 水中其他困難ナル作業ニ從事シタル者ニ對シテハ一時間毎ニ一日給料額ノ十分ノ一ヲ

加給ス其ノ特ニ困難ナルモノト認メタル場合ハ更ニ十分ノ一ヲ増給スルコトヲ得

第六條 傭人ニシテ水源地工事ニ從事スル者ニ對シテハ左ノ日額手當ヲ支給ス

一、職工工夫 日額二十錢

二、常夫職工見習 日額 十錢

第七條 職工工夫ヲ工事區域外ニ出張セシメタルトキハ左表ノ旅費ヲ支給ス但シ支給方法ハ米子町諸給與規程ヲ準用ス

鐵道賃(每一哩)	船賃(每一哩)	車馬賃(每一里)	宿泊料(每一夜)	日當(每一日)
五錢	六錢	六十錢	三圓	一圓五十錢

第八條 給料ハ毎月十五日及末日ノ二回ニ其ノ前半ヶ月分ヲ支給ス

附 米子市水道使用條例 昭和二年四月一日鳥取縣告示第七十五號

第一章 通則

第一條 給水ハ計量ノ方法ニ依リ其ノ計量ハ本市所定ノ量水器ニ依リ定ム

第二條 給水ノ設備ヲ分チテ左ノ三種トス



- 一、専用栓 一箇ノ給水栓ヨリ一家屋 一區域ノ土地又ハ船舶ニ給水スルモノ
- 二、共用栓 一箇ノ給水栓ヨリ二戸以上ノ家屋ニ給水スルモノ
- 三、防火栓 消防用ニ給水スルモノ

第三條 給水装置トハ本市ニ於テ施行セル給水用具及給水管ヲ總稱ス

給水管トハ配水管ニ接続シタル止水栓又ハ制水弁ヨリ流末ノ水管ヲ謂ヒ其ノ幹線ヲ給水本管ト稱シ之ヨリ分岐スルモノヲ給水支管ト稱ス

自家装置トハ給水装置所有者ニ於テ其装置ニ關シ施工セル水管水槽其ノ他各種ノ設備ヲ總稱ス

第四條 給水ハ晝夜不斷トス但シ變災又ハ水道ノ故障工事其ノ他止ヲ得ザル場合ニ於テハ給水時間水量用途等ヲ制限シ又ハ給水ヲ停止スルコトアルベシ

前項ノ場合ニ生ズル損害ニ對シテハ本市ハ其ノ責ニ任ゼズ

第一項但書ニ依リ給水停止ノ場合ハ豫メ其ノ區域時間及原因ヲ告知ス其ノ變災ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 上水ハ濫用又ハ他ニ分與シ若ハ販賣スルコトヲ得ズ

船舶給水栓ハ其ノ所有者ニ於テ給水栓設置ノ場所ニ繋留スル自用ノ船舶ニ給水スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ許可ヲ得タルトキハ自用以外ノ船舶ニ給水スルコトヲ得

第六條 自費ヲ以テ防火栓ノ設置ヲ請求スルモノアルトキハ之ヲ許可スルコトアルベシ

前項ノ防火栓ヲ消火用以外ニ使用セムトスルトキハ許可ヲ受クベシ

火災ノ爲防火栓ヲ使用シタルトキハ消火後二日以内ニ其旨届出ヅベシ

私設屋外消火栓ハ防火ノ爲公設消火栓ト同一ノ使用ヲ爲スコトアルベシ此ノ場合ニ於テ設置者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ給水装置又ハ家屋ノ所有者ハ本市内ニ居住セル管理人

一名ヲ選定シ連署ノ上直ニ届出ヅベシ其ノ變更ノ場合亦同ジ

一、給水装置所有者ハ本市内ニ現住セザルトキ

二、共用栓ヨリ給水ヲ爲スベキ家屋又ハ給水装置ノ所有者二名以上ナルトキ

市長ハ管理人不適當ナリト認メタルトキハ更ニ選定ヲ命ズルコトアルベシ

第八條 第七條ノ管理人ハ本條例ニ規定シタル義務ニ付給水装置又ハ家屋ノ所有者ト連帶ノ責

ニ任ズルモノトス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ共用栓ニ依ル給水使用者タルコトヲ得ズ但シ幹支管ノ敷

設ナキ箇所ニ住居スル者ハ此ノ限リニ在ラズ

一、本市内ニ於テ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者但シ家族又ハ同竈者ノ納稅額ヲ通算ス



二、建坪十五坪以上又ハ一箇月賃貸價格拾圓以上ニ相當スル家屋ニ居住スル者但シ賃貸價格ハ市長ニ於テ査定ス

三、戸數割附加稅年額七圓以上ヲ納ムル者但シ戸數割負擔歩合未決者ニ對シテハ市長ノ認定ニ依ル

前各號ノ一ニ該當スルモ市長ニ於テ専用栓ニ依リ難キ事情アリト認メタル者ニ對シテハ期間ヲ定メ特ニ共用栓ヲ使用セシムルコトアルベシ

第十條 給水裝置ハ給水栓ノ外水道係員ニ非ザレバ之ニ觸ル、コトヲ得ズ但シ許可ヲ得タル部分ハ此ノ限りニ非ズ

第十一條 給水ヲ爲スベキ家屋ノ門戸ニハ本市ヨリ交付スル標識ヲ掲グルモノトス

第十二條 第十六條ノ要件ヲ具備スル者ニ非ザレバ給水裝置所有者ノ權利及義務ヲ移轉スルコトヲ得ズ

第十三條 給水ヲ爲スベキ家屋又ハ土地ノ所有權ニ移動ヲ生ジタルトキハ其ノ旨給水裝置所有者ヨリ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ給水裝置ヲ有スルモノハ其ノ處分ヲ届出ヅベシ若シ届出ヲ爲サザルトキハ給水裝置ニ關スル權利及義務ヲ同時ニ移轉シタルモノト看做ス

第十四條 給水裝置ノ検査ヲ爲ストキハ一定ノ證票ヲ携帯スルモノトス

第二章 給水裝置及工事費

第十五條 給水裝置ノ工事ハ本市之ヲ施行シ其ノ費用ハ請求人ノ負擔トス請求人自己ノ材料ヲ提供セムトシ又ハ自家裝置ヲ爲サルトキハ検査ノ上許可スルコトアルベシ

前項ノ検査ニ對シテハ左ノ検査手数料ヲ前納スベシ再検査ノ場合亦同ジ

- 一、内徑五十耗未滿水管屬具其ノ他 一箇ニ付 金貳拾錢
- 一、同上ノ鐵管及鉛管 一本ニ付 金五拾錢
- 一、同上自家裝置 一工事ニ付 金 貳圓
- 一、内徑五十耗以上ノ鐵管及屬具 一本又ハ一箇ニ付 金壹圓
- 一、同上自家裝置 一工事ニ付 金 五圓

本條ノ検査申請後其ノ取消ヲ爲スモ既納ノ手数料ハ還付セズ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ非ザレバ給水裝置ヲ請求スルコトヲ得ズ  
一、給水ヲ爲スベキ土地若ハ家屋所有權者

二、官公署、官公立學校、官公立病院

第十七條 給水裝置ノ工事ヲ請求スル者ハ修繕又ハ撤去ノ外一工事毎ニ設計手数料金五拾錢ヲ添



へ市長ニ申込ムベシ實地検査後之ガ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同ジ

前項ノ請求ヲ爲シタル者三十日以内ニ第二十二條、第二十三條第一項ノ規定ヲ履行セザルトキハ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

請求ヲ爲シタル後取消ヲ爲スモ既納ノ手数料ハ還付セズ

第十八條 給水装置ノ工事請求ヲ受ケタルトキハ本市ニ於テ設計ノ上工費額ヲ請求者ニ通告シ其ノ工費ヲ前納セシム但シ修繕工事ニシテ急ヲ要シ費用調査ノ暇ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ工費ハ工事落成後其ノ費用ニ過不足ヲ生ズルトキハ追徴又ハ還付ス

工費通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ納付セザルトキハ工事ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

工事施行ニ際シ請求人ノ責ニ歸スベキ事故ノ爲工事ニ着手シ能ハザルカ若ハ中止シタルトキハ之ニ對スル損害ヲ請求人ヨリ賠償セシムルコトアルベシ

第十九條 前條ノ工費ヲ一時ニ納付スルコト能ハザル者ニ對シテハ給水開始ノ月ヨリ十箇月以内ノ月賦分納ヲ許可スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ毎月工費金額ノ百分ノ一ヲ加算ス  
工費分納ニ係ル給水装置ハ月賦完納ニ至ル迄本市ニ於テ其ノ所有權ヲ留保ス  
留保中ハ設置請求者ヲ保管者ト看做ス

本條例ノ規定ノ違背シタルトキハ月賦分納ノ許可ヲ取消スコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ未納金ヲ即納セシム

第二十條 工費月賦分納ノ許可ヲ得タル者ハ保證人連署ノ月賦證書ヲ市長ニ差出スベシ  
保證人ハ本市ニ居住シ土地又ハ家屋ヲ所有シ直接國稅三圓以上ヲ納メ市長ノ承認シタル者ニ限ル、保證人ハ連帶責任ヲ負フモノトス

第二十一條 官公署、官公立學校、官公立病院ニ對シテハ工事完了後手数料及費用ヲ徴收スルコトヲ得

第二十二條 給水装置ノ位置ハ請求人ニ於テ之ヲ指定スベシ但シ其位置不適當ト認ムルトキハ變更セシムルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ第三者ノ異議アルモ本市ハ其ノ責ニ任ゼズ

第二十三條 他人ノ給水管ヨリ支管ヲ分岐セムトスル者ハ所有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス  
前項ノ所有者ニシテ給水管ノ位置ヲ變更シ又ハ撤去セムトスルトキハ五日以前ニ支管所有者ニ通知スベシ此ノ場合ニ於テ支管所有者何等ノ手續ヲ爲サルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

第二十四條 給水装置ノ工事落成後六箇月以内ニ破損シタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ之ヲ修繕ス



前項ノ期間内ト雖モ故意若ハ不注意ニ起因スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 幹支水管ノ敷設ナキ箇所ニ於テハ專用栓ノ設置ヲ拒絶スルコトアルベシ但シ請求者ニ於テ工事費全部ヲ寄附スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 量水器及水栓ハ清潔ニ保管シ且検査修理等ノ爲設置ノ場所ニ出入ヲ容易ナラシムベシ量水器及水栓設置後加工物其ノ他障害ノ爲位置不適當ニシテ移轉ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ位置ヲ變更セシムルコトアルベシ

第三章 給 水

第二十七條 給水ヲ受ケムトスルトキハ專用栓ニ在リテハ其ノ使用者ヨリ管理人ヲ設クベキモノニアリテハ管理人ヨリ其ノ栓ニ對スル一箇月ノ最低料金ニ相當スル金額ヲ添ヘ市長ニ請求スベシ但シ給水装置所有者以外ノ者ニ在リテハ所有者ノ連署ヲ要ス  
前項ノ納付金ハ閉栓ノ際之ヲ還付ス

第二十八條 給水装置又ハ量水器ノ破損シタルトキハ直ニ修繕ノ請求ヲ爲スベシ

第二十九條 量水器ニ異狀ヲ生ジ其ノ指點數實際ノ使用水量ニ差異アリト認メタルトキハ前同點檢ノ時ヨリ改修ヲ終ル迄ノ消費水量ハ前回ノ消費水量ノ割合ヲ以テ之ヲ査定シ若シ前回消費量ニ依リ難キトキハ改修初同點檢迄ノ消費量ニ依リ査定ス

第二十條 給水装置破損ノ爲多量ニ出水セリト認メタルトキ又ハ量水器ノ下流ニ在ル防火栓ヲ消火ノ爲使用シタルトキハ前條ニ準據シ消費水量ヲ査定ス但シ第二十八條ノ手續ヲ爲サザルモノ及自家装置若ハ故意ニ因ル破損ノ場合ハ此ノ限リニ在ラズ

第二十一條 量水器ノ作用ニ關シ試験ヲ請求スルトキハ日時ヲ指定シ之ヲ試験ス此ノ場合ニ於テハ其ノ試験ノ成績ヲ以テ終局ノ決定トス

試験ノ結果指點水量公差ヲ超過シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ前回消費水量點檢以後ノ消費水量ヲ訂正ス若シ公差以内ナルトキハ左ノ試験手数料ヲ徴收ス

一、口徑二十五耗以下 一箇ニ付 金壹圓

一、口徑三十耗以上七十五耗以下 同 金貳圓

一、同百耗 同 金參圓

一、同百二十五耗以上 同 金四圓

試験ノ際ハ請求人又ハ代理人ヲシテ立會セシム若シ指定ノ日時ニ立會セザルモ其ノ結果ニ就テハ異議ヲ申立ルコトヲ得ズ

第三十二條 共用栓ヲ使用スル者ニハ鑑札ヲ貸與ス鑑札ハ給水栓使用ノ際必ず携帯スベシ  
鑑札ハ他ニ貸與スルコトヲ得ズ



鑑札ヲ毀損亡失ノ爲再渡スルトキハ手數料金貳拾錢ヲ徵收ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ其ノ前日迄ニ市長ニ申出ヅベシ

一、給水ヲ廢止セムトスルトキ

二、給水種別ノ變更ヲ請求セムトスルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ鑑札ヲ使用スル者ハ同時ニ之ヲ返納スベシ

第四章 料 金 及 徵 收

第三十四條 水道使用料ハ消費水量ニ從ヒ左ノ給水種別ニ依リ使用者又ハ管理人ヨリ之ヲ徵收ス

但シ月ノ中途ニ於テ開始又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

第一種 専用栓ヨリ家事用ニ使用スルモノ

消費水量一戸一箇月十立方米迄 金九拾錢

第二種 共用栓ヨリ家事用ニ使用スルモノ

私設 消費水量一戸一箇月八立方米迄 金六拾錢

公設 消費水量一戸一箇月五立方米迄 金參拾錢

第三種 官衙、公署、學校、病院、醫院、劇場、會社、工場、市場、寄席、宿屋、貸座敷、料理屋、飲食店、魚屋、漬物商、植木商、醸造物販賣商、搾乳業、洗濯業、其他市長ニ於テ認定シタルモノ

長ニ於テ認定シタルモノ

消費水量一戸一箇月二十立方米迄 金壹圓五拾錢

第四種 湯屋營業ニ使用スルモノ

消費水量一戸一箇月百三十立方米迄 金五圓五拾錢

第五種 噴水、庭園、工事、園藝、其他臨時ニ使用スルモノ

消費水量一箇月十立方米迄 金參圓

第六種 船舶ニ使用スルモノ

消費水量一立方米ニ付 金貳拾錢

一區域ニ對シ給水スルモノハ之ヲ一戸ニ給水スルモノト看做ス月ノ中途ニ於テ給水種別ヲ變更シタルトキハ重キニ從ヒ使用料ヲ徵收ス

第三十五條 消費水量前條ノ定限ヲ超過シタルトキハ其ノ超過水量ニ對シテハ左ノ割合ヲ以テ使

用料ヲ計算ス

第一種	一立方米ニ付	金九錢
第二種	同 上	金八錢
		私設 金五錢
第三種	同 上	金七錢
第四種	同 上	金四錢



第五種 同 上 金貳拾五錢

第三十六條 量水器ハ本市ニ於テ取付ケ左ノ使用料ヲ徴收ス

- 一、内徑十三耗 一箇一箇月ニ付 金拾錢
- 二、同 十六耗 同 上 金貳拾錢
- 二、同 二十耗 同 上 金參拾錢
- 四、同 二十五耗 同 上 金五拾錢
- 五、同 五十耗 同 上 金壹圓
- 六、同 七十五耗 同 上 金貳圓

以上二十五耗ヲ増ス毎ニ金壹圓ヲ加フ

第三十七條 一箇ノ量水器ニ據リ二戸以上ノ給水ヲ計畫スルモノハ第三十四條ニ依リ各戸ノ定限水量ヲ合計シタル總額ヲ以テ消費水量ノ定限トス

第三十八條 一箇ノ量水器ヨリ使用料ノ異ナル二種以上ノ用途ヲ使用スルトキハ定限以上ノ消費水量ニ對シテハ重キニ從ヒ使用料ヲ徴收ス

第三十九條 一戸又ハ一區域内ニ二箇以上ノ量水器ヲ裝置シタルモノハ各別ニ水道使用料ヲ徴收ス

第四十條 量水器ニ消費水量ヲ示サザルモノト雖給水ノ廢止ヲ届出ザル者又ハ第四條但書ニ依

リ給水ヲ制限セシトキト雖使用料ヲ減免セズ

給水ヲ停止セシ場合ハ其ノ翌月ヨリ開栓ノ前月迄使用料ヲ免ズ

第四十一條 使用料ハ一箇月毎ニ徴收ス但シ給水ヲ廢止シタル場合及臨時使用料ハ即納トス  
期間中途ニ於テ轉栓シタルトキハ各栓別ニ使用料ヲ徴收ス

第四十二條 消費水量ハ毎月量水器ヲ點檢シ其ノ消費水量ヲ計算ス點檢以後ニ於ケルモノハ翌月ノ使用水量ニ算入ス

第四十三條 給水使用者若ハ管理人其ノ保管ニ係ル量水器ヲ亡失破損シ又ハ盜難ニ罹リタルトキハ相當代價ヲ辨償セシム但シ不可抗力ニ因ル變災若ハ自然ノ破損ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 慈善團體及貧困者ニシテ使用料ノ負擔ニ堪ヘズト認ムル者ハ市長ニ於テ公益上特ニ必要アリト認ムル者ニ對シテハ使用料ヲ減額若ハ免除スルコトアルベシ

第五章 違 背 者 處 分

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五圓以下ノ過料ヲ科ス但シ情狀ニ依リ其ノ處分ヲ輕減シ又ハ免除スルコトアルベシ

- 一、水道係員ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ妨害シタルトキ
- 二、量水器ノ作用ヲ妨害シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ使用料ノ逋脫ヲ圖リタルトキ



- 三、第五條及第六條第二項第三項ニ違背シタルトキ又ハ情ヲ知リテ上水盗用セシメタルトキ
  - 四、給水鑑札ヲ他人ニ使用セシメ若ハ摸造品ヲ使用シタルトキ
  - 五、濫ニ水道ヲ破損シ若ハ之ニ工事ヲ施シ又ハ許可ヲ受ケズシテ自家装置ヲ爲シタルトキ
  - 六、上水ヲ請求以外ノ用途ニ使用シ若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ
  - 七、第七條第十條第二十八條ニ違反シタルトキ
- 本條第一項第二號乃至第六號ニ該當スルモノハ其ノ違反ノ行爲アリタル期間ニ於テ遁脱シタル水量ハ市長之ヲ査定ス
- 使用料工事費辨償金其ノ他ノ料金ヲ指定ノ期日内ニ完納セザルトキハ其ノ栓ノ給水ヲ停止スルコトアルベシ
- 給水ノ停止中濫リニ止水栓制水辨ヲ開栓シ又ハ封印ヲ破毀シタルトキハ配水管トノ聯絡ヲ切斷スルコトアルベシ
- 一箇ノ量水器ヨリ使用者二戸以上ニ給水スルトキ其ノ使用者中本條例違反ノ爲同時ニ停水セラル、コトアルモ他ノ使用者ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ
- 第一項第五號ノ違背者ニ對シテハ時日ヲ査定シテ其ノ加工物若ハ自家装置ヲ撤去セシム若其ノ期間内ニ撤去セザルトキハ本市ニ於テ撤去シ其ノ費用ヲ徴收ス

- 第四十六條 停水處分ヲ解除スル場合ニ於テ處分ニ要シタル費用ハ之ヲ徴收ス
- 第四十七條 給水ヲ爲スベキ家屋ノ居住者ニシテ違反ノ行爲アリタルトキハ當該給水使用者又ハ管理人モ共ニ其ノ責ニ任ズルモノトシ第四十五條及第四十六條ヲ適用ス

雜 則

- 第四十八條 本條例ノ施行細則ハ市長之ヲ定ム
- 第四十九條 本條例ハ昭和二年度ヨリ之ヲ施行ス
- 第五十條 第十七條ノ設計手數料及第二十六條第一號ノ使用料ハ當分ノ内徴收セザルコトヲ得

水道使用條例施行細則

- 第一條 本市水道使用ニ關シテハ水道使用條例(以下單ニ條例ト稱ス)ニ規定スルモノノ外本則ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 給水装置ノ爲他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ其ノ所有者ノ承諾書ヲ工事請求書ニ添付スベシ
- 條例第二十三條ニ依リ支管ヲ分岐セムトスルトキハ本管所有者ノ承諾書ヲ工事請求書ニ添付



スベシ

前二項ノ所有者ニ異動ヲ生ジタルトキハ更ニ承諾書ヲ提出スベシ若シ新所有者ノ承諾ヲ得ルコト能ハザルトキハ給水管ヲ切斷ス

第三條 私設共用栓ヲ設置セムトスルトキハ設置ノ場所、設置者、竝使用者ノ住所氏名及職業ヲ具シ市長ニ請求スベシ

第四條 條例第六條ニ依リ防火栓ヲ消火演習其ノ他消火用以外ニ使用セムトスルトキハ其ノ目的竝使用日時ヲ具シ市長ニ申請スベシ

前項ノ使用水料ハ條例第三十五條第五種ニ依リ水量ハ市長之ヲ査定ス但シ消火演習ニ使用スルモノニ在リテハ一年一回十五分間ヲ限リ特ニ使用料ヲ徴收セザルコトアルベシ

第五條 條例第十五條ニ依リ自己ノ材料ヲ提供シ若ハ自家裝置ヲ爲サムトスルトキハ材料明細書、工事設計書、仕様書、圖面竝工事期間及請負人ノ住所氏名ヲ具シ検査手数料ヲ添へ市長ニ申請スベシ

第六條 水道使用者轉居死亡相續讓渡其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添へ給水裝置所有者ノ連署ヲ以テ市長ニ届出ヅベシ

第七條 給水裝置所有者又ハ給水使用者ノ都合ニ依リ量水器ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ市

長ニ請求スベシ其ノ變更位置ハ市長ノ決定ニ依リ工事費ハ請求者ノ負擔トス

第八條 自家裝置ノ許可ヲ得タル者左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アリタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

- 一、検査ヲ受ケザル材料ヲ使用シタルトキ
- 二、監督若ハ検査吏員ノ指示ニ従ハザルトキ
- 三、完全ナル工事ヲ施工セザルトキ

第九條 市費ヲ以テ負擔スベキ給水裝置ニ關スル工費ハ配水管ノ布設シアル道路及幅員六尺未満ノ公共用溝渠ニ屬スル部分トス

第十條 幹支水管ノ布設ナキ箇所ニ於ケル配水管ノ布設ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外左ノ需用戸數ニ達シタル場合ニ之ヲ行フモノトス

分界線ヨリノ距離	専用ノミノ場合	私設共用栓合算ノ場合	私設共用	私設共用栓ノ場合
三〇間迄	三戸以上	二戸以上	二戸以上	五戸以上
六〇間迄	六戸以上	四戸以上	三戸以上	九戸以上
九〇間迄	九戸以上	六戸以上	五戸以上	十四戸以上
一二〇間迄	十二戸以上	八戸以上	六戸以上	十八戸以上
一五〇間迄	十五戸以上	十戸以上	八戸以上	二十三戸以上



一八〇間迄	十八戸以上	十二戸以上	十戸以上	二十七戸以上
一八〇間以上	前記ノ標準ニ依リテ定ム			

一、「専用、私設共用合算ノ場合欄ノ戸數ハ専用私設共用ノ何レカ其ノ一方ノ戸數最低標準ヨリ多キ場合ハ一方ノ戸數標準ニ達セサルモ斟酌スルモノトス

第十一條 公設共用栓ハ使用戸數十五戸乃至三十戸ヲ標準トシテ之ヲ施設ス但シ市長ハ土地ノ狀況ニ依リ戸數ノ制限ヲ斟酌スルコトアルベシ

第十二條 共用栓ノ使用者ハ其ノ水栓ノ使用者組合ヲ組織シ管理人一名ヲ定メ連署ヲ以テ届出ツベシ管理人ハ其ノ水栓ノ管理料金ノ取纏納付其ノ他一切ノ責ニ任ズベシ

組合員ヨリ提出スル書類ハ總テ管理人ノ連署ヲ要ス  
 管理人ニハ當該組合ニ於テ一戸一ヶ月金五錢ヲ超ヘザル範圍内ニ於テ報酬ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 條例第四十二條ニ依ル量水器點檢ノ定日及區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

點檢日	區	域
毎月十一日	勝田町、博勞町一丁目、博勞町二丁目、榮町、灘町二丁目	
十二日	糝町一丁目、糝町二丁目、法勝寺町、西町、内町、郭内	

十三日	道笑町三丁目、長田、東倉吉町、灘町一丁目、寺町、立町二丁目、立町三丁目、立町四丁目、角盤町四丁目
十四日	道笑町一丁目、道笑町二丁目、加茂町
十五日	角盤町二丁目、角盤町三丁目、四日市町、万能町、日野町、茶町
十六日	西倉吉町、鹽町、大工町一丁目、大工町二丁目、東町、中町
十七日	西大谷、天神町一丁目、天神町二丁目、岩倉町、立町一丁目
十八日	紺屋町、角盤町一丁目、朝日町、尾高町

附 則

第十四條 條例第五十條ニ依リ大正十五年九月三十日迄設計手数料及量水器使用料ヲ徴收セズ  
 第十五條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水道巡視職務規程

第一條 水道巡視ハ上司ノ指揮ヲ受ケ左ノ事務ニ従事スルモノトス

- 一、水道ニ對スル不正不法行爲ノ取締
- 二、水道使用ノ獎勵
- 三、量水器ノ點檢



- 四、水道使用料金ノ算定
- 五、水道ニ關スル料金其ノ他諸納金納付ノ督勵及其ノ滯納處分
- 六、前各號ノ外特ニ命ジタル事項

第二條 第一條第一號ノ取締事項ノ概目左ノ如シ

- 一、給水ノ分與販賣及目的以外ノ使用
- 二、給水ノ盜用
- 三、給水管給水用具量水器及流末裝置ノ無斷變更改造修繕施設及撤去
- 四、量水器作用ノ妨害使用料ノ標準タル要件届出ノ懈怠及虚偽ノ申告其ノ他使用料逋脱行爲
- 五、消火栓ノ無斷開栓及封緘ノ破毀
- 六、給水鑑札及鍵ノ貸借及不正鍵類ノ使用
- 七、給水鑑札不携帯者ノ汲水
- 八、給水ノ中止廢止給水種類用途變更届出ノ懈怠
- 九、水道係員ノ職務執行ニ關スル妨害行爲
- 十、水道關係法令條例規定ノ違背行爲
- 十一、前各號ノ外水道設備ノ保全水道收入ノ適正ヲ妨グベキ行爲

第三條 勤務時間左ノ如シ

- 一月ヨリ三月ニ至ル 午前八時三十分ヨリ午後四時迄
- 四月ヨリ十月ニ至ル 午前八時ヨリ午後五時迄
- 十一月ヨリ十二月ニ至ル 午前八時ヨリ午後五時迄

特ニ命令アリタルトキ又ハ職務執行上必要アルトキハ前項ノ時間ニ拘ラズ勤務スベシ

第四條 職務執行中ハ規定ノ制服ヲ着用シ水道吏員ノ徽章並給與ノ手帳ヲ携帯スベシ但シ取締上必要アル場合ハ豫メ上司ノ承認ヲ受ケ特ニ制服ヲ着用セザルコトヲ得

第五條 職務執行中見聞又ハ處置シタル事故ニシテ必要ノ事項ハ歸廳ノ上別ニ定ムル帳簿ニ依リ市長ニ報告スベシ

第六條 配水管給水管又ハ給水用具ノ異狀等急ヲ要スル事項ハ直ニ主任吏員若ハ宿直員ニ通報スベシ

第七條 水道ニ關スル法令又ハ條例違反者ヲ認知シタルトキハ事實ヲ精査シ市長ニ報告スベシ

第八條 水道未使用者ニ對シテハ機會アル毎ニ水道ノ使用ヲ勸奨スベシ

第九條 平素水道ニ關スル諸納金ノ納期內完納ヲ督勵シ且滯納者ニ對スル處分事務ニ從事スベシ

但シ督促令狀ノ發付財産差押ノ處分ハ市長ノ命令アリタル場合ニ限ル

前項差押處分ヲ爲ストキハ證票ヲ携帯スベシ



第九條 職務執行ニ係ル事務ハ遲滞ナク之ヲ整理シ其ノ必要アルモノハ統計報告ヲ爲スベシ  
 第十條 本規程ニ定ムルモノ、外市吏員服務心得ヲ遵守スベシ

附 則

第十一條 本規程ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水道巡視服制

品名	種	別	冬		夏	
			衣	袴	衣	袴
帽	地製	質式	黒絨		白小倉	
子	徽製	質式	海軍形黒革製前庇及頤紐ヲ附ス形状圖ノ如シ 前草ハ稻ノ穂形金モールニテ米ノ字ヲ抱キ上部ニ水ノ字ヲ冠ス帽ノ周圍ニハ巾五分ノ 黒蛇腹組線二線中央ニ巾二分ノ綠色小線ヲ附ス		白線巾五分ノモノ一條ヲ附ス 冬衣ニ同シ	
冬	上製	質式	黒絨		白小倉	
衣	衣	質式	背廣型立襟形状圖ノ如シ 巾三分ノ綠色線一條ヲ附ス 前釦金色圓形艶消五個ヲ附ス		冬衣ニ同シ	
袴	地製	質式	黒絨		白小倉	
夏	地製	質式	黒絨		白小倉	

靴	外	夏	
		衣	袴
製	雨徽製地	衣	袴
式	覆章式質	釦袖製地	製地
	地質ハ黒絨形状圖ノ如シ 襟ニ水道徽章ヲ附ス 通常マント形	章式質	式質
	黒皮紐付短靴	白小倉	白小倉

備考 夏衣日覆ハ毎年六月一日ヨリ九月三十日迄着用スルモノトス

水道傭人勤勞心得

第一條 本心得ニ於テ傭人ト稱スルハ職工職工見習工夫其ノ他水道作業勞働ニ從事スル傭人ヲ謂フ



第二條 傭人ハ係員ノ指揮命令ニ服從シ忠實ニ其ノ職務ヲ恪守シ人ニ接スルニハ言語ヲ慎ミ苟モ粗放ノ行爲ナク最モ丁寧親切ナルベシ

第三條 勤務時間及休暇日左ノ如シ

一、勤務時間

三月一日ヨリ六月三十日迄 午前七時ヨリ午後五時ニ至ル

七月一日ヨリ九月三十日迄 午前六時三十分ヨリ午後五時三十分ニ至ル

十月一日ヨリ二月末日迄 午前七時三十分ヨリ午後五時ニ至ル

二、休暇日

一月一日 二日 三日 二月十一日

四月二十九日 十二月三十日 三十一日

毎月第一及第三日曜日

第四條 業務上必要ノ場合ハ勤務時間外若ハ休暇日ト雖執業セシムルコトアルベシ

廢休ヲ命ジタルトキハ業務上差支ナキ日ニ於テ代日休暇セシム

第五條 毎日始業時刻十分前迄ニ出勤シ出勤簿ニ捺印シ勤務ニ従事スベキ準備ヲ爲スベシ

第六條 勤務時限ニ達シタルトキハ直ニ業務ニ就キ終業退散ノ際ハ能ク工事又ハ作業用品ヲ整

理シ工場ノ掃除ヲ爲シ係員ノ検査ヲ受クベシ

第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ遅參又ハ出勤時限前迄ニ其ノ旨届出ヅベシ但シ豫知シ得ラル、事故ノ爲出勤スル場合ハ前日中ニ届出ヲ要ス

疾病ニ依リ出勤七日ニ及ブトキハ醫師ノ診断書ヲ添へ届出デ再後七日毎ニ同様届出ヅベシ

第八條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ早退セムトスルトキハ係員ニ届出テ許可ヲ受クベシ許可ナクシテ早退セル者ハ出勤ト看做シ當日ノ給料ヲ支給セズ

第九條 傭人ハ一名交番ヲ以テ宿直及休暇日ノ日直ヲ爲スベシ但シ必要ニ依リ二名以上ト爲スコトアルベシ

宿直及日直心得ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 水火風震等非常ノ際ハ速ニ出頭シ係員ノ指揮ヲ受ケ防護ニ従事スベシ

第十一條 傭人中技能優秀ニシテ品行方正ナル者一名ニ對シ職夫長ヲ命ズルコトアルベシ

職夫長ハ自餘ノ傭人ヲ取締リ不都合ノ所爲アルコトヲ認知シタルトキハ其旨係員ニ申告スベシ

第十二條 傭人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アル者ハ譴責シ又ハ解職スルコトアルベシ



- 一、係員ノ指揮命令ニ服從セズ又ハ侮辱若ハ反抗的舉動アリタル者
- 二、恣ニ遲參又ハ缺勤シタル者
- 三、勤務時間中許可ヲ得ズシテ外出シ又ハ濫リニ業務ヲ離レ若ハ早退シタル者
- 四、外勤中業務ヲ怠リ或ハ恣ニ就業ノ位置ヲ去リタル者
- 五、各自保管ノ道具箱ニ鎖鑰ヲ怠リ又ハ使用材料ヲ取散シタル儘退散シタル者
- 六、火氣ノ取扱ヲ疎略ニシ又ハ必要ナキ箇所ニテ濫リニ之ガ取扱ヲ爲シタル者
- 七、工事若ハ作業用品ヲ係員ノ許可ナクシテ使用シ又ハ恣ニ器具材料ノ格納場所ニ立入りタル者
- 八、私ニ個人ノ依頼ニ應ジ給水ノ施設工事ヲ爲シ又ハ修繕工事ヲ爲シタル者
- 九、消耗品若ハ作業材料ヲ浪費濫用シ又ハ故意怠慢ニ依リ工事若ハ作業用品ヲ毀損亡失シ又ハ腐朽セシメタル者
- 十、制帽作業服ヲ着用セザル者
- 十一、業務上疎略ノ廉アリタル者
- 十二、前各號ノ外不都合ノ行爲アリタル者

第十三條 職工職工見習工夫ニ採用セラレタルトキハ直ニ身元保證人ノ連署ヲ以テ保證書ヲ差出ス

ベシ

身元保證人ハ本市内ニ居住スル戸主ニシテ直接國稅ヲ納付スル者ニ限ル  
自己又ハ身元保證人ノ住所氏名身分等ニ變更アリタルトキハ其ノ旨速ニ届出ヅベシ  
保證人死亡又ハ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ相當保證人ヲ定メ更ニ保證書ヲ差出スベシ

水道傭人諸給與規程

- 第一條 本規程ニ於テ傭人ト稱スルハ職工職工見習工夫常傭夫ヲ謂フ
- 第二條 傭人ノ給料ハ日給トシ所定ノ始業時間ニ遲參又ハ所定就業時間ノ内早退スルトキハ一時間毎ニ日給額ノ十分ノ一ヲ減給ス
- 第三條 所定ノ時間外就業セシトキハ勤務作業ノ工程ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ給料ヲ加給ス
  - 一、始業時間二時間及終業時刻午後十時迄ハ一時間毎ニ日給額ノ十分ノ一
  - 二、午後十時後ヨリ始業時刻前二時間迄ハ一時間毎ニ日給額十分ノ二
- 第四條 給料ハ勤務日數ニ應ジ毎月二十六日之ヲ支給ス但シ支給日休日ニ當ルトキハ繰下トス  
解傭又ハ死亡等ノ爲定日外支給ヲ要スル場合ハ隨時之ヲ支給ス
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ勤務セザルモ給料ヲ支給ス



- 一、別ニ定メタル休暇日
- 二、職務ノ爲傷痍ヲ受ケ市醫ニ於テ休養ヲ要スルモノト診断シタルトキ
- 第六條 工事區域外ニ出張セシメタルトキハ旅費ヲ支給ス旅費額ハ其ノ都度之ヲ定メ其支給方法ハ米子市諸給與規程ニ依ル

第七條 本規程ニ定ムルモノ、外米子市諸給與規程ヲ準用ス

附 則

第八條 本規程ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水道巡視備人被服屬具貸與規程

- 第一條 水道巡視及職工職工見習給仕使丁ニハ本規程ノ定ムル所ニ依リ被服及屬具ヲ貸與ス
- 第二條 貸與品ノ種類員數使用期間及保存期間ハ別表ヲ以テ定ム
- 第三條 貸與品ハ新任又ハ使用期間滿了ノ際之ヲ貸與ス
- 第四條 保存期限ヲ經過シタル貸與品ハ之ヲ本人ニ給與ス
- 第五條 被貸與者退職轉職若ハ死亡シタルトキハ直ニ其ノ貸與品ヲ返納スベシ
- 第六條 貸與品ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ相當代價ヲ辨償セシム但シ職務上又ハ天災事變其

ノ他已ヲ得ザル事情ニ基因スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 貸與品ノ使用及保存期間ノ計算ハ使用及保存期間ニ在リテハ貸與ノ月保存期間ニ在リテハ使用期限經過ノ翌月ヨリ起算ス

第八條 貸與品ハ常ニ手押ヲ爲シ其ノ保存ニ注意スベシ  
被服ノ洗濯及修補保存上ノ費用等ハ總テ被貸與者ノ自辨トス

第九條 貸與品ハ必要ニ依リ隨時點檢スルコトアルベシ

附 則

第十條 本規程ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別 表

貸與品種類員數使用期限其他

貸與品種類	員數		給仕使丁	使用期間	保存期間
	巡視	職工見習			
帽子	個	個	個	一年	一年
帽子	個	個	個	一年	一年
帽子	個	個	個	一年	一年
冬服	着	着	着	一年	一年
夏服	着	着	着	一年	一年



外	作	雨	短	卷
業	服	具	靴	脚
套	鞋	鞋	鞋	鞋
一	一	一	一	一
着	着	着	着	着
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一
筒	筒	筒	筒	筒

二一八

### 第二節 臨時水道委員及委員會議事目錄

町會の決議に依り設けられた、大正十二年八月二十八日以降、同十五年四月二十七日、廢止を議決せらるゝ迄の、水道委員及其の間議決せられたる議事目錄を擧ぐれば、左の如し。

#### (イ) 臨時水道委員

任	期	氏	名	任	期	氏	名
全	自大正十二年八月二十七日	有本	松太郎	全	自大正十二年八月二十七日	名島	幸太郎
全	上大正十二年八月二十八日	四日市	庄次郎	全	上大正十二年八月二十八日	遠藤	光徳
全	上	野坂	吉五郎	全	上	板見	恒松
全	上	坂口	惣五郎	全	上	山内	定次郎
全	上	綿邊	幸四郎	全	上	大原	峯太郎

任	期	氏	名	任	期	氏	名
全	自大正十二年八月二十八日	住田	寅次郎	全	自大正十三年八月二十八日	佐野	善市
全	上大正十二年八月二十七日	池口	今造	全	自大正十三年八月二十八日	後藤	乙松
全	上	田村	源太郎	全	上大正十三年八月二十八日	由井	近藏
全	上	西山	清市	全	上大正十三年八月二十八日	河端	乙三郎
全	上	服部	勝之助	全	上大正十三年八月二十八日	井澤	幸市
全	上	落合	恒雄	全	上大正十三年八月二十八日	砂口	又吉
全	上	笹鹿	久太郎	全	上大正十三年八月二十八日	太田	善十郎
全	上	森伊	兵衛	全	上大正十三年八月二十八日	船倉	唯衛
全	上	坂口	武市	全	上大正十三年八月二十八日	船越	篤治
全	上	關久	内	全	上大正十三年八月二十八日	船越	篤治

#### 附 臨時水道委員設置規程

- 第一條 町村制第六十九條ニ依リ臨時水道委員（以下單ニ委員ト稱ス）七名ヲ置ク
- 第二條 委員ハ上水道敷設ニ關スル調査及工事監督其ノ他工事施行上ノ重要ナル事務ニ從事ス
- 第三條 委員ハ町會ニ於テ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉ス
- 第四條 委員ノ任期ハ六ヶ月トス
- 第五條 委員ニハ諸給與規程ノ定ムル所ニ依リ費用辨償ヲ給與ス



附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

(ロ) 水道委員會議事目録

開催年月日	議 案 及 協 議 事 項
大正十三年八月十九日	鐵管購買方法ニ關スル件及縣費補助ノ件
全 九月九日	水道工用セメント指名入札人決定ニ關スル件
全 九月十八日	量水器及鹽素殺菌器購入ニ關スル件
全 十月七日	制水辨契約ニ關スル件及用地ノ件
全 十月十三日	配水池土工及石積工事施行ノ件
全 十月二十九日	配水池土工及石積工事公入札執行竝ニ契約締結ニ關スル件
全 十一月一日	倉庫及鐵管置場竝ニ同工場敷地借入ニ關スル件
全 十一月十四日	配水池土工及石積工事指名入札ニ關スル件
全 十一月十九日	入札者取締警告ニ關スル件
全 十一月十九日	私設電話架設工事施行ニ付請負方法ノ件
全 十一月十九日	鐵物類購買ニ付指名者選定ノ件
全 十一月十九日	鐵管置場埋立及假橋設置工事施行請負方法ノ件
全 十一月十九日	物品購入工事請負ニ付入札執行立會ノ件
全 十一月十九日	水源敷地買収及古地井手用水路ニ關スル件

全 十二月一日	衡器購買ニ關スル件
全 十二月十二日	唧筒購買ニ關スル件
全 十二月一日	鐵管試驗及材料検査施行ノ件
全 十二月廿八日	水壓試驗器購入ノ件
大正十四年一月六日	古地井手水利組合委員ト會見條件協定ノ件
全 一月九日	用地買収ニ關スル件
全 一月十日	物品購入指名者選定ノ件及用地交渉ニ關スル件
全 一月十五日	ジュート糸購入ニ關スル件
全 二月四日	鉛塊指名入札執行及水源井沓鐵物請負者決定ニ關スル件
全 二月十日	水道用地買収ニ關スル件及工事材料購入及製作ニ關スル件
全 二月二十日	唧筒購買指名入札執行及消火栓其他購買指名入札執行ノ件
全 二月二十八日	唧筒及消火栓其他豫定價格決定竝ニ指名入札立會ノ件及送水線及配水池土工其他指名入札ニ關スル件
全 四月十日	送水線配水池其他工事指名入札立會竝ニ豫定價格決定ノ件
全 四月十七日	配水管布設其他工事指名入札執行ノ件
全 四月二十七日	配水池線南部土工其他工事指名入札執行ノ件
全 五月二十九日	米川及新開川水利組合委員ト會見ノ件及砂利購入ニ關スル件
全 六月二十二日	水源井ニ關スル件
全 七月三日	鐵材購買ニ付入札指名人選定ノ件
全 七月三日	町内北部配水池土工其他工事指名入札ニ關スル件及耐震接手及水位指示器竝ニ鉛塊購入ニ關スル件



全	大正十四年七月十五日	ル件並ニ鐵材指名入札執行ノ件
全	七月二十四日	町内配水線北部土工其他工事指名入札執行立會ノ件
全	八月五日	水源ポンプ室其他及記念碑建設ニ關スル件
全	九月二十九日	水源ポンプ所上家其他新築工事指名入札執行ノ件
全	十月二十八日	臨時水道部職員職工雇員傭人御用濟解職手当金給與ニ關スル件
全	十一月五日	給水工用器具及材料購買指名選定ノ件
全	十一月二十日	水道用器具及材料指名入札執行ニ關スル件
全	大正十五年一月十一日	給水ニ要スル購入品ニ關スル件
全	二月十六日	セメント購入及給水工事費ニ關スル件
全	三月六日	物品購入ノ件
全	三月十日	水源地公令新築工事請負入札ニ關スル件
全	三月十九日	水源地公令新築工事指名入札執行立會ノ件水源地植樹ニ關スル件
全	四月十四日	物品購入ニ關スル件
全	四月二十六日	解職慰勞金給與ニ關スル件
全	五月三日	水道事務所建築工事指名入札人決定ノ件及水道倉庫並ニ宿舍及試驗場上家建築工事指名入札人決定ノ件
全	五月十二日	水道事務所倉庫及宿舍並ニ試驗場上家建築工事指名入札執行ニ付立會ノ件
全	七月十三日	至急協議事項ニ關スル件
全	八月四日	鐵管類購買指名入札執行立會ニ關スル件
全		水道事務所倉庫及宿舍並鐵管試驗場上家建築工事竣功検査立會其他ニ關スル件

全	八月九日	鉛塊購入入札執行立會ニ關スル件
全	九月四日	水道竣功式期日決定其他ニ關スル件
全	十月二日	水道通水式ニ關スル件其他及物品購入ニ關スル件

### 第三節 諸願届事項

水道敷設工事の爲、關係諸官署公衙に出願或は届出たるものに付て、其の主たるものは、既に記述したるが、其他のものを列記すれば、左の如し。

記

願届年月日	事項	件名	認可年月日
大正十三年八月四日	陸地測量標移轉申請		大正十三年八月十九日
全	私設電話架設許可申請		全
全	水道布設工事着手届		十一月五日
全	河川産物採取許可願		全
全	配水管布設道路占用願		十月七日
全	石炭殻拂下願		大正十四年三月十四日
全	鐵道用地借用願		大正十三年十二月一日
全	道路兼堤塘占用願		十二月廿六日



全	大正十三年十二月十九日	米川堤防兼道路使用願	大正十四年二月廿四日
全	十二月廿四日	鐵道線路橫斷電話線架設承認願	全
全	大正十四年一月九日	自轉車免稅鑑札下附申請	全
全	一月十六日	米川堤防法部使用願	全
全	一月廿四日	私設電話柱建設ノ爲道路路占用願	全
全	二月九日	荷積車免稅檢印押捺願	全
全	三月十四日	電柱支持線移轉申請書	全
全	四月十三日	米川堤防使用願	全
全	上	新開川堤防使用願	全
全	四月十四日	全	大正十五年一月廿八日
全	四月十六日	河川產物採取願	全
全	四月廿二日	自轉車免稅鑑札下附申請	大正十四年四月廿九日
全	六月十五日	水道布設工事一部設計變更認可申請	全
全	七月六日	鐵管橋加工事施行願	全
全	八月十四日	道路兼堤塘占用願	全
全	八月十九日	湧水量報告	全
全	九月三十日	米子驛構内借用土地返還届	全
全	十一月十八日	水道給水管埋設道路路占用願	全
全	十一月十九日	水道起工竣竣功模様報告	全
全	十二月八日	水源井水量試驗追加報告	全

全	大正十五年一月十九日	米子町水道布設工事一部竣功検査願	大正十五年三月十二日
全	二月三日	米川堤塘使用願	全
全	二月五日	新開川堤塘使用願	全
全	四月一日	水道給水管埋設道路路占用願	全
全	四月十四日	米子町水道給水區域擴張並配水管増設認可申請	全
全	七月四日	元成實村水道給水管埋設道路路占用願	全
全	八月十七日	道路路占用追加願	全
全	八月十八日	米子町水道布設工事竣功届並検査願	全
全	十月十八日	元成實村水道給水管埋設道路路占用願	全
全	昭和三年八月二十日		全

### 第四節 當事者及殘務整理委員

上水道敷設事務開始の當初より、大正十五年十一月三十日、臨時水道部の閉鎖せらるゝ迄、其事務に執掌したる職員、並に其殘務を整理せられたる委員を、表示すれば左の如し。

#### 記

就任年月日	退職年月日	職名	氏名	擔當事務	備考
大正十一年四月一日		町長	西尾常彦		
全	九月九日	助役	堀江龍一郎	部長兼務	



大正十三年八月十二日	全	八月六日	大正十五年十一月四日	収入役	鹿島富一		
全	八月二十日	全	十一月三十日	顧問	和田忠治		
全	八月六日	全	四月十三日	部長	堀江龍一郎		
全	八月十六日	全	四月十三日	技師	貝塚正		
全	十二月二日	全	四月十三日	技手	村上治郎	配水池現場	
大正十四年二月四日	全	大正十四年十二月廿六日	技手	狩野寅雄	送水管現場		
全	三月廿七日	全	四月十七日	技手	田口辰造	配水池現場	
大正十五年四月九日	全	全	四月十七日	技手	金澤力太郎	水源現場	
全	四月十六日	全	四月十日	技手	岸本武雄	水道事務所建	
全	五月十四日	全	八月四日	技手	繪原寄巳	築工事監督	
全	六月二日	全	十一月三十日	工手	本池善太郎	配水管増設	
大正十三年九月五日	全	全	十一月三十日	書記	堀下三治	臨時部兼務	
全	十一月廿一日	全	十一月三十日	書記	森下三治		
大正十四年一月廿四日	全	全	十一月三十日	書記	堀江勝胤		
全	十二月二十日	全	十一月三十日	書記	本池善太郎		
大正十五年三月卅一日	全	全	五月十一日	雇	門脇梅市		
全	六月三十日	全	十一月三十日	雇	村上專一		
全	四月廿七日	全	十一月三十日	嘱託	菅原善章		

### 第五節 水道委員及水道部職員

水道委員並に水道部職員規程に依れる委員及職員の變遷を、表示すれば左の如し。

#### (イ) 水道委員

大正十五年四月廿七日	全	昭和三三年七月八日	坂口惣五郎	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月八日	仙田萬太郎
全	全	昭和三三年七月七七日	綿邊幸四郎	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	倉敷榮三郎
全	全	昭和三三年七月七七日	河端乙三郎	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	佐野善市
全	全	昭和三三年七月七七日	遠藤光徳	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	森下平八
昭和三二年七月八日	全	昭和三三年七月七七日	山形吉三郎	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	砂口又吉
全	全	昭和三三年七月七七日	森下平八	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	田村延次郎
全	全	昭和三三年七月七七日	富山立身	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	池口今藏
全	全	昭和三三年七月七七日	佐藤熊藏	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	富山立身
全	全	昭和三三年七月七七日	石田章之進	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	清山憲治
全	全	昭和三三年七月七七日	狩野政太郎	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	狩野政太郎
昭和三三年七月八日	全	昭和三三年七月七七日	富山立身	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	神邊光輝
全	全	昭和三三年七月七七日	矢野藤十郎	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	仙田萬太郎
全	全	昭和三三年七月七七日	佐野善市	昭和三三年七月八日	昭和三三年七月七日	山内定次郎



昭和六年七月八日	昭和七年七月七日	井澤幸市	昭和十年十二月七日	狩野政太郎
全	全	全	全	船越作一郎
昭和七年七月廿三日	昭和八年七月廿一日	今井菊藏	昭和十年三月十一日	足鹿覺
全	全	全	昭和十年四月十八日	田中定藏
全	全	高本毅	昭和十一年六月廿日	大木英雄
全	全	坂口二郎		池口今藏
全	全	池口今藏		坂口昇
全	全	足鹿覺		小松原甚次郎
自昭和八年十月五日 至昭和九年五月八日	昭和十年十二月七日	石田章之進		青戸辰午

(口) 水道部職員

就任年月日	退任年月日	職名	氏名	擔當事務	備考
大正十四年十月卅一日	昭和元年十二月廿七日	書記	佐久保久太郎		
全	昭和八年三月卅一日	書記	重松利貞		
全	昭和八年三月卅一日	工手	本池善太郎		
全	昭和四年三月十四日	機關士	大島廣太郎		
全	十二月廿四日	機關士	原音平		
大正十五年四月一日	昭和三年六月八日	巡視	木下賢似		

全	四月一日	巡視	服部倫		
全	四月十日	技師	金澤力太郎		
大正十五年四月十六日	昭和六年十二月九日	書記	篠村幸市		臨時水道部技手ヨリ 昇進昭和二年十一月 十七日部長任命 昭和二年十二月廿六 日履ヨリ昇進
全	九月二十日	監守	伊藤榮一		
全	十二月十四日	書記	山岡定一		
昭和二年四月一日	昭和二年四月一日	名譽顧問	和田忠治		
昭和二年十二月廿六日	昭和十年八月二十日	工手	岩田虎次郎		
全	十二月廿六日	顧問	木山利治		
昭和三年四月一日	昭和六年九月十九日	技師	飯島馨之助		昭八年四月一日巡 視ヨリ昇進 部長任命
全	十二月五日	書記	岡林益樹		
全	十二月廿六日	書記	平野藤太郎		
昭和四年三月十四日	昭和六年六月一日	機關士	藤井滋雄		
全	四月十七日	機關士	尾崎兼松		
昭和五年三月卅一日	昭和七年三月卅一日	書記	遠藤統夫		昭和十年十二月十八 日巡視ヨリ轉任
全	九月三十日	技手	前田篤輝		
昭和六年六月十八日		機關士	青木定次郎		
昭和七年三月卅一日		書記	龜山金次郎		會計兼務
昭和八年四月一日		書記	後藤勇		
昭和十年七月廿五日		技師部長	小林鴻策		土木課長兼務
昭和十年十二月十八日		巡視	服部倫		



## 第七章 水利關係者の反對

### 第一節 古地井手及皆生水源彌治兵衛

#### 開用水路附替

水源地を設備するに當りて、其用地中央を貫流する古地井手用水路は、西伯郡車尾村大字觀音寺字戸上米川、及び新開川取入口より引水して、車尾村及福生村の耕地を流域として、灌漑に需要せらるゝ、樞要の用水路である。

當町が水道水源地として、許可を受くるに及び、大正十三年十一月五日同水利組合長に對し、水路を水源地用地に沿ひ迂回せしめて、舊用水路は廢止したき旨同意方照會したるに、同月十五日付を以て、古地井手水利組合管理者福生村長松田重太郎より、別記の如く古地井手被害對策として、八箇の條件と、及二箇の別條件を要求し來つた。

古地井手被害ニ關スル要求條件左ノ通り

大正十三年十一月十五日

古地井手普通水利組合

管理者福生村長 松 田 重 太 郎

#### 條 件

- 一、米子町上水道水源地タル汲水井（取水井ノコト以下同ジ）ニ接續シテ該汲水井ト同一設備ヲ爲シ同様箇數ノ水ヲ汲ミ揚ゲ相當スル水路ヲ設ケ古地井手本流ニ送水スル事
- 二、汲揚ヲ要スル動力ハ電動力五馬力以上ノモノヲ据付ケ古地井手管理者ノ監督並ニ使用權ヲ認メ米子町ノ使用スル技術者若クハ人夫等ハ何時ニテモ使用流水ヲ爲スヲ得ル事
- 三、改修スベキ水路ノ幅員ノ總テハ管理者ノ要求ニ應ジ及施設工事ノ二監督權ヲ認ムル事
- 四、皆生水源彌治兵衛開其他ノ灌漑區域ノ用水路ハ廢セズ改修スベキ古地井手ノ東側ニ併行シテ改修シ灌水ニ支障ナキ設備ヲ爲ス事
- 五、前各項ノ費用ハ全部米子町ノ負擔トス但シ第一・二項ニ要スル經費ハ永久米子町ノ負擔タル事
- 六、米子町ノ水道使用ノ水量ハ二箇五分トス但箇數増加ノ必要アルトキハ更ニ古地井手管理者ノ承諾ヲ需ムル事此場合ニ於テ増加シタル時ハ第一項ニ基キ古地井手ヘモ同様設備ヲ爲シ同様水量ヲ流水セシムル事
- 七、水路及汲水井等用水ニ關係スル土地ハ總テ上地トシ官有地トナス事
- 八、改修シタル水路ノ永久ヲ補償スル爲メ對價トシテ米子町ハ本組合ヘ渡シ切り貳萬圓ヲ支拂フ



別條件

(一) 水路改修ノ爲メ被害アル土地ノ所有者及關係者ニ付キ承諾ヲ求メ將來異議ナキコトヲ確實ニ  
スルコト

(二) 條件成立ノ場合ニ於テ米川水利組合ニ異論ナキコトヲ確實ニ約スル事

以上の條件は、全然水利組合の杞憂にして、其灌溉水に對し、斷じて影響を及ぼすことなしと認めたるも、工事進捗上、至急圓滿なる解決を欲する爲、同組合と數回に互りて折衝し、其要求條件中の一たる用水路の新設改修、及其の破損修繕は、永久米子町の補修する事とし、並に灌溉期毎年八十八夜より二百十日に至る間、必要に應じ、水道取水同量を、古地井手に送水する爲、別に新に日野川本流より、唧筒で揚水する方法を以て、設計書を提示し、圓滿なる解決を遂げた。大正十四年十月下旬、右付替工事に着手し、大正十五年三月下旬、豫定の如く竣工した。此總工費八千三百六十八圓八錢である。

其後第三節に示めす米川新開川に關する抗議の條に於ける、米川新開川頭首工改修工事の計畫あり、之に伴ひ、日野川表流水全部を堰き止め、引水する計畫であるから、前述契約の古地井手揚水の、自然に不可能なるを以て、更に昭和二年九月、米川新開川兩水利組合と、古地井手水利組合米子市及車尾村と協調契約する所ありしか、更に昭和五年七月二十八日、米川改修工事着手に付、關係者相會して、協議の結果、同年十二月二日、米子市より米川新開川普通水利組合、又は古地井手普通水利組合に、寄附金として、當該古地井手揚水施設費設計額六千圓を交附し、古地井手及附帶水路に關する水利權、及一切の義務協定を廢棄した。

當時協定せられた、米子町と古地井手水利組合との協定書は、左記の通りである。而して一通づつ手交せられたのである。

米子町古地井手普通水利組合協定書

一、米子町ハ水道水源地ノ集水井ニ**ポンプ**ヲ据付ケ新ニ水路ヲ設ケ古池井手關係水田灌溉期(毎年自八月至二百廿日)間必要ニ應ジ晝間一日六時間米子町給水ノ爲メ毎秒汲揚スル水量ト同一箇數即チ一秒一・五四立方尺全計畫ヲ實施シタル場合ハ毎秒二・三一立方尺ノ水量ヲ古地井手本流ニ送水スルコト

二、前項ノ送水ハ組合管理者ヨリ水道管理者へ要求スルコト

三、改修スベキ古地井手水路ノ幅員第一項ニ依リ集水井ヨリ古地井手本流ニ送水スベキ水路ノ設計ハ雙方實地ニ就キ立會協議ノ上決定スルコト

四、皆生水源彌治兵衛開キ用水路ハ古地井手本流ト合流セズ別ニ水路ヲ設ケ若シ灌溉水ニ不足ス



ル場合ハ水道水源ヨリ補給スルコト

五、第一項第三項ノ新設改修及其ノ修繕ハ永久米子町之ヲ負擔シ破損等ノ爲メ應急處置ヲ爲シタル場合ニ於ケル費用モ米子町ノ負擔トス

六、米子町ハ將來水道使用水量増減ノ爲メ其ノ筋ノ認可ヲ得ムトスル場合ハ先ヅ其ノ設計ヲ古地井手普通水利組合管理者ニ協議スルコト

七、改修セル古地井水路ハ直ニ官有地ノ手續ヲ爲スコト

右協定シ本書參通ヲ作成シ兩關係者及西伯郡役所ニ各壹通ヲ保存ス

大正十三年十二月二十八日

西伯郡米子町長

西尾常彦

水道委員

井澤幸市

船倉唯衛

太田善十郎

船越篤治

河端乙三郎

由井近藏

砂口又吉

古池井手普通水利組合管理者

福生村長 松田重太郎

同組合會議員 堀安憲

伊藤雅久

野々口繁太郎

山里新市

田中繁雄

角西儀三郎

杉原市五郎

皆廣市藏

### 第二節 車尾村との折衝

大正十三年十一月五日古地井手水利組合に對し、水源地用地に付き、同意方を交渉してより、其後の折衝は前述の如くであるが、これと前後して、車尾村にも多少の物議を起こし、相當論議もせ



られたのであるが、果然同年十二月六日に至り、車尾村長より、左の如き照會に接した。

大正十三年十二月六日

車尾村長 浦 木 松 次 郎

米子町長 西 尾 常 彦 殿

照 會

今回貴町上水道布設ニ際シ其水源地ヲ本村内ニ設置相成候處左記事項ニ對シ貴職ノ責任アル御回  
答相煩度此段及照會候也

記

- 一、本村大字車尾ニ上水道水源地ヲ設ケラル、ノ結果トシテ既設ノ各用水路及用惡水路ハ水源涸  
渴ノ虞ナシトセズ村民一般ニ脅威ヲ感ジツ、アリ殊ニ前田川ハ火防上最モ必要ナルガ渴水セ  
シメザルコトニ付如何ナル設備ヲ施サル、ヤ又其設備ヲ爲サザルモ渴水シタルトキハ如何ナ  
ル方法ニヨリ之ヲ補ハル、ヤ
- 二、上水道水源地ヲ設ケラル、ノ結果トシテ彌治兵衛開ノ用水路ヲシテ灌溉水ニ不足ヲ生ゼサル  
ニハ如何ナル方法ヲ採ラル、ヤ
- 三、上水道布設ノ結果トシテ井水涸渴シテ飲料水ニ缺乏ヲ告ゲタル場合アリトセバ如何ニシテ之

ヲ補ハル、ヤ

- 四、水源地ヨリ貯水地ニ至ル道路ヲ新設セラル、場合道路橋梁用水路用惡水路溝渠等ノ接續丈ケ  
交叉點等ニ付如何ナル工事ヲ施行セラルヤ尚道路ノ兩側ニハ溝渠ノ新設セラレンコトヲ望ム
- 五、水道布設ノ結果トシテ本村地内ノ有租地ニシテ免租地トナルモノアル爲メ本村ハ永久ニ財源  
ヲ減ズルコト、ナルベシ之ニ對シ御考慮ヲ煩ハシタシ

以上

以上の照會に對しては、水源地設定の當初、調査の結果、影響する所なきものとして、憂慮すべ  
き點なしとしてゐたものであるが、同年十二月十日付で、左の如く回答した。

大正十三年十二月十日

米 子 町 長

車 尾 村 長 宛

大正十三年十二月六日付當町上水道布設ノ件御照會相成候處當町水道全計畫ハ人口五萬人ニ對ス  
ル給水ニシテ毎秒貳立方尺參壹ノ水量ニテ足り日野川伏流水最小見込量毎秒百三十立方尺ニ比シ  
極メニ僅少ニ候況ンヤ當面ノ水源施設ハ其ノ三分ノ二即チ毎秒壹立方尺五四ヲ吸揚スルニ過ギズ  
シテ其比率モ一層減少シ水源用地外ニ斷ジテ影響ヲ及ボスガ如キ事ハ無之候共萬一杞憂セラル、  
如キ事實アル場合ハ左記ニ依リ適當ニ措置可致候間御諒知被下度此段回答候也



- 一、灌溉期以外ニ於テ渴水スルヲ懸念セラル、様ナルモ其ノ際ハ當町水源ヨリ古地井手ヲ通ジテ相當水量ヲ啣送シ前田川ノ滯水ヲシテ防火上支障ナキ程度ヲ保タシムルコト、ス
- 二、皆生水源水路ハ古地井手附替部トノ交叉點ニ於テ一應該井手ニ合流セシメ下流現在路越箇所ニテ分流セシムル事トシ皆生水源水路變更ノ結果ヨリ起ル減量ハ當町水道水ヨリ補給ス
- 三、飲料水ニ涸渴ヲ生ズルガ如キ事アル場合ハ配水管ヲ布設スル等其ノ際相當ノ協調ヲ遂グルコト、致シタシ
- 四、送水線路築造ノ際ハ豫メ貴村又ハ關係地主ノ立會ヲ求メ現況ニ適合スベキ施設ヲ爲スモノトス
- 五、從來ノ有租地免租ノ爲メ貴村々税ノ減少額ハ僅々金參拾圓内外ニ過ギザルガ如ク貴村財政ノ大局ヨリ見レバ九牛ノ一毛ニダモ該當スマジク特ニ水源施設ノ結果直接間接貴村ニ及ボス好況モ亦少カラザルベシト信ズサレド之ニ對應スベキ方法ヲ講ジ差支ナキ考ナルモ目下良法案出セズ貴村ニ於テ具體案アラバ回示セラレタシ

以上

爾來幾多の日子を経るも、果して水源附近に於ける水路には、何等の異状もなく、前述の如き

事件も發生せず、眞に杞憂に過ぎなかつたことは、水源地下水の、混々として活潑々地なるを立證するもので、喜に堪へない所である。

然るに當時其附近に於いて、米川新開川農業水利改良工事の施工を見んとするに至り、又一面日野川の河床は、年々々々低下するの實況であつて、前問題と關係することなきを、如實に立證することゝなつたから、昭和五年十一月八日、左の書面を、車尾村長に送付して、責任の解消を申し入れたのである。

昭和五年十一月八日

米子市長 西 尾 常 彦

車尾村長 福 井 京 一 殿

水利上ニ關スル件

去ル大正十三年十二月六日貴村御照會ニ對シ同年同月十日附ヲ以テ回答致置候本市上水道取水施設ニ伴フ水利上ニ關スル件ハ爾來數年ヲ閱スルモ當初杞憂セラレシ如キ事實更ニ生ゼズ不安ナキヲ如實ニ立證セル次第ニ有之又今回米川新開川農業水利改良工事ノ施行ヲ見ントシ一面ニ在リテハ日野川河床ハ年々々々低下スルノ實況ニシテ今後貴村地内各種用水ニ影響アルモ本市水道取水トハ關係ナキモノト存候ニ付本市トシテハ何等補水上ノ責ニ任ゼザルモノト御諒知相成度此儀申



入候也

### 第三節 米川新開川の紛争

弓濱部十一箇町村長は、米子上水道水源地が、米川新開川の根源地點附近に位する故を以て、弓濱部を貫流する米川の流量に影響あるものとし、協議して反対意思を表示すると同時に、左の如く鳥取縣知事に對し陳情書を提出した。

#### 請願書

西伯郡米川水利關係町村長等謹テ書ヲ鳥取縣知事閣下ニ奉リ我町村民死活ノ關係ニ付訴フル所アラントス

我十一箇町村ハ右日野川及法勝寺川ヲ水源トセル米川ノ一川ニ依リ關係町村數千町歩ニ灌溉シ來レリ故ニ水量ノ増減如何ハ生死ノ因デ岐ル、重大問題タラズンバアラズ現ニ本年ノ如キハ水量缺乏及灌溉シ得ザルモノ千町歩以上ニ及ビ其ノ損害甚シク庶民ノ困難見ルニ忍ビズ之ヲ以テ今ヤ米川ノ水ヲ増スベク暗渠ヲ設クルノ議アリ然ルニ聞ク處ニ依レバ今回米子ニ上水道ヲ敷設シ水源地ヲ米川上流附近ニ設ケントスルノ計畫アリト遂ニ無識ナル吾々ハ此ノ水源地ノ他ニ影響スル所如何ハ深く知ル所ナシトセルモ位置如何ニ依リテハ我米川ノ水量ニ關係ヲ及ボスコトナキカラ深憂

ニ堪ヘザルナリ願クバ米子水道敷設ニ先チ其ノ道ノ屬僚ヲシテ精査セシメラレ我十一箇町村民ヲシテ他日死地ニ陥ルノ危険ヲ避ケシメラレムコトヲ惻願ノ至リニ堪ヘス  
右謹ンデ請願ス

大正十三年八月二十九日

- |         |   |   |   |    |
|---------|---|---|---|----|
| 西伯郡夜見村長 | 松 | 本 | 正 | 人  |
| 同 富益村長  | 足 | 立 | 財 | 五郎 |
| 同 和田村長  | 井 | 田 | 鐵 | 藏  |
| 同 大篠津村長 | 本 | 池 |   | 豐藏 |
| 同 中濱村長  | 松 | 篠 | 長 | 藏  |
| 同 餘子村長  | 佐 | 中 |   | 廉  |
| 同 上道村長  | 稻 | 賀 | 龍 | 二  |
| 同 境町長   | 野 | 口 | 清 | 三郎 |
| 同 外江村長  | 遠 | 藤 | 增 | 衛  |
| 同 渡村長   | 松 | 本 | 偵 | 治  |
| 同 崎津村長  | 永 | 田 | 堅 | 太郎 |

鳥取縣知事 木下 信殿



上水道水源を、伏流水の利用に、覓むるが如きは、地方に於ける、始ての計畫であつて、一般の認識此に至らず、相當物議の喧しきものもあり、各方面から種々の反對運動が起つたのである。上記の弓濱部十一箇町村長の協議や、陳情に就いては、随分紛争の因となつたもので、之れが諒解を得るには、極めて困難を感じたのであるが、幾多の曲折を経て、漸次に其の諒解を得、其認識を新にすることを得た。従つて工事も、何等の支障を來たさず、順調に進捗したのである。

#### 第四節 米川新開川の頭首工計畫に 對する町の抗議

源泉混々として盡きざる伏流水の豊富なる上水道は、工事も着々進捗して、今や町民歡呼の裡に完成せんとする時に當り、米川新開川普通水利組合は、灌漑用水の補給設備として、米子町上水道の上流地點、車尾村大字観音寺字戸上に於て、日野川の河床を横斷して、壁深丈餘の鐵筋混凝土堰を埋設し、日野川伏流水の、殆ど全量を堰き止めんとするの計畫を立て、國費補助の下に、縣工事を施行せんとするに至つた。此の計畫は本町の上水道に對して、一大脅威を與へるもので、其の將來に對し、憂虞せらるるところ尠からず、遂に大正十五年八月町會の決議を以て、本縣知事に對して、左の陳情書を提出して訴ふる所があつた。

#### 陳情書

本町ハ鳥取縣ノ西端ニ位シ夙ニ山陰鐵道ノ中心地トシテ知ラレ亦海運ノ便ニ富ミ交通至便商工業ハ近時長足ノ發達ヲ爲シ戸口日ニ月ニ増加シ近キ將來ニ於テ市制ノ施行ヲ見ルベキ機運ニ到達セリ然レドモ本町ハ一般ニ地質ノ關係上水質不良ニシテ飲用水ニ乏シキ而已ナラズ工業用水消防用水等ニ困窮スルコト甚シク上水道ノ敷設ハ多年ノ懸案トシテ町民ノ最モ熱望シタル所ナリシガ偶々過グル大正十一年町是調査會ニ於テ之ガ急施ノ議ヲ決シ翌十二年更ニ農商務省ニ請テ技術官ノ簡派ヲ得本町ガ最モ苦慮シタル水道水源地ヲ確定シ日野川流域ニ屬スル車尾村地内ニ於テ伏流水ヲ採取スルコトニ決シ直ニ設計ヲ爲シ工費金七拾萬圓ヲ以テ之ガ施設スルモノトシ水道敷設及工事施行ノ認可ヲ申請シタルモ偶々關東地方ノ大震災ノ變事アリ主務省ニ於ケル書類ノ燒失其ノ他ノ關係ニ依リ越テ大正十三年六月初メテ認可ノ指令アリ同年九月起工爾來工ヲ急ギ本年四月ヨリ給水ノ開始ヲ見ルニ至リ町民ノ欣躍實ニ名狀スベカラザルモノアリ今ヤ町民ハ保健防疫防火興業等各種ノ方面ニ於テ絶大ノ利便ト實益トヲ享受シツ、アリテ將來町勢發展ノ基礎確立セルモノト信ズ

然ルニ本郡米川普通水利組合ニ屬スル用水路タル米川ノ灌漑用水補給ノ設備トシテ隣接車尾村大字観音寺字戸上附近ニ於テ日野川河床ヲ横斷シテ壁深丈餘ノ一大鐵筋コンクリート堰堤ヲ埋設シ



以テ該地點ニ於ケル日野川伏流水ノ殆ンド全量ヲ堰キ留メ之ヲ米川ニ送水センガ爲メ近ク之ガ實  
 施ノ計畫ヲ樹立セラレ國費補助ノ下ニ縣事業トシテ施行スルノ議愈々進捗シ主務省ニ於テ夫々設  
 計ノ完成セラレタリト聞ケリ由來日野川ノ流量又ハ伏流量ニ關シテハ從來行ハレタル諸種ノ  
 調査ニ依リ其ノ概數ヲト知スベク別冊添付第一號本町上水道工事目論見書中取水量決定ノ理由ニ  
 記述シタル如ク伏流水ハ總量ニ於テ百三十箇ヲ出デザルベク亦別紙添付第二號農商務省主任官ノ  
 調査報告ニ依リ該地點附近ニ於ケル伏流ノ方向ハ日野川河身ヨリ左岸ニ多ク流下シツ、アルコト  
 ヲ斷定セリ而シテ前記米川取水口ノ在ル戸上ノ地ハ北西觀音寺山ヨリ戸上山ニ至ル間小丘連亘山  
 脈日野川河畔ニ迫リ山骨堤防ニ露出シ其ノ末端河床ニ達シテ岩磐ヲ形成スルモノナルコトハ之ヲ  
 想像スルニ難カラズ此ノ天惠ノ位置ヲ基點トシテ河床ヲ橫斷スル一大堰堤ヲ埋設セラル、トキハ  
 伏流水ノ殆ンド全量ヲ遮斷シ流路ノ閉塞ヲ最モ有效ナラシムルヲ以テ本事業完成ノ曉ニハ其ノ下  
 流ニ取水井ヲ設ケ日野川左岸ノ伏流ヲ水源トシテ既ニ設置シタル我米子上水道ハ最モ脅威ヲ感ズ  
 ルモノニシテ即チ米川ニ補給セラル、伏流水ノ採取量ヲ百個トセバ該地點ニ於ケル伏流ノ殆ンド  
 全量ヲ汲取スルモノニシテ其ノ結果ハ春夏秋ヲ通ジ約半歲ニ涉リ上水使用最モ旺盛ナル季節ニ於  
 テ全ク水源ノ涸渴ヲ免ル能ハズ自然給水事業ハ休止ノ止ムナキニ立至リ爲ニ數萬ノ町民ハ飲ムニ  
 良水ナク洗フニ溪流ナク諸種ノ工場ハ全ク營業ヲ廢止セザルベカラザル而已ナラズ不幸ニシテ惡

疫ノ流行失火天災等ノ變事起ラムカ町民ハ全ク之ニ對應シテ施スベキ策ヲ有セズ人命財產ノ危殆  
 ニ瀕スルコトアルモ袖手傍觀自然ノ壞滅ニ委スルノ外ナカルベク實ニ町治ノ根柢ヲ破滅ニ至ラシ  
 ムルノ虞ナシトセズ洵ニ痛心焦慮措ク能ハザル所ニシテ客歲以降米川補給水計畫ノ具體化スルヲ  
 聞知シタル我米子町民ハ爾來日夕恟々トシテ憂慮不安ノ念ニ驅ラレ枕ヲ高ウシテ生業ヲ樂シム能  
 ハザルモノアリ然リト雖モ均シク國家ノ保護ノ下ニ適法ニ施行シタル既設公共事業ハ如何ニ其ノ  
 關係區域ガ一小市町村ニ極限セラル、ニ止マルトモ其ノ既得ノ公共ノ利益ヲ無視シ其ノ團體ノ意  
 ニ反シテ新タナル施設ヲ國又ハ縣ニ於テ強行セラル、ガ如キコトハ萬ナカルベキヲ信ジテ疑ハザ  
 ルモノナルガ故ニ纔ニ此ノ點ヲ說示シテ專ラ町民ノ慰撫ニ努メツ、アルノ實況ナリトス  
 冀クバ閣下如上ノ事實ヲ諒察アラセラレ將來實施セラルベキ米川用水補給事業ニ付テハ永ク本町  
 上水道水源ニ毫末ノ影響ヲ及ボサル程度ニ於テ最善ノ方法ヲ講ゼシメラレムコトヲ  
 尙本事業施行ニ付テハ工事費補助費等ノ豫算ヲ議會ニ發案セラル、ト同時ニ設計書及圖面類ヲ本  
 町ニ交付セラル、ハ勿論工事施行ニ關シテハ本町ノ意見ヲ徵セラレ圓滿協調ノ上工事ニ着手セラ  
 レムコトヲ茲ニ惓願シテ止マザル所ナリ右本町會ノ議決ヲ經茲ニ謹ンデ陳情候也

大正十五年八月



鳥取縣西伯郡米子町會議長

米子町長 西尾常彦

鳥取縣知事 白上佑吉殿

然るに縣に於ては、尙強引に其計畫を進めんとするの狀勢にあつたので、金澤水道技師を派し、其實情を調査せしめたるに、其の廣大なる設計は、眞に憂慮すべきもので、黙過すべからざるものがあつた。是に於いて再び左の如く、陳情する所があつた。

## 陳情書

西伯郡車尾村大字觀音寺ニ取水口ヲ有スル米川灌漑用水補給事業ノ施設ニ關シ客歲八月別紙ノ通り本町會ノ議決ヲ以テ陳情スル所アリシカ爾來數閱月今日ニ至ルモ未ダ設計書類ノ交付セラルルコトナシ

然ルニ仄聞スル所ニ據レバ同事業ハ水利組合ノ希望ニ依リ客臘通常縣會ニ之ガ發案ヲ見ントスルノ狀勢ニマデ進捗シ居リタルモノ、如シ之レ全ク曩ニ本町會ノ懇請シタル趣旨未ダ閣下ニ上達セザリシニ基因スルモノナルベク洵ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ由來米川改修並ニ水量補給事業ト本町水道水源トハ前陳情書ニ述ベタル如ク最モ緊密ナル關係ヲ有スル而已ナラズ本町水道ノ取水量ハ

人口五萬ニ達シタル場合ニ於テ一秒時間僅ニ二立方尺三一ニ過ギザルモ米川ノ採取水量ハ百數十倍ニ上ルベキハ勿論而カモ本町水源ノ上流ニ於テ汲取ヲ爲サントスルモノニシテ米子町民ハ絶大ナル脅威ヲ感ゼザルヲ得ザル所ナリ

是ヲ以テ本町ハ其ノ設計ノ實際計畫如何ヲ一日モ早ク知悉シ之ガ善後ノ策ヲ講ズルノ必要ヲ痛感シ屢々當局ニ請ヒテ之ガ提示ヲ懇願シタルモ容易ニ希望ヲ達スルヲ得ザリシガ客月下旬初メテ町技術者ヲ派シテ設計ノ一端ヲ窺知スルヲ得實ニ其ノ規模廣大其ノ施設完備全ク本町ノ水源ヲ無視シタル計畫ナルコトヲ確認シ喫驚禁ジ能ハザルモノアルト共ニ一層痛心憂慮ニ堪ヘザルモノアリ則チ其ノ大要ハ別紙概要ノ通り車尾村大字觀音寺地先ニ於テ日野川ノ全幅員ヲ横斷シテ高十四尺五寸延長二百四十間二分（内右岸十五間ニ可動堰アリ）ノ大堰堤ヲ河床面以下ニ埋設シテ日野川川及法勝寺川ノ表流水ト伏流水ヲ堰キ止メ毎秒二百七十九立方尺ヲ米川ニ送水スルト共ニ更ニ其ノ下流千尺ノ河底十二尺ノ地點ニ集水管延長百五十間ヲ埋置シテ伏流水毎秒二十一立方尺ヲ唧揚送水セラル、モノニシテ其ノ地點ハ恰モ本町水道水源唯一ノ源泉地帯タル直近上流地點ニ要扼シテ合計三百立方尺ノ大量ヲ汲取スルコト、ナルヲ以テ實施ノ曉ニ於テハ甚大ナル影響ヲ我米子水道ガ蒙ルベキハ言ヲ俟タザル所ナリトス殊ニ本縣ニ於テ調査セラレタル日野川河底ノ地層ヲ見ルニ川床砂礫ノ直近ノ粘土層ハ左岸ヨリ右岸ニ向ツテ急傾斜ヲ以テ低下シ居ルノ事實アルヲ以テ前



記可動堰ヲ現設計ノ如ク右岸ニ偏シテ之ヲ設置セラル、モノトセバ日野川表流水ノ現時左岸ノ流  
路ハ忽チニシテ右岸ニ轉換スベキハ事明ノ理ニシテ左岸堤内ニ集水井ヲ有ス本町水道ハ更ニ一層  
ノ涸渴ヲ來タスベク或ハ本工事施工ノ爲メ我米子町民多年ノ苦衷ト犠牲トヲ拂ヒテ完成シタル上  
水供給事業ハ茲ニ全ク其ノ根柢ヲ破壊セラル、ノ結果ヲ醸出スベク實ニ三萬町民ノ生命ヲ絶タル  
ルモノト謂フノモ敢テ過言ニアラザルヲ信ズ

然レドモ農業水利ノ事業ヨリ公益事業ニシテ必要ナル企畫ニ對シ本町亦之ノ妨礙ヲ爲スノ舉ニ出  
デ若クハ阻止ニ努メントスルモノニアラズト雖本件ノ如キ最モ密接ナル利害關係ヲ有スル本町ニ  
對シ之ガ設計ノ協議ナキ而已ナラズ設計書類ノ交付ヲ容易ニ首肯セラレズ殊ニ其ノ設計ノ内容ハ  
最モ本町ガ脅威ヲ感ジ之ヲ危惧セル企畫ナルニ於テハ本町トシテハ町民公共ノ安寧幸福ヲ保持セ  
ムガ爲メ相當ノ方途ヲ講ゼザルベカラザルヲ覺ユル所ニシテ茲ニ衷情ヲ披瀝シテ賢明ナル閣下ノ  
英鑑ヲ仰ギ本件米川改修工事設計ニ根本的改竄ヲ加ヘラレ以テ本町ノ被害ヲ未然ニ防止スルト共  
ニ一面ニ於テハ米川農業水利ノ充足ヲ圖ル様萬全ノ計ヲ樹立セラレムコトヲ切望シテ止マザル所  
ナリ

今左ニ本件設計變更ニ關シ本町ノ要望スル點ヲ列記スレバ

一、米川取水口ノ地點ニ於ケル混泥土堰堤下ノ深サハ米子町ト協定シテ定ムルコト

二、補足水量ノ採取ノ爲ニ要スル施設ハ米子水道水源地點ヨリ學理上必要ナル距離ヲ保チ其ノ下  
流ニ之ヲ選定セラル、コト

三、可動堰ハ米子町ト協定シテ其位置ヲ定ムルコト

四、米子町ガ古地井手水利組合ニ對シ契約シタル用水補給ニ關スルノ義務ハ本工事施工後ハ米川  
水利組合ニ於テ之ガ負擔ノ責ニ任ゼシムルコト  
等ナリトス

冀クバ閣下如上ノ事情ヲ諒察セラレ永ク本町民ノ幸福ト安寧トヲ保タシムベク適當ノ施設アラム  
コトヲ右町會ノ議決ヲ經謹ンデ請願候也

昭和二年二月

鳥取縣西伯郡米子町會議長

米子町長 西 尾 常 彦

鳥取縣知事 石 井 保 殿

前陳の如く強固なる態度を以て訴ふる所ありしが、縣に於ては終に其要求を容れて、京都帝國大  
學に對し、専門の學者を派遣して實地調査せられんことを請ふに至り、且又一面米川水利組合、並  
に古地井手水利組合の兩組合に於ても、協調の意を表し來り、相互折衝の結果、昭和二年九月二十



九日別記覺書の通り、圓滿なる解決を見るに至り、之と關聯して、大正十三年十二月二十八日古地井手普通水利組合と協定した義務の一切も、廢業することを得たのである。

覺

西伯郡米川普通水利組合及新開川普通水利組合ノ農業水利改良工事ニ關シ右兩水利組合委員ト米子市長及同水道委員トノ間ニ於テ左記事項ヲ協定ス

記

- 一、新設堰堤ノ高サハ基面上三十五尺底盤ハ基面上三十五尺ト成スコト
- 二、可動堰ハ位置ハ現設計ニ依レバ日野川左岸ニ設クルコト、ナシ居ルモ萬一之ガ位置ヲ變更スル場合ハ米子市ト協議ヲ爲スコト
- 三、本工事ニ於テ設計セル伏流水唧揚裝置ヲ米子水道水源第一取水井中心ヨリ下流百間以上ヲ隔ル位置ニ現設計ヲ變更スルカ又ハ新設堰堤ノ上流ニ設置ノ實現ヲ期スルコト
- 前項唧揚埋設管ハ川床以下十尺ト爲スコト
- 四、米子市ガ古地井手普通水利組合ニ對スル補水契約ハ米子市ヨリ金六千圓ヲ支出シ之ガ一切ノ解決ヲ米川新開川兩水利組合ニ於テ引受クルコト
- 五、本工事實施ニ當リ米子市ノ要求ニ依リ市當局ヲ立會セシムルコト

右協定ニ對シ各立會者署名ヲ爲シ双方一通宛ヲ所有スルモノトス

昭和二年九月二十九日

米子市長	西尾常彦
水利組合委員	森磯吉
水道委員	森下平八
同	石田章之進
同	富山立身
水利組合委員	浦木松次郎
同	堀安憲
同	本角文藏
同	安田千松
水道委員	狩野政太郎
同	佐藤熊藏
水道部長技師	金澤力太郎
水利組合書記	長谷川浩



本協定ハ双互決議機關ノ協賛ヲ經テ效力ヲ生ズルモノトス

其後昭和二年十二月五日京都帝國大學より、野滿隆治石川成章兩氏の日野川暗渠問題調査報告書が到達して、兩水利組合の計畫に、根本的錯誤の伏在するを發見し、終に計畫を變更するに至つたのである。

日野川暗渠問題調査報告

今般御委囑相成候日野川暗渠問題ニ關シ十一月二十四日ヨリ同二十八日マデ五日間ニ互リ施行シタル實地調査成績並ニ之ニ基ク卑見左ノ通り報告候也

昭和二年十二月五日

野 滿 隆 治  
石 川 成 章

鳥取縣知事 藤 岡 兵 一 殿

地 水 學 的 調 査

野 滿 隆 治

第 一 章 序 論

地下水問題ハ實際上ハ勿論、學術上ヨリスル最モ複雑困難ナルモノニシテ、多クハ明快ナル判斷ヲ下シ難キヲ例トスルモ、日野川暗渠問題ハ、本件委囑ノ當初、原計畫書ヲ借覽シ熟讀玩味スル中、端ナクモ伏流水ノ推算方法ニ、意外ノ缺陷アルコトヲ悟リ、原計畫其ノ儘ニシテハ、米子上水道ニ對スル影響如何ノ末ヨリモ、寧ロ更ニ根本的ナル暗渠其ノモノ、效果、頗ル疑ハシキヲ痛感セリ。今其ノ主要ナル二點ヲ指摘セン。

一、暗渠計畫ノ基礎タル日野川河底「伏流水每秒二十七立方尺」テフ水量ノ推算方法ニ無理ナキヤ。

原計畫中ノ推定伏流水二十七個ト云フハ、西伯郡大幡村字立岩ニ於ケル日野川流量五〇一個ヨリ米子堰上流百間ノ處ニ於ケル流量二二七・六個並ニ其ノ途中ニテ引水セル數個ノ井手ノ水量二四五・七個ヲ差引キタル殘額二十七個ヲ以テ、全部日野川河床下ニ沿ヒテ伏流スルモノト假定セルナリ。兩岸及ビ河床共ニ岩盤露出セル立岩ニ於テハ日野川ノ全水量ガ、悉ク地上ニ顯ハレ居ルベシトノ推定ニハ同感ナルモ、之ヨリ觀音寺附近マデノ間ニ、地下へ潛入セル水量ガ全部日野川筋ニ沿ウテ流下ストナスハ到底首肯スルヲ得ズ。何トナレバ

(イ) 地圖ヲ案ズルニ、日野川ノ立岩附近ニ下ルヤ、忽ニシテ廣濶ナル冲積扇狀平原ニ出デ、地下



水ヲ給養スベキ區域頗ル廣シ。勿論該扇狀地ノ東側ハ大山裾野地域ヨリ地水ノ供給ヲ受クベシト雖モ、佐川ノアルアリ、其涵養區域ハ恐ラク扇狀地東半ヲ出ズルコトナカルベシ。扇狀地ノ西半部ハ日野川ニヨリテ潤ホヘルモノト認ムベキナリ。

而シテ此ノ扇狀地西半部ノ地下ニ給供スル水ハ岸本八幡附近ヨリ、直接地下ヲ潜流スト爲スベキハ、少シク地水ノ性質ニ通曉セル人士ノ直ニ贊同ヲ躊躇セザルベキヲ信ズ。

(ロ) 尙ホ日野川ノ流路ヲ檢スルニ、該扇狀地ノ西側觀音寺丘陵ニ沿ヒ、著シク偏在曲流セルヲ見ル。斯ノ如キ地勢ト、斯ノ如キ流路トハ、我等ノ科學的直觀ヲシテ何トナク、日野川ノ現流路ガ必ズシモ古來ノソレニ非ルナキカヲ疑ハシム。

若シ果シテ日野川ガ舊時幾度カ其ノ流路ヲ變ジタルモノナラバ其ノ舊流跡ハ現河床ニ比シテ勝ルトモ劣ルトモナキ地下水ノ好通路タルベシ、然ラバ則チ、日野川ノ立岩ヲ流下シタル後地下ニ潜入セル水ハ、獨リ現在ノ河床下ノミナラズ、舊河床ニ沿ヒテモ流下スル量決シテ尠少ナラザルベシ

此ク觀シ來レバ觀音寺地先附近ノ日野川伏流水毎秒二十七立方尺トノ推定ハ頗ル過大ニシテ恐ラクハ其ノ半以下ナルベキカ。

二、伏流水全量ヲ毎秒二十七立方尺ト想定シ、而モ「埋設深度僅カ一〇尺ノ暗渠」ヲ以テ取水量毎秒二十立方尺トノ計畫ニハ一見直チニ何等カノ缺陷ヲ包藏セルコトヲ感知スベシ

全伏流水量ノ想定法ニ關スル吾人ノ疑惑ハ前項既述ノ如クナルガ假ニ一步ヲ讓リテ毎秒二十七立方尺ノ伏流水全部ガ日野川筋ニ沿ヒテ流下シツ、アリトスルモ、コノ量ハ河床面ヨリ以下不通水層(粘土又ハ岩磐等)マデノ砂層全部ニ分布セルモノナリ。

而シテ計畫書中ニ載スル日野川筋附近各地ノ試驗成績ヲ觀ズルニ、川筋内ニテハ砂層ノ厚サ少クトモ三〇尺ニシテ恐ラクハ五、六十尺餘ニモ及ブモノ、如シ然ラバ即チ其上部一〇尺ノ厚サヲ流ル、伏流水量ハ多クトモ全水量ノ $\frac{1}{3}$ (九個)恐ラクハ五六分ノ一(四乃至五個)ニ過ザルベシ、若シ卑見ニ從ツテ、日野川筋ニ來ル伏流水ヲ扇狀地ニ逃ゲ去レルモノト相半バスルモノトセバ、川筋深サ一〇尺ノ砂層ニハ最大四―五恐ラクハ二乃至三個ノ水量アルニ止マル。

然ルニ一方計畫書中ニハ地下流速觀測ヨリシテ深サ一〇尺マデヲ流ル、伏流水量二十個ト算定セリ、前陳ノ推算ト相距ルコト頗ル遠ク、矛盾撞着互ニ相容レズ、是予ガ此計畫ニハ何等カ缺陷ノ包藏スルヲ暗示セラル、トナス所以ナリ。

計畫書ヲ檢討シテ得タル吾人ノ疑問此ノ如シ、是ニ於テ翻ツテ、今般委囑セラレタル係争問題「暗渠ノ米子水道ニ及ボス影響如何」ニ想到スルトキハ、未根幹ヲ確定セズシテ枝葉ヲ争ヘルノ嫌アリ、宜シク先ヅ根本的基礎材料タル現場ノ地下水量ヲ實測シ、以テ原計畫タル深度十尺ノ暗渠



ニヨリ幾何ノ伏流水ヲ採取シ得ベキカラ決定スベシ、然ル後始メテ米子水道ニ及ホス影響ヲ考察シ得ベキノミ。

斯クテ我等ハ暗渠埋設豫定地ニ於ケル水量ノ現場實測方法ヲ立案シ、之ニ應ズル器械ノ製作ヲ開始シ、委囑受諾後一週間ニシテ漸ク準備ヲ完了シ、現地ニ出張シ調査ニ従事スルコトヲ得タリ

第二章 伏流水實測方案並ニ觀測器具

伏流水量實測ノ爲メ吾等ハ次ノ三様ノ方法ヲ講ゼリ

第一法 水位ノ勾配ト地下常數ノ測定

某地點ニ於ケル水位傾斜ヲ $i$ トシ之ガタメニ生ズル伏流水ノ流速ヲ $U$ 又ハ横斷面積 $A$ ヲ單位時間ニ流ル、伏流水量ヲ $Q$ トセバ理論上

$$U = Ci$$

$$\frac{Q}{A} = P \cdot U = PCi = Ki$$

ナル關係アリ、 $C = P \cdot K$ 、 $i = \frac{Q}{A} \cdot \frac{1}{P}$ トシテ

$C =$  流速率 (Transmission Constant)

$P =$  空隙率 (Porosity)

$K = (P \cdot C) =$  地常數 (Soil Constant)

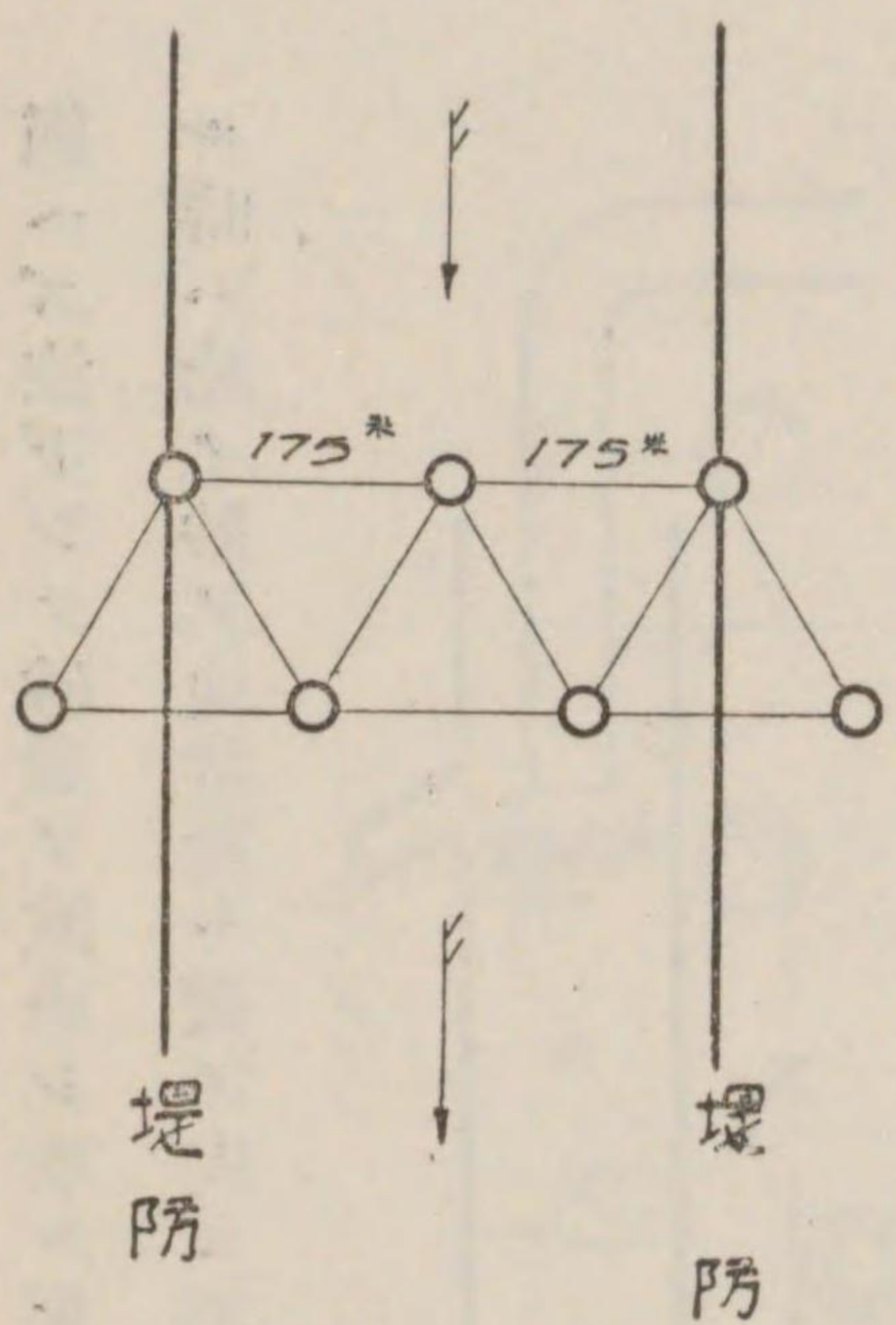
ト稱スル各地土砂特有ノ定數ナリ

サレバ伏流水量 $Q$ ヲ知ランニハ「流速 $U$ ト空隙率 $P$ 」ヲ測ルカ水位勾配 $i$ ト地常數 $K$ ヲ測定スレバ足ル。

此ノ内地水位勾配ハ日野全幅ト云フガ如キ廣區域ニ互リテモ比較的簡單詳密ニ測定スル事ヲ得レドモ流速ノ直接測定ハ一般ニ甚ダ困難ナリ。

故ニ此回ノ日野川伏流水量決定ニモ第一法トシテ水位勾配法ヲ採用シ流速法ハ單ニ傍證ノ意味ニテ簡單ニ一、二點ノ流速ヲ測定スルヲ以テ満足セリ。

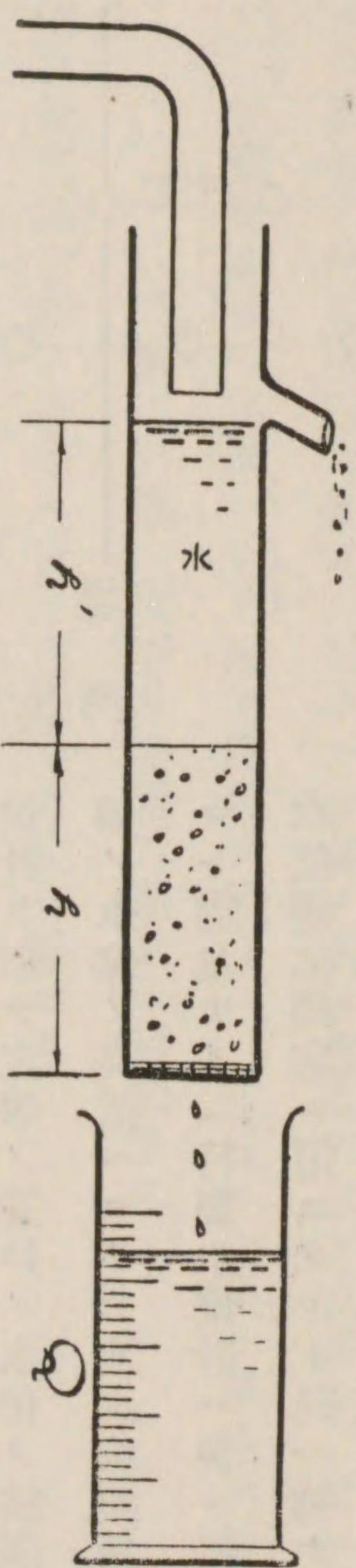
扱テ日野川河身全幅ニ互ル水位傾斜ヲ定メン爲メ暗渠豫定地附近ニ河身ヲ横斷シ一邊百七十五米ノ正三角狀ニ配置スル井戸合計七個ヲ圖ノ如ク掘穿シ水準測量並ニ今回特ニ考案製作シタル水



位計ヲ以テ之等ノ井戸ノ水位ヲ精測ス、然ルトキハ此等七個ノ水位ノ高低ニヨリテ水位傾斜ノ方向ト量トヲ定ムルコト容易ナリ (特製水位計ハ後ニ述ブル井戸汲出シニヨル水位變化測定ニ用ヒタルト同一物ナレバ今此ニハ説明ヲ略ス) 次ニ地常數 $K$ ヲ定メンニハ現地ノ川砂若干ヲ旅館ニ持チ歸リ左圖ノ如キ硝子管ノ下半ニ詰メ上端ヨリ適量ノ水ヲ



絶へズ注下シテ砂層ヲ濾過シ來ル水ヲメス・シリンドルニ受ケ一定量ニ達スル迄ノ時間ヲ測ル然ル時ハ此ノ砂ノ地常數ハ次ノ式ニテ算出シ得ラル



但シ  $K = \frac{Q}{t} \cdot \frac{1}{\pi r^2} \cdot \frac{h}{h+h'}$   
 $Q = \text{濾過シタル水量 (立方尺)}$

t = 水量Qヲ得ルニ要スル時間

r = 砂管ノ半径 (尺)

h = 砂層ノ高サ (尺)

h' = 砂層上ノ水層ノ高サ (尺)

K = 地常數 (尺/秒)

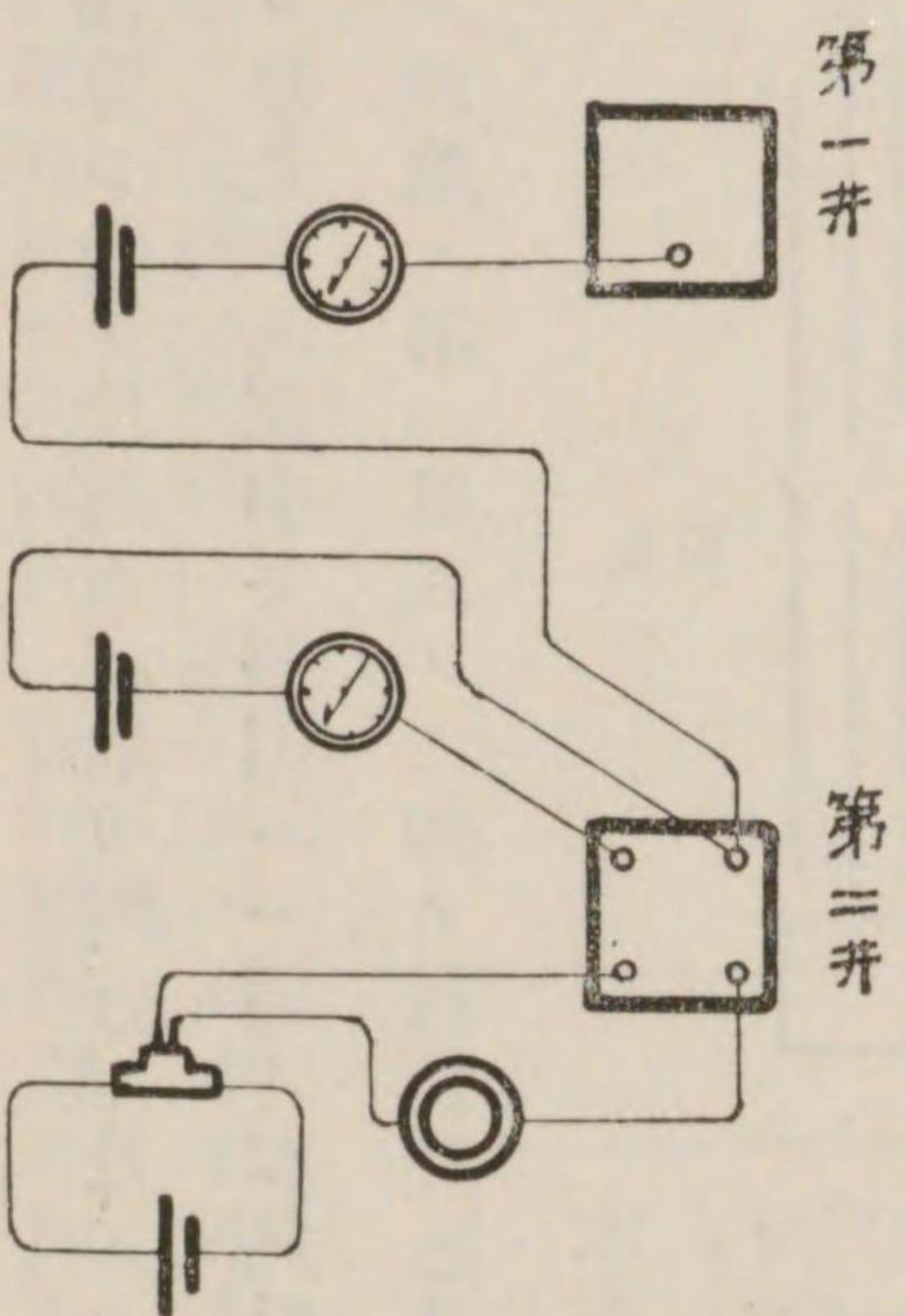
第二法 地下流速ト空隙率ノ測定

伏流水ノ流速ヲ直接測定センガ爲ニ吾等ハ伏流水方向ニ一定間隔ヲ以テ二個ノ井戸ヲ掘リ其ノ上

流ノ井戸ニ食鹽及及色素フリユオンツシンヲ投入シ、ソレガ伏流水ニ伴ツテ下流ノ井戸ニ到達スル時間ヲ測ルコト、セリ而シテ食鹽及色素ノ到達ヲ察知センガ爲ニハ實ニ五様ノ方法ヲ準備シ、萬遺漏ナキヲ期セリ。

先ヅ色素到達スルニハ、長サ約一米ノ硝子管二本ヲ用意シ、其ノ一方ニハ純粹ノ川水ヲ入レ、他ノ一ニハ第二井ノ水ヲ汲ミテ兩者ノ水色ヲ比較對照スルナリ。

又食鹽ノ到達如何ヲ檢スルニハ(甲)化學的方法トシテ三十分置ニ第二ノ井戸ノ水若干ヲトリ硝酸銀



液ヲ滴下シテ白濁スルヤ否ヤヲ試験ス、勿論此ノ際比較ノタメ河水ニモ硝酸銀液ヲ滴下シテ、兩者ノ差異ヲ觀察スル要アリ。

(乙)物理的方法トシテハイ(第一第二兩井ニ各一電極ヲ挿入シタル輪道ニ電池ト電流計トヲ入レ以テ電氣抵抗ノ潮域ヲ熟視スル法。

(ロ)電池ト電流計トヲ含ム輪道ノ兩極共第二井ニ挿入シテ、鹽水ノ浸入ニヨリ俄然タル電流ノ激増ヲ捉ヘントスル法。(ハ)電池ト電流計ニ換フル感應コイルト受話器トヲ以テスル法等ヲ用意セリ。



空隙率ハ測定ノ常法ニ從フ。

第三法 井戸ポンプ汲出ニヨル附近地水位ノ變化測定

此ノ試験ハ地下自然ノ状態ニ於ケル地常數ト不通水層迄ノ砂層ノ厚サトノ何レカ一方ヲ知リテ他ヲ推算シ兼テ伏流水採取ガ附近ニ及ボス影響ノ大體ヲ了解センガタメニ行ヘリ。

其ノ法先ツ河床中央砂洲ニ一個ノ本井戸ヲ設ケポンプ汲出ニ供シ、更ニ其ノ上流十五米又ビ三十米ノ距離ニ第一第二ノ二個ノ鐵管打込井ヲ作ル。

本井戸ニハポンプヲカケ其ノ汲上ゲ水量ヲ量水桶ニ導キ常法ニ

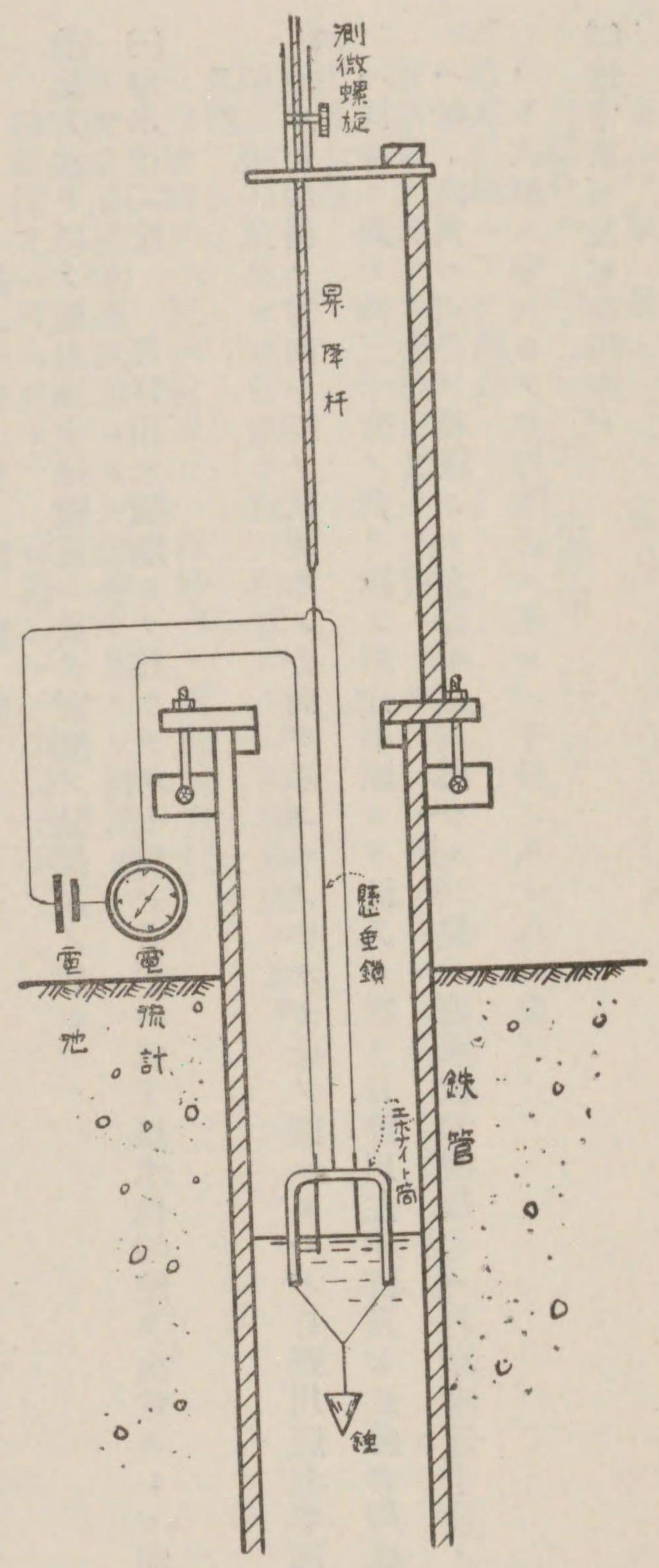
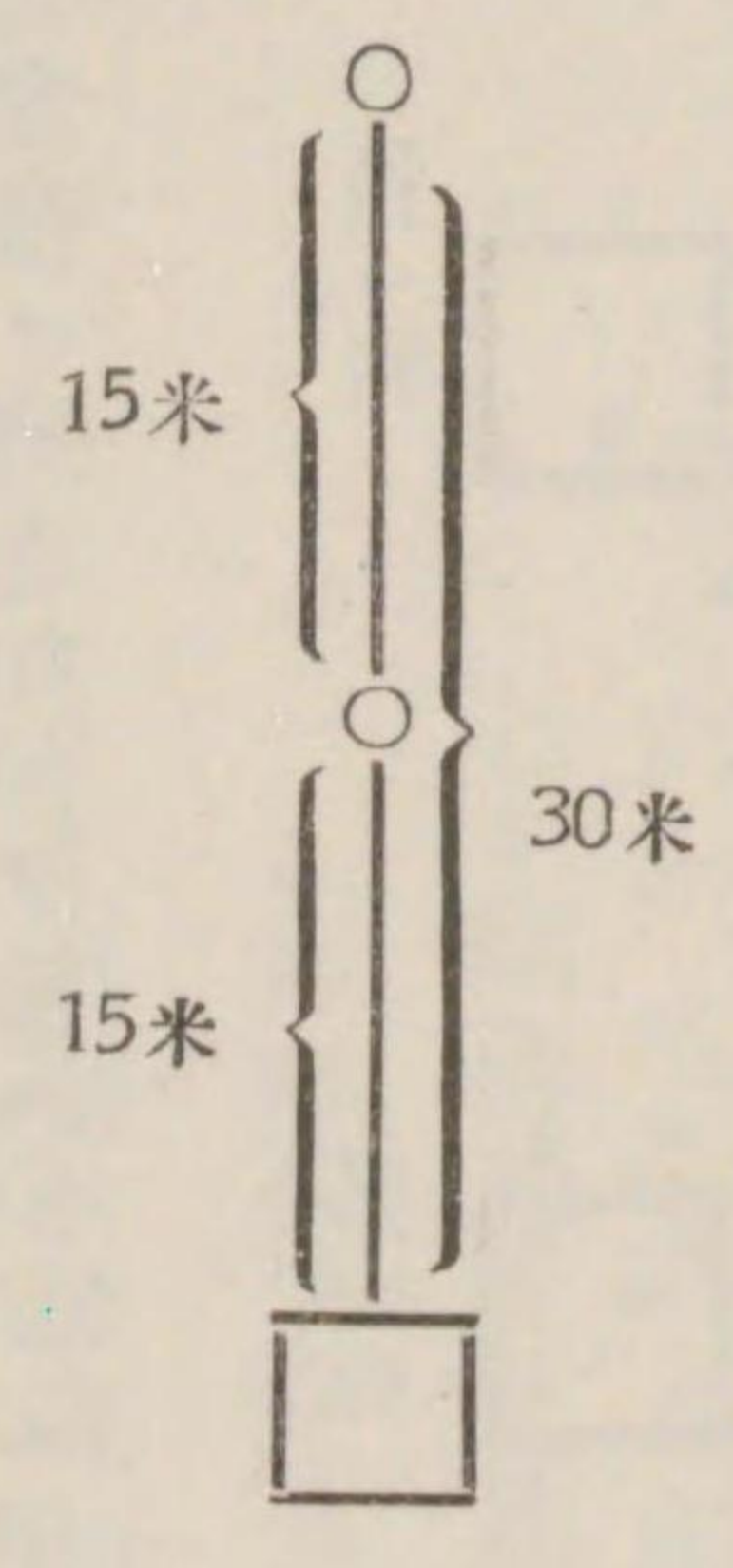
ヨツテ其ノ揚水量ヲ決定スルノミナラズ、浮標ヲ用フル自記

水位計ヲ裝備シテ水位ノ刻々變化ヲ記録セシム。

又第一第二ノ觀測井ニハ今回ノ調査ノタメ特ニ考案製作シタ

ル我等ノ水位計ヲ裝備シ五分乃至十分毎ニ水位ノ變化ヲ測定ス。

特製水位計ノ構造ハ左圖ノ如シ



本器ノ主體ハ重錘ヲ附シタル**エポナイト**筒ニシテ之ニ長短二本ノ金屬針ヲ簞入シ各別々ノ導線ヲ以テ電池及ビ電流計(或ハ感應コイルト受話器)ニ連絡ス、而シテ此ノ**エポナイト**筒ニ細キ鑽ニテ昇降杆ノ下端ニ懸垂シ測微螺旋ニヨリ靜カニ上下セシムルコトヲ得、扱測微螺旋ヲ動カシ**エポナイト**筒ヲ次第ニ下降セシムルトキ、其ノ長針ガ水面ニ達スルモ未電路閉ヂザルガ更ニ僅カニ下降シテ短針モ亦水面ニ接センカ水ヲ通ジテ電話閉チ茲ニ電流計ノ振レヲ見ルベシ、斯クシテ精密



ニ地水位ノ位置ヲ測定シ得ルナリ。

#### 第四 附帶 調査

日野川ノ流路ガ古來固定不動ノモノナリヤ或ハ幾變遷ヲ經タルモノナリヤハ、伏流水推定ニ多大ノ關係アルヲ以テ、此ノ點ニ關シテハ地方有志ノ言ヲ聞キ地質學的ニ調査シ尙不明ノ場合ハ諸所ニ數多ノ井戸ヲ掘リテ地水學的ニ研究ノ腹案ヲ立テ置ケリ。

#### 第三章 實測 結果

前記方法ヲ以テ暗渠豫定地附近ニ於テ實測ノ結果左ノ如シ。

(一) 地水位勾配 日野川ヲ横斷シテ設ケタル七個ノ井戸ニ依リ地水位勾配ヲ決定スレバ別圖第一ヲ得。

地水位傾斜ノ方向ハ即チ伏流水ノ方向ヲ示スモノナルガ此ノ圖ニヨレバ日野川底右半部ニ於テハ河身ニ對シ約三十度ノ角ヲ以テ右岸平原ヨリ流入シ來リ日野川左半部及ビ法勝寺川底伏流水ハ殆ド直角ニ河身ヲ横斷シテ左岸平原ニ出ヅルヲ見ル地水位勾配量 $i$ ハ右岸附近千分ノ二・五ヨリ次第ニ増加シテ左岸附近ニ至レバ千分ノ八・八ニ達ス。

(二) 地常數  $K$  及ビ空隙率  $P$

現場ノ土砂ヲ持返リ本學ニテ實測ノ結果

地常數 最大  $0.002$  米/秒 最小  $0.0006$

大部分ハ  $0.0015$  空隙率  $40\%$

(三) 色素試驗ニヨル流速

暗渠豫定地ノ上流約百米ノ地點ニテ測定セル流速ハ一日三十三尺ノ割合ナリキ

(四) 伏流量

地水位勾配及ビ地常數ヲ以テ計算スレバ河幅全體ニ互リ

砂層深サ一尺ニ付キ 毎秒  $0.34$  立方尺

又鹽水及ビ色素試驗ニヨル流速ヲ用ヒテ計算セバ

砂層深サ一尺ニ付キ 毎秒  $0.19$  立方尺

砂層ノ深サ一〇尺ニテハコノ十倍量毎秒三・四立方尺以下ナリ。尙全伏流量ハ前記ノ數値ニ

砂層ノ全厚ヲ乘ズレバ可ナリ。

(五) ポンプ汲上げ試験結果

一ノ試験井ニポンプヲ仕掛ケ其ノ結果十五米及三十米間隔ニ設ケタル井戸水位ノ變化ハ別圖第二ニ之ヲ示ス

此ノ際ポンプ汲上量ハ量水樋ニテ測定ノ結果



ポンプ汲上量 〇・三六立方尺/秒

ナリキ而シテ之ガ爲ニ生ゼシ水位變化ハ最終

本井戸 五十一糎

十五米距離観測井 四・二三糎

三十米距離観測井 一・四〇糎

此ノ結果ヲ井戸汲出シノ理論式ニ適用シ砂層ノ全高ヲ六十尺トスレバ地常數〇・〇〇二一<sup>米</sup>/<sub>秒</sub>ヲ得。先ニ得タル地常數〇・〇〇二<sup>米</sup>/<sub>秒</sub>ニ頗ル接近シ此等ノ實驗ノ信用度ヲ推知スルニ足ル、尙此ノポンプ實驗ハ地下水汲上ダノ影響範圍ヲ判断スルニ頗ル信賴スベキ資料ヲ供スルモノトス

第四章 結論

甲 原計畫ニ對スル所見

一、日野川筋ニ沿ウテ流ル暗渠豫定地附近ノ伏流水量ハ原計畫豫定量(二十七個)ヨリモ遙ニ少量ニシテ恐ラクハ其ノ半以下ナルベシ  
砂層ノ厚サヲ適確ニ知ラザル以上伏流水全量モ亦其ノ確定數ヲ得ルコト能ハザルモ地水位勾配及伏流水速度ノ二方面ヨリ推算シタル水量ハ最モ大キク見積ルモ左ノ數字ヲ出ヅルコトナカルベシ。

砂層ノ厚サ	三〇尺トセバ	五〇尺トセバ
伏流水量最大	毎秒 一〇・二立方尺	一七・〇〇立方尺

尙參考トシテ次ノ三資料ヲ附言ス。

(イ) 日野川ハ我等ノ豫想適中シ古來少クトモ二回其ノ流路ヲ變ジタル史實ノ嚴存スルアリ蚊屋井手記念碑文ニ曰ク「史ヲ案ズルニ往古日野川ハ東北流ニシテ尾高ニ至リ氾濫一湖ヲナセシガ天文ノ大雨河水漲溢岸本ヨリ西北ニ向ヒ奔馳シテ馬場ヲ衝キ日吉津ノ海ニ注ギ云々」ト然ラバ則チ立岩下流ニテ日野川ガ生ジタル伏流水ノ少カラザル部分ハ此等ノ舊流路ヲ流下シ扇狀地ニ出ズルモノト斷ズベク唯其ノ北流中大山裾野ヨリスル地水ニ押サレテ次第ニ左偏シツツ再ビ日野川下流方面ニ來ルベキハ推スルニ難カラズ

(ロ) 暗渠豫定地附近ノ伏流水ハ實測上日野川右半部ニ於テ河身ヨリ約三十度左ニ偏流シ右岸平原ヨリ地下水ノ流入シツ、アルヲ示ス。

(ハ) 同地附近ニ於ケル法勝寺川底ノ伏流水ハ表流水トハ殆ド直角ニ流レ河身ヲ横斷シツ、アリコレ一見頗ル意外ノ感ナキニアラザルモ地圖ヲ披キテ附近ノ地勢ヲ凝視セヨ釋然トシテ其ノ當ニ然ルベキ所以ヲ了解セン蓋シ法勝寺川ノ左岸ヲ扼セル觀音寺丘陵ハ暗渠豫定地ノ少シク上



流ニ終リ之ニ代ツテ俄ニ廣キ砂層平原ノ西北方ニ展開スルアリ斯ノ如キ砂層平原ガ地下水ヲ呼ブコト急ナルハ明カニシテ法勝寺川底伏流水ノコノ空地ニ向テ突進スルハ眞ニ尤ナリト謂フベシ。

尙此ノ事實ハ伏流水ガ決シテ表面流ノ方向ノミニヨリテ左右セラル、モノニアラズ又地下不通水層ノ傾斜方面ニモ關セズ偏ニ砂層ノ展開如何ガ強力ナル誘因タルヲ教フルモノトス。

二、深サ十尺迄ノ現在伏流量ハ更ニ著シク微量ニシテ

最大見積毎秒三立方尺程度ヲ超エズ。

コレ我等ノ現場實測結果ナルガ尙次ノ考察ハ有力ナル參考資料タルベシ。

前項ニ述ベタル理由ニ依リ假ニ全伏流量ヲ二十七個ノ約半量トレテ十三・五個ト見做セバ此ノ水量ハ地下砂層全體ニ分布セルヲ以テ其内上部十尺ノ間ヲ流ル、量ハ

砂層ノ厚サ	三〇尺トセバ	五〇尺トセバ
深サ一〇尺迄ノ水量	毎秒 四・五立方尺	二・七立方尺

程度ナラザルベカラズ

三、深サ十尺ノ暗渠ニテ得ラル、水量ハ現在十尺ノ處ヲ流ル、水量ノ外更ニ地水位ノ降下ニヨリ

之ヲ補充セントシテ四周ヨリ集マリ來ル水量ノ爲メ幾何カノ増量アルベキモ倍額ヲ超ユルコトナカラシ(即五・六個以下)

地下位低下ノタメ増量ハ理想的の水平井戸ノ理論ニ適用シテ計算スルニ毎秒二立方尺内外ナレバナリ尙米子水道ガ深サ十五尺ノ井戸二個ニテ最大毎秒二・三立方尺ヲ得ルニ過ギザルモ大ナル參考タルベシ蓋シ水平井ト垂直井ノ優劣ハ歐米ニテモ議論アル程ニテ其ノ得失ハ水量ノ多少ト土木費ノ大小トヲ對比取捨スル程度ナルモノ、如シ。

以上ノ如クナレバ深度十尺ノ暗渠ニヨル取水ハ恐ラク堰堤取水トノ一乃至二%ヲ超エズ而モ此ノ僅少ナル水量ハ暗渠工事**ポンプ**設備等ノ臨時費以外年々**ポンプ**設備等ノ臨時費以外年々**ポンプ**運轉ニ要スル技術者並ニ燃料ニ多額ノ經常費ヲ要スルヲ以テ頗ル高價ノ水トナリ計畫改訂ノ必要アルヲ覺ユ。

(乙) 對米子水道所見

四、暗渠深度十尺ナラバ米子水道ニ影響ナカラシ暗渠深度十尺ノ場合ノ取水量ハ僅ニ五個以下ナルコト前述ノ如ク其ノ影響範圍ヲ計算スルニ五、六百尺ヲ出デズ故ニ米子水道トシテハ殆ド其ノ影響ヲ感ゼラルベク少クトモ堰堤工事ノソレニ比スレバ謂フニ足ラザルモノト認ム。

五、取水量二十立方尺秒ヲ維持セントセバ埋設深度ヲ著シク増大シ恐ラクハ二、三十尺程度ト爲



スノ要アルベシ此ノ場合ニハ米子水道井ノ水位低下並ニ水質ノ變化免レザルベキカ。  
取水量毎秒二〇立方尺ニ應ズル埋設深ノ決定ニハ是非共通水砂層ノ全厚ヲ知ルヲ要シ更ニ一  
段ノ調査肝要ナルモ恐ラク二、三十尺ノ深度必要ナルベシ而シテカ、ル埋設深度ノ増大ハ取  
水量ノ激増ヲ來スト、モニ其ノ影響區域ハ頓ニ擴大スルモノトス

六、但シ暗渠豫定地ノ伏流水水質ハ決シテ現米子水道ノ水質ニ劣ラザルモノト認ム。

今回ノ調査ニヨレバ伏流水方向ハ一樣ニ日野川右岸ヨリ左岸ニ向フヲ以テ米子水源地附近ト暗渠  
豫定地附近トノ地下水ニ優劣ヲ附スルハ當ラズ。

故ニ毎秒二十個ノ取水暗渠ヲ實行セラル、トモ「萬一米子水道ニ惡結果ヲ及ボシタル場合ニハ水  
利組合ニ於テ其ノ取水ノ一部ヲ分配供給ス」トノ契約アラバ別ニ暗渠工事反對ノ理由立タザルモ  
ノト信ズ。

(丙) 善後策 卑見

七、以上要スルニ原計畫其ノ儘ニテハ缺陷明白ナレバ暫ク之ガ提出ヲ保留セラレ之ニ充當セラレ  
タル豫算ニ就キテハ其ノ將來ニ關シ農林省ノ默契ヲ求メ置キ差當リ最有利確實ナル堰堤工事  
ノミヲ實行セラル、ヲ可ト信ズ。

而シテ其工事中序ヲ以テシ堰堤ノ影響ハ勿論其他諸般ノ調査ヲ綿密周到ニ施行シ若シ相當有利ニ

伏流水採取可能ノ見込立タバ茲ニ始メテ第二期工事トシテ暗渠工ヲ起サルベシ但シ「萬一ノ場合  
ニ對スル米子市ヘ分水」ノ契約ハ至極穩當ノ妥協方法ニシテ之ニ對スル米子市ノ反對ハ理由ナキ  
モノト確信ス。

終

### 第八章 給水開始

#### 第一節 使用條例及施行細則設定

米子町水道使用條例は、大正十四年七月十三日、町會の議決を經、同年同月十四日、内務大藏兩  
大臣宛認可を申請した。同年九月二十九日、左の許可指令があつた。

記

内務省鳥衛第

鳥取縣西伯郡米子町

大正十四年七月十六日付水第二七〇號稟請水道使用ニ關スル條例許可ス

大正十四年九月二十九日

内務大臣 若 槻 禮 次 郎

大藏大臣 濱 口 雄 幸



由つて同年十月七日、左の如く其の施行に付告示した。

記

米子町告示第二六號

米子町水道使用條例本町會ノ議決ヲ經内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ左記ノ通り相定メ大正十四年十月七日ヨリ之ヲ施行ス

米子町長 西 尾 常 彦

第二節 給水當初の狀況

(イ) 特典並勸誘

水道敷設工事も、大體竣工したので、大正十五年一月一日假通水するに至つた。之より先、水道委員會に諮り、給水普及の爲、同年三月末日迄の申込者に對しては、設計手数料を免除し、順次給水工事を開始するに至り、竣功せる者に對しては、尙四月一日迄無料にて使用することを許し、自然に其需要者の殖ゆることを期した。又機會ある毎に、宣傳普及に助めた。専任勸誘員を設置して、各區長と合議協力の上、勸誘に努めた結果、其成績甚良好にして、左表の如き結果を得た。

種別	大正十四年												計	平均月			
	十月末迄	十一月	十二月	大正十五年一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月			十月	十一月	十二月
申込栓數	三三	二六	一四	六	七〇	一五	二六	八	五	一四	七	二	三	三	二	一、五三	九四・五
施工栓數				一〇六	一八	二五〇	九	一四〇	九	八〇	六〇	四	七	六	三	一、三三	一〇三〇

(ロ) 給水初年の普及

大正十五年一月一日假通水を爲し、同四月一日現在の給水戸數は五百七十四戸であつたが、其年末に於ては貳千壹百七十九戸となつた。其の栓種別は左の如し。  
尙漸次増加の形勢で其の見込甚良好である。

種別	四月一日現在			十二月末日現在			全戸數	未使用戸數	摘要
	栓數	戸數	人口	栓數	戸數	人口			
專用栓	五四	五九	三八〇	一一三	一一三	四七七	二・二九 三割二歩	四六六四 六割八歩	計 六・八四
私設共用栓	七	四五	一九三	九	四七三	二〇三八			
公設共用栓	一	一	一	四一	五九三	二五五五			
計	五四	五七四	二四七三	一二三	二七九	九三九〇			



## 第九章 經營の現況

### 第一節 給水普及の狀況

水道使用者は、未だ全般に亘りて普及するを得ざるも、逐年増加の傾向に在り、給水以來、一般衛生状態著しく良好となつた。特に防火上の實績に於ては、極めて見るべきもの多く、所期の効果を收得しつゝある。給水普及の狀況左の如し。

年 度	給 水		米 子 市 總 人 口 數	普 及 率
	年 末 現 在 數	增 加 數		
大正十四年	給水開始迄 五七四			
全十五年	二・二三八	二九・四 <sup>割</sup>	六・八四三	三三・一四四
昭和元年	二・七四四	二・三	六・九〇三	三一・六九六
全二年	三・一三四	一・四	七・一三九	三一・八九七
全三年	三・五二七	一・二	七・三四二	三三・〇二一
全四年	三・六九九	〇・五	七・四三〇	三三・六二二
全五年	四・〇三九	〇・九	七・五三五	三三・八一〇
全六年	四・二四六	〇・五	七・六〇六	三四・三九五
全七年	四・二九八	〇・二	七・六六一	三四・四六三
全八年				五六・一

全九年	四・三八〇	〇・一九	七・六九五	三五・〇四四	五七%
全十年	四・四七九	〇・二二	七・六五三	三四・八三三	五八%

### 第二節 豫算及決算

給水は大體に於て順調に普及しつゝありて、水道經濟は經常支出に於て、料金収入の三分の一を以て足り、當初の財政計畫に基く、一般市費の經費繰入補償總額は、今後を見込みて豫定總額の二分の一に達せざるの狀況であつて、誠に良好な成績である。今事業豫算及決算の経過を表示すれば左の如し。

△印ハ不足額

年 度	豫 算	決 算		差 引 (翌年度繰越)
		歳 入	歳 出	
大正十三年	二五三・九二〇	二一七・四七九	一九四・七七三	二二・七〇五
全十四年	四二三・五〇〇	四三三・九五七	四〇四・五九八	二九・三五九
大正十五年	二八一・四三〇	二二〇・一三八	二二七・二四一	△ 七・一〇二
昭和元年	二六九・三五六	二七九・一四三	二四〇・二一六	三八・九二七
全二年	一一二・〇九三	一一九・五一二	九一・八八四	二七・六二八
全三年	二〇二・九四三	二〇一・六一七	一九五・一一八	六・四九八
全四年	九九・六一八	八五・六九九	八五・三六八	三三一
全五年		九三〇	六六〇	二七〇



昭和六年	八六・七二二	七八・二四九	七四・七六一	三・四八八
全七年	七五・四二五	六九・三一六	六九・二八九	二七・六〇〇
全八年	七一・五七〇	六九・六三三	六九・六二三	九・七五〇
全九年	二一八・八五〇	二一七・七五八	二一七・七二〇	三七・五八〇
全十年	七九・七九九	六七・二八八	六六・三七六	九一・七六〇

二七四

### 第三節 經營機關

(イ) 水道職員一覽表

職名	事	務	分	掌	氏名
技師	技術及事務統括指揮監督 (兼務)				小林 鴻策
書記	庶務 經理 會計事務				山岡 定一
技手	給水工事 工作物維持修繕				前田 篤輝
機關士	送水唧筒連轉淨水作業水源監視				尾崎 兼松
全巡視	量水器點檢使用者取締滯納者整理				青木 定次郎
全	全				服部 虎次郎
全	全				岩田 倫
全	全				服部 政一

職名	事	務	分	掌	氏名
監守	配水作業 配水池監視				伊藤 榮
書記	使用料徵集 給水手續				平野 藤太郎
全	全				後藤 金太郎
全	水道料金收入 (收入役附屬)				龜山 利秋
給仕	徵收令書並ニ督促注意書配布及雜務				上野 龜吉
使丁	量水器修繕材料取扱給水修繕				持田 助一
技工兼倉庫夫	給水工事及修繕				稻田 耕一
鉛工	全				遠藤 竹男
全	全				全
全	全				生田 實

(ロ) 水道委員一覽表

昭和十年十二月十一日就任

同

同

同

昭和十一年六月三十日就任

田中 定藏	池口 今藏	坂口 昇	小松原 甚次郎	青戸 辰午
-------	-------	------	---------	-------



附  
上水道敷設十周年記念式

上水道を敷設してから、いつしか年月移りかはりて、早くも既に今年十一月で、十周年を經過することゝなつた。創設當時市民の歡呼も偲ばるゝことであるが、當時は給水人口九千三百九十人で一日平均配水量は四千四百石、配水管の延長は、二萬七千米であつた。然るに今日では給水人口二萬六百人、一日平均配水量一萬三千八百石、配水管延長三萬七千七百七十米に達してゐる。

かゝる好箇の成績は、非常な進歩と云ふべきで、此間商工業の進展に、市勢の振興に寄與して、市民の福祉を増進したことは、蓋抄少でないのである。是に於いて當時を回想し、功勞者の蹟を追懷し、併せて其將來を祝福する爲に、昭和十一年十一月二十七日商品陳列場館上で、嚴に十周年記念式を舉行した。來列者は當時の功勞者及其遺族、上水道關係町會議員、建設資金寄附者、現市會議員、新聞記者其他來賓百數十名で、場内清敬の氣満ち、莊嚴の裡に開式し、市長先づ別項所載の式辭を述べ、次いで市會議長、商工會議所會頭、來賓總代の祝辭あり、終りて功勞者及關係町會議員五十三名に感謝狀及記念品を贈呈した。又西尾市長に對しては、遠藤市會議長より、市會の議決に依る感謝狀を贈呈し、次いで公設共用栓管理人五名、並に十年勤續水道吏員五名に對し、表彰狀及記念品を贈つた。終りて公會堂に於いて盛大なる祝賀會を開き、一同懇談てし、當時を回想すると同時に、將來を祝福して解散した。

式  
辭

本日茲ニ米子市上水道十周年記念式ヲ舉行スルニ際リ來賓各位ノ光臨ヲ辱ウシタルハ私ノ最欣幸トスル所デアリマス

顧レバ本市ハ地勢良水ニ乏シク舊米子町時代ニ於テ施行シタル一千百有餘ノ井水ノ水質検査ノ結果ハ飲用ニ適スルモノ僅カニ五パーセント八ニ過ギズ然ルニ飲用水ニ付テハ別ニ施サレタル設備ナク從テ日常町民ノ飲用水ニ困窮スル有様ハ全ク見ルニ忍ビザル實情デアリ萬一惡疫ノ流行不時ノ火災等ニ遭遇シタル場合ハ實ニ慘害測リ難ク極メテ憂慮ニ堪ヘザルノミナラズ軌近發達ノ機運ニアル工業用水船舶用水等ハ之ガ供給ノ途ナク町民一般ノ上水道敷設ニ對スル欲求ハ甚ダ切ナルモノガアリマシテ町當局或ハ民間事業者ニ於テ之ガ敷設ノ計畫ヲ試ミタルコトモ一再デナカツタノデアリマス。

併シ巨資ヲ要スル大事業タルト適當ナル水源ヲ得ザル爲メ荏苒其ノ實現ヲ見ルニ至ラナカツタノデアリマス。

大正十一年不肖任ヲ町長ニ亨ケ此ノ實情ニ直面シ何トカシテ急速ニ之ヲ實現セムト考究ヲ繼ケ時ノ町會議員區長町内各方面ノ有力者ヲ網羅シタル町是調査會ヲ起シ上水道ノ急施ヲ諮リ滿場一致ノ可決ニ基キ町會ニ於テハ調査費ヲ即決シ當時ノ本縣土木課長有光氏ノ紹介ニ依リ東都ノ水道界



ノ權威和田忠治氏ヲ聘シテ調査ニ着手シタノデアリマスガ水源ノ決定ニ付テハ最モ苦心シタ所デアリマス則チ日野川ノ表流水ハ固ヨリ東ハ宇田川村高井谷南ハ幡鄉村坂長ノ湧水ヲ始メ附近一帯ニ互リ探查シタノデアリマスガ適當ナル水源ヲ得ルコト能ハズ種々研究ノ結果日野川堤内ノ伏流水ニ依ルノ方針ヲ立テタノデアリマス當時未伏流水ニ依ル上水道ハ全國ニ於テモ極メテ稀有ニ屬シ一面鑿井水道ガ工費低廉ニシテ最モ有利ナリトノ説ガ提唱セラレ鑿井會社等ノ運動モ伴ヒ輿論ガ沸騰シタノデ大正十二年四月農商務省地質調査所ニ調査ヲ囑託シ斯界ノ權威大井上義近技師一行ノ派遣ヲ得テ調査シタ結果ハ米子市内ハ地質上鑿井ノ不適當ニシテ日野川伏流水ガ適當デアルトノ意見デアリマシテ全ク和田技師ノ意見ト一致シタノデ現水源地ヲ選定シテ同年六月末和田技師ノ敷設計畫目論見書ニ依リ大正三十四兩年度ノ繼續事業トシテ總工費七十萬圓ヲ以テ施行ノ議ヲ町會滿場一致ヲ以テ決定シ直ニ事業ノ認可起債ノ許可國庫補助ノ申請ヲシタノデアリマスガ偶々關東地方ノ大震災ガアリ財界ニ一大變動ヲ來シ政府財政ノ大緊縮トナリ國庫補助ハ絶望トナリ財政計畫ノ變更ヲ餘儀ナク爲ラル、ニ至リタルノミナラズ申請書類一切燒失ノ厄ニ遭フ等幾多ノ障害起リ申請後一年有餘ヲ費シ大正十三年六月漸ク工事認可ヲ得次デ七月起債ノ許可アリ直ニ工ヲ起シ大正十五年一月二日幾部ノ試験通水ヲ行ヒ四月一日ヨリ有料通水ヲ開始シ起工後二年有餘ヲ經テ同年八月全ク工事ノ竣成ヲ告ゲ十一月三十日最モ良好ナル成績ヲ以テ竣工検査ヲ了ヘタ

ルモノデアリマス其ノ間用地買収或ハ用水問題等ノ難關續出シ之レガ解決又ハ國費縣費ノ補助運動有力者ノ寄附勸誘等委員各位ト共ニ殆ンド晝夜ノ別ナク文字通りノ東奔西走ヲ續ケ又本市トシテハ空前ノ大事業デアリ萬一ニモ計畫ヲ誤リ工事へ蹉跌ヲ來タス様ナ事ガアツテハ到底再計畫ノ望ミハナク又斯様ナ事業ニハ何等ノ經驗ガナイノデ若シ不正事件デモ突發スル様ナ事ガアツテハナラスト人知レヌ苦慮モ重ネタモノデアリマスガ各方面ノ絶大ナル協力援助ト理解アル協調ニ依リ諸事圓滿ニ解決シ縣費補助ニ就テハ當時ノ本市選出縣會議員遠藤雜賀ノ兩氏又國費ノ補助ニ付テハ故坂口豐藏大谷誠夫ノ兩氏並ニ三好代議士等ノ多大ナル努力援助ニ依リ縣費十四萬圓國費十七萬五千圓ノ補助ヲ得又篤志家故坂口豐藏氏外二十二名並ニ四銀行五會社ヨリ六萬五千餘圓ノ巨資ノ寄附ガアリ本事業ノ經營ニ多大ナル裨益ヲ與ヘタモノデアリマシテ是等篤志家ノ美舉ト努力ハ永ク本市水道史ヲ飾ルモノデアリマシテ深ク敬意トヲ表スル次第デアリマス。

而シテ水道竣工當時ノ給水人口ハ九千三百九十人デアリマシテ一日平均配水量ハ四千四百石配水管ノ延長二萬七千米デアリマシタガ爾來市域ノ擴大ト商工業ノ殷盛ニ依ル市勢膨脹ノ結果上水道ノ需用ハ日ニ増シ現在給水人口二萬六百人一日平均一萬三千八百石配水管延長三萬七百七十米ニ達シテ居リマス水源ノ供給能力ハ一日二萬石ヲ有スルヲ以テ尙餘裕綽々トシテ水道事業所期ノ業績ヲ收メ尙豫定計畫ニ基キ擴張能力ハ更ニ一萬石ヲ保有シ上水ハ滾々トシテ盡キザルノミナラズ



水温ノ夏冷ニ冬暖カニシテ細菌聚落數ノ少ナキコトハ全國上水道中稀ニ見ルノ良水デアリマシテ本水道ノ最モ誇リトスル所デアリマス。

水道經濟ハ計畫當時昭和十二年度迄ハ毎年一般會計ヨリ一萬圓乃至二萬圓程度ノ繰入ヲ要スル豫定デアリマシタガ昭和二年度ヲ以テ一般會計ノ繰入ヲ打切り僅々三ケ年度ニ總額一萬四千五百圓ヲ基本財産ヨリ一時繰入ヲ爲シタノミデアリマシテ一般會計ノ繰入ヲ節約シタ額ハ十三萬二千餘圓ニ達シ豫想外ノ成績ヲ收メ更ニ明年度ヨリハ國庫補助金ノ年度割增收ガアリマスノデ水道償還ニ對シ相當ノ餘裕ヲ存ズルコトニナツテ居リマス尙本水道ノ持ツ防火上ノ威力ハ公私消防隊ノ活動ト相俟ツテ既往十年間ニ災禍ヲ著シク低減シ得タコトハ實ニ少クナイト信ズルノデアリマス。本水道ガ頗ル順調ナル課程ヲ辿リ市民福祉ノ増進ニ盡シツ、アルハ四萬市民諸君ト共ニ洵ニ欣喜ニ堪ヘザル所デアリマス是全ク市民諸君ガ計畫當時ヨリ此ノ大事業ニ對シ克ク協力一致努力セラレタル愛市ノ赤心ノ發露ト各方面關係者各位ノ熱烈ナル支援ノ賚デアリマシテ茲ニ滿腔ノ感謝ヲ捧グル次第デアリマス。

今茲ニ上水道創設十周年ヲ迎へ過去十ケ年間ノ經過ヲ顧ミ當時ヲ追懷シ感慨殊ニ深イモノガアリマス本日ノ記念式ヲ契機トシテ今後一層各方面ノ御援助御協力ニ依リマシテ益運營宜シキヲ期シテ市勢ノ進展ト時代ノ趨勢ニ順應シ本事業ノ使命ヲ全ウ致シタイト存ジマス以上所懷ヲ陳ベテ式

辭ト致シマス。

昭和十一年十一月二十七日

米子市長 西 尾 常 彦

祝 辭

本日ノ吉辰ヲトシテ米子市上水道十周年記念式ヲ舉行セラル、ニ際リ其ノ席末ニ參列スルヲ得タルハ洵ニ光榮トスル所ナリ。

本市上水道ハ敷設以來幸ニシテ所期ノ成果ヲ收メ爾來保健衛生上ニ防火施設上ニ將又産業ノ發展促進上ニ於テ本市及本市民ノ上ニ齎ラセル效果タルヤ實ニ絶大ナルモノアリト謂フベシ吾人ハ本日ノ盛式ニ當リ其ノ偉大ナル效果ニ對スル認識ヲ一層深カラシムルト共ニ建設以來十年計畫管理兩ナガラ其ノ宜シキヲ得テ今日ニ至ラシメタル當局各位ノ努力ニ對シ滿腔ノ感謝ヲ捧グル次第ナリ今ヤ駸々乎トシテ發展途上ニ在ル本市トシテ今後上水道ノ惠澤ニ俟ツベキモノ益多キヲ加フルモノアルノ時ニ當リ希クバ當局ニ於カセラレテハ將來之ニ對應スベキ諸施設ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ以テ益本市ノ發展ニ寄與セラレンコトヲ一言蕪辭ヲ陳ベテ祝辭ト爲ス。

昭和十一年十一月二十七日

米子商工會議所 會頭 坂 口 武 市



山野錦繡ヲ粧ヒ菊花馥郁妍ヲ競フノ好季ニ際シ水道施設十周年記念ノ祝賀式ヲ舉行セラル、ニ當リ不肖其當時町政ニ參與シ居タルノ故ヲ以テ此席末ニ列スルノ光榮ヲ得タルハ誠ニ欣快ニ堪ヘズ顧テ追想スレバ我地原來良水ニ乏シク多年ノ懸案タリシ水道モ巨額ノ負擔ハ固ヨリ堪ヘ得ル所ニアラズ國庫ノ補助ハ市ニアラザレバ交付セラレタル類例ナシトテ其恩惠ニ浴スル能ハズ荏苒焦燥ノ年ヲ過シタルガ西尾氏町長ニ就任セラレテヨリ遂ニ議ヲ決シ縣補助ノ外寄附金ト起債トニヨツテ起工スル事トシ其許可ヲ申請シタルニ其年帝都大震火災ノ爲メ審議中ノ一切ノ書類全部焼失シ政府ニ於テモ凡テノ事業ヲ中止セラレ地方起債ノ如キモ見透不能ノ状態ニ遭遇シ前途暗澹タルニ至レリ實ニ其前後ノ心痛苦惱ヲ知ルモノハ直接其衝ニ當リタルモノ、外今ヤ腦裏ニ存ズルノ人ナカリシガ而ルニ何タル天惠ゾ其後政府モ安定シ而モ町村ニ對シテモ水道補助金ヲ交付セラル、ノ新例ヲ設ケラレ米子町ニ對シ拾七萬五千圓ノ下附アル旨ノ福音ヲ得タルハ誠ニ天佑ト云フベキカ欣喜雀躍感極マツテ涕泣スルヲ禁ジ得ザリシナリ。

殊ニ町ニシテ水道補助ノ交付ヲ請ケタル我米子町ヲ嚆矢トスルニ於テヲヤ是一ニ縣上司並ニ中央有力者ノ甚大ナル御援助ト町當局及町民一致協力ノ賜ニシテ七拾萬圓ノ巨費ヲ投ジタル我町空前ノ大事業ヲ完成シテ子孫ノ生活ノ安定ヲ與ヘタル事ヲ想フ時誠ニ感慨無量歡喜湧躍押ヘ難キノ欣テ祝辭トス。

昭和十一年十一月二十七日

綿 邊 幸 四 郎

當日左の諸氏に、別記の感謝狀を贈呈した。

功勞者 遠 藤 光 徳 大 谷 誠 夫 和 田 忠 治

金澤力太郎 伊藤正文 三好榮次郎

堀江龍一郎

當時の町會議員

池口今藏 服部勝之助 西山清市

岡田竹藏 綿邊幸四郎 神邊光輝

傘井清太郎 加藤權四郎 四日市庄次郎

野坂吉五郎 落合恒雄 大原峯太郎



矢野藤十郎	安田千松	船越篤治
船倉唯衛	古原松三郎	有本松太郎
坂口武市	坂口惣五郎	佐野善市
佐藤熊藏	森脇忠男	森直太郎
關久内	砂口又吉	

感謝狀

本市上水道拾周年記念式舉行ニ際リ創設當時ノ熱誠ナル御努力ト御苦心ヲ偲ビ感謝ノ念新ナルモノアリ茲ニ謝狀ヲ贈リ敬意ヲ表ス

昭和十一年十一月二十七日

米子市長 西尾常彦

物故せられたる功勞者並ニ町會議員の諸氏には左記の通り別記の感謝狀と香花を靈前に奉呈した

功勞者	坂口豊藏	雜賀啓次郎	貝塚正
當時の町會議員			

板見恒松	富山立身	河端乙三郎
------	------	-------

田村源太郎	名島幸太郎	井澤幸市
太田善十郎	山内定次郎	山形吉三郎
後藤乙松	笹鹿久太郎	由井近藏
鹽河秀太郎	森伊兵衛	森下平八
瀬戸喜惣次	住田寅次郎	

感謝狀

本市上水道十周年記念式舉行ニ際リ創設當時ニ於ケル故人ノ熱誠ナル御努力ト御苦心ヲ偲ビ感謝ノ念新ナルモノアリ茲ニ香花ヲ靈前に捧ゲテ敬意ヲ表ス

昭和十一年十一月二十七日

米子市長 西尾常彦

遠藤市會議長より市會の議決に基き西尾市長に贈呈したる感謝狀は左の通り。

感謝狀

本市上水道十周年記念式舉行ニ際リ創設當時ノ熱誠ナル御努力ト御苦心ヲ偲ビ感謝ノ念新ナル



モノアリ市會ノ議決ニ依リ茲ニ謝狀ヲ贈リ敬意ヲ表ス

昭和十一年十一月二十七日

米子市會議長 遠藤光徳

米子市長 西尾常彦殿

公設共用栓管理人並に水道部吏員十年勤績に對する表彰狀は左記の通り。

表彰狀

- 公設共用栓 第十號管理人 京光仁平
- 同 第二號管理人 神坂善太郎
- 同 第九號管理人 清山忠七
- 同 第四三號管理人 小山市藏
- 同 第二二號管理人 清山文吉

多年共用栓管理人トシテ熱誠盡力セラレ其功勞顯著ナリ上水道十周年記念式舉行ニ際リ記念品ヲ贈呈シ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和十一年十一月二十七日

米子市長 西尾常彦

又

表彰狀

- 水道書記 山岡定一
- 水道巡視 服部倫
- 同 岩田虎次郎
- 水道監守 伊藤榮
- 水道部技工 持田助一

本市上水道開始以來忠實恪勤其功少カラズ上水道十周年記念式舉行ニ際リ金壹封ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十一年十一月二十七日

米子市長 西尾常彦



昭和拾貳年九月貳拾日印刷  
昭和拾貳年拾月拾五日發行

【非賣品】

米子市水上水道誌

編纂兼  
發行者

米子市中町

米子市役所

印刷者

米子市尾高町六八番地

今井兼文

印刷所

米子市尾高町六八番地

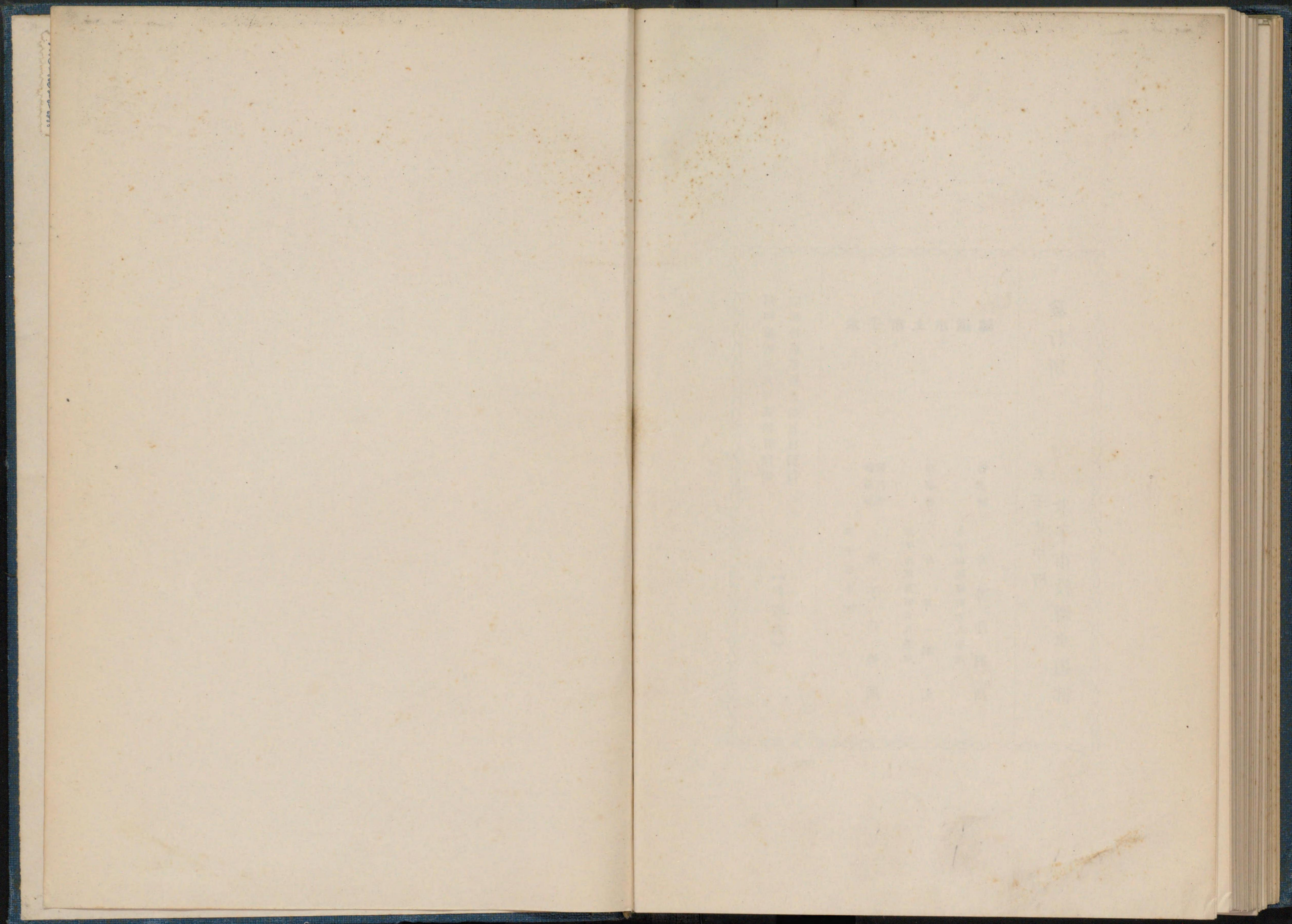
今井印刷所

發行所

米子市中町

米子市役所水道部







739  
37



